偉大な教え手
から学ぶ

「幼子たちをわたしのところに
来させなさい」。
—ルカ 18:16。

JW
.ORG
TM

Ir-J
161006

な ま え

この出版物は販売を目的としたものではありません。世界的な聖書教育活動の一環として提供されており，その活動は自発的な寄付によって支えられています。

寄付をしたいと思われる方は www.jw.org をご覧ください。

聖句は，特に注記がない限り，現代語による「新世界訳聖書 — 参照資料付き」からの引用です。

偉大な教え手から学ぶ

Learn From the Great Teacher
2016年6月印刷版

Japanese (*lr*-J)

© 2003
WATCH TOWER BIBLE AND TRACT SOCIETY OF PENNSYLVANIA

発行者
ものみの塔聖書冊子協会
Made in Japan

日本にて生産

偉大な教え手
から学ぶ

偉大な教え手
から学ぶ

「幼子たちをわたしのところに来させなさい。
止めようとしてはなりません」。
—ルカ 18:16。

・子どもは親から何を与えてもらう必要があるか・

親のみなさんは，人間が十分に理解できないあるできごとに関与しておられます。父親と母親がそれぞれ自分の体の一部を提供すると，母親の胎内で，五体そろった生きた人間が形造られてゆきます。ですから，赤ちゃんが生まれた時，人々がそのできごとを「誕生の奇跡」と呼ぶのも不思議ではありません。

もちろん，子どもをもうけたということは，親としての責任が始まったということに過ぎません。最初，人間の赤ちゃんはほぼ完全に親に依存していますが，成長するにつれて身体的な世話以上のものを必要とするようになります。精神的，感情的，道徳的，霊的な面での発達を遂げるための助けが必要になります。

健全な発達を遂げるために子どもが特に必要としているのは親の愛です。言葉で愛を表現することは大切ですが，その言葉の裏付けとなる行ないも必要です。子どもは親の良い手本を必要としているのです。子どもは道徳上の指針，つまり生活の導きとなる原則を必要とします。しかも，幼い時からずっと必要なのです。子どもに援助を与えるのが遅すぎると，痛ましい事態になりかねませんし，現にそうした事態は起きています。

聖書には，ほかのどこにも見いだせない最善の原則が示されています。聖書に基づく教えには他に類を見ない利点があります。そのような教えを通して，子どもたちは，聞かされる事柄が単なる人間の言葉ではなく，創造者であられる天の父の言葉であることを悟るようになるのです。そのことによって，助言は比類のない力を持つものになります。

聖書は，正しい原則を子どもの思いに刻み込むために精一杯努力するよう，親たちに勧めています。しかし多くの親は，子どもが成長するにつれ，最も大切な事柄について子どもと話し合うのが難しくなることに気づきます。「偉大な教え手から学

ぶ」と題するこの本は，そうした状況を未然に防ぐための助けとして作られました。この本から得られる霊的な資料を，親子で一緒に読むことができます。しかしそれだけでなく，この本は，読み聞かせる人と子どもの会話を促すに違いありません。「あなた」という部分をお子さんの名前に置き換えることもできます。

この本では，子どもが答えを述べるようになっていることにお気づきでしょう。印刷された資料にはその場にふさわしい質問が数多く設けられています。そうした質問の箇所にはダッシュ記号（—）が挿入されていますが，その記号は，少し休止して，子どもに自分の考えを述べるよう勧めるという意味です。子どもは自分も参加することを好みます。参加できないとすぐに興味を失ってしまいます。

しかし，もっと重要なこととして，そうした質問は子どもの考えを知るのに役立ちます。むろん子どもの答えが正しくない場合もあるでしょう。しかし，各々の質問に続く印刷された資料を読んでいくと，健全な考え方が身につくよう子どもを助けることができます。

この本の際立った特色は，230余りの挿絵です。たいていの挿絵にはキャプションが付いており，それを使って子どもに絵や本文から答えさせることができます。ですから，子どもと一緒に挿絵をよく見てください。それらの挿絵は教えられている事柄の要点を銘記させるすばらしい教材になります。

子どもが文字を読めるようになったら，あなたの前で，あるいは自分一人でこの本を朗読するよう励ましてください。この本を読めば読むほど，そこに記されている良い助言は子どもの思いと心にいっそう深く刻み込まれるでしょう。しかし，愛情と敬意で結ばれた親子のきずなを強めるために，ぜひともこの本を一緒に，そして定期的に読んでください。

子どもたちは，二，三十年ほど前にはおよそ想像もつかなかったようなかたちで，不義の性や心霊術など，堕落した慣行にさらされています。ですから，子どもたちを保護してあげる必要があります。この本は，率直ながら品位ある仕方で保護の手を差し伸べるのに役立ちます。しかし，子どもが特に必要としているのは，あらゆる知恵の源であられる天の父，エホバ神へと導かれることです。偉大な教え手であるイエスはいつもそのような導きをお与えになりました。あなたとご家族がエホバに喜ばれるよう生活を形作り，永遠の祝福にあずかるために，この本が役立つことを心から願っています。

・目次・

章		ページ
1	イエスが偉大な教え手だったのはなぜですか	10
2	愛にあふれた神からの手紙	16
3	すべてのものを造られた方	21
4	神にはお名前があります	26
5	『これはわたしの子です』	32
6	偉大な教え手はほかの人たちに仕えた	37
7	従順はあなたを守る	42
8	人間より高い存在	47
9	ゆうわくを退ける必要があります	52
10	イエスは悪霊より強い	57
11	神のみ使いたちの助け	62
12	イエスは祈ることを教えておられる	67
13	イエスの弟子になった人々	72
14	人を許す必要があるのはなぜですか	77
15	親切に関する教訓	82
16	ほんとうに重要なのは何ですか	87
17	どうすれば幸福になれますか	92
18	忘れずに感謝の言葉を述べますか	97
19	けんかをするのは良いことですか	102
20	一番になりたいといつも思いますか	107
21	自慢するのは正しいことですか	112
22	なぜ,うそをついてはいけないのか	117
23	人が病気になる理由	122
24	決してどろぼうしてはいけません	127

章　　ページ

25 悪いことをする人たちでも変化できますか 132
26 良いことをするのが難しいのはなぜですか 137
27 あなたの神はだれですか 142
28 だれに従ったらよいか,どうすれば分かりますか 147
29 どんなパーティーでも神に喜ばれますか 152
30 おそれに打ち勝つ助け 157
31 なぐさめはどこに見いだせますか 162
32 イエスはどのように保護されたか 167
33 イエスはわたしたちを守ることができる 172
34 人は死ぬとどうなりますか 177
35 わたしたちは死んでも生き返ります 182
36 だれが復活しますか どこに住みますか 187
37 エホバとみ子を思い起こす 192
38 イエスを愛するべきなのはなぜですか 197
39 神はみ子を覚えておられる 202
40 どうすれば神に喜んでいただけますか 207
41 神に喜ばれる子どもたち 212
42 働く必要があるのはなぜですか 217
43 わたしたちの兄弟 姉妹とはだれのことですか 222
44 神を愛する人を友達にしてください 227
45 神の王国とは何ですか その支配を望んでいることをどのように示しますか .. 232
46 世界が水によってほろびる — 再び起きますか 238
47 ハルマゲドンが近いと,どうして言えますか 244
48 神の平和な新しい世 — あなたもそこに住むことができます 250

1章

イエスが偉大な教え手だったのは なぜですか

今から2,000年以上も前に，特別な子どもが生まれました。その子は成長して，これまでで最も偉大な人になりました。そのころ，飛行機や自動車はありませんでした。テレビやコンピューターやインターネットなどもありませんでした。

その子はイエスと名づけられました。そして，これまでに地上で生活した人々のうち，いちばんかしこい人になりました。また，いちばん良い教え手になりました。イエスはいつも，難しいことを分かりやすく話しました。

イエスはどこでも，出会った人々に教えました。湖のそばで，舟の上で，家の中で，さらには旅行している時にも教えました。イエスは自動車を持っていませんでした。電車やバスで旅行したのでもありません。あちこちを歩いて，人々を教えたのです。

わたしたちはほかの人からいろいろなことを学びます。でも，偉大な教え手イエスからはいちばん大切なことを学べます。イエスの言葉は聖書に記されています。ですから，聖書にあるイエスの言葉を読むのは，ちょうどイエスがわたしたちに話しかけてくださるのを聞くようなものです。

イエスがとりわけ偉大な教え手だったのはなぜでしょう。一つの理由は，イエスもだれかに教えてもらったからです。イエスは耳をかたむけて聞くことの大切さをご存じでした。でも，だれの言うことに耳をかたむけたのでしょうか。だれがイエスを教えたのでしょう。— イエスのお父さんです。イエスのお父さんは神です。

イエスは地上に来て人間となる前，天で神と一緒に暮らしていました。です

から，ほかの人たちとはちがっていました。というのは，生まれて来る前に天で暮らしていた人はほかにいないからです。イエスは天におられた時，お父さんの言葉に耳をかたむける良い息子でした。ですから，神から学んだ事柄を人に教えることができたのです。あなたも，お父さんやお母さんの言葉に耳をかたむけることによって，イエスに見ならえます。

イエスが偉大な教え手であった別の理由は，人々を愛されたことです。イエスは，人々が神について学ぶのを助けたいと願っておられました。大人ばかりではなく，子どもたちをも愛されました。子どもたちによく話しをし，子どもたちの言うことにも耳をかたむけたので，子どもたちはイエスと一緒にいたいと思いました。

子どもたちがイエスと一緒にいたいと思ったのはなぜですか

ある日のこと，親たちがイエスのところに幼い子どもたちを連れてきました。でも，イエスの友人たちは，偉大な教え手はたいへんいそがしい方だから幼い子どもと話すひまなどないと思いました。それで，その人たちに，帰りなさいと言いました。ところがイエスは何とおっしゃいましたか。—「幼子たちをわたしのところに来させなさい。止めようとしてはなりません」とおっしゃったのです。イエスは，幼い子どもたちがそばに来る

ことを望んでおられました。イエスはとてもかしこくて，えらい人でしたが，時間を取って幼い子どもを教えました。—マルコ 10:13，14。

イエスが子どもを教え，子どもの言うことに耳をかたむけたのはなぜなのか，分かりますか。一つ言えることは，天の父である神のことを話して，子どもたちを幸福にしてあげたかったからです。では，あなたは，どうすればみんなを幸福にすることができるでしょうか。— 神について学んだ事柄を話してあげることです。

ある時イエスは，大切な教訓を友人たちにあたえるため，幼い子どもをお用いになりました。イエスはその子を連れてきて，弟子たち，つまりイエスに従う人たちの真ん中に立たせました。そして，それら大人の人たちは自分の態度を変えて，その子のようにならなければならない，と言われました。

イエスはどのような意味でそう言われたのでしょう。大人だけでなく，少し大きくなった子どもでも，小さい子のようになる必要があるのはどうしてなのか分かりますか。— 小さい子は，年上の人ほど多くのことを知らないので，進んで学ぼうとします。ですから，イエスは弟子たちに，小さい子どもたちのようにけんそんになる必要がある，と言っておられたのです。確かに，わたしたちはだれでも，ほかの人から多くのことを学べます。また，だれもが，自分の考えよりもイエスの教えのほうが大切であることを知らなくてはなりません。—マタイ 18:1-5。

イエスがとりわけ偉大な教え手であるもう一つの理由は，人々の興味を引くにはどうしたらよいかをご存じだったことです。イエスの説明は分かりやすくて，はっきりしていました。人々が神について理解できるように，鳥や花など，身の回りにあるものについて話しました。

少し大きくなった子どもや大人は，小さい子から何を学べますか

イエスは，鳥や花について話して，どんな教訓をおあたえになりましたか

ある日，イエスが山の中ほどにいると，おおぜいの人がやって来ました。イエスはこの絵にあるように，腰を下ろして，人々に教訓となる話をしました。その話は山上の垂訓と呼ばれています。イエスはこのように言われました。『空の鳥を見なさい。鳥は種をまいたり，食べ物を倉庫にたくわえたりはしません。でも，天の神は鳥を養っておられます。あなた方はそれらより価値のあるものではありませんか』。

イエスはまた，次のように話されました。『野のゆりから教訓を得なさい。野のゆりは働かないのに，育ちます。しかも，なんと美しいのでしょう。裕福なソロモン王でさえ，野のゆりほど美しく装ってはいませんでした。では，神が，育っていく草花の世話をしてくださるなら，あなた方の世話もしてくださるのではないでしょうか』。—マタイ 6:25-33。

イエスがどんな教訓をあたえておられたか分かりますか。— 食べ物や着る物をどのようにして得たらよいかについて心配しないようにと言っておられたので

す。人間にはそういうものがぜんぶ必要なことを神はご存じです。イエスは，食べ物や着る物を得るために働かなくてもよいと言っておられたのではありません。神を第一にしなくてはならない，と言っておられたのです。そうすれば，神は必ず，食べ物や着る物があるようにしてくださいます。そのことを信じますか。—

イエスが話し終えた時，人々はどう思いましたか。— その教え方におどろいた，と聖書は述べています。イエスの話に耳をかたむけるのはたいへん興味深いことだったのです。イエスの語った事柄は，人々が正しいことを行なうための助けになりました。—マタイ 7:28。

ですから，イエスから学ぶのはとても大切なことです。どうしたらそうできるか分かりますか。— イエスの言葉は，ある本の中に書き記されていますね。何という本か分かりますか。— 聖書です。それで，聖書を読み，そこに書かれている事柄に注意をはらうなら，イエスの言葉に耳をかたむけることができます。神ご自身もイエスの言葉に耳をかたむけなさいと人間にお命じになりました。聖書には，その時の，わくわくするような話がのっています。どんなことが起きたのか，調べてみましょう。

ある日イエスは，3人の友人を山に連れて行きました。ヤコブとヨハネとペテロという名の友人たちです。この3人のことは，後でいろいろ学びます。3人ともイエスの親しい友人だったからです。さて，その特別な時に，イエスの顔は明るくかがやき始め，着ていた服も，この絵にあるように，光のようにまばゆくなりました。

そのあと，イエスと友人たちは，天から次のように言う声を聞きました。『これはわたしの子，わたしの愛する者である。わたしはこの者をよいと認めた。この者に聴き従いなさい』。（マタイ 17:1-5）だれの声だったか分かりますか。— なんと，神の声でした。わたしの子に聴き従いなさい，と3人にお命じになったのは神でした。

今のわたしたちは，どうでしょうか。神がお命じになったように，み子である偉大な教え手に聴き従うでしょうか。— わたしたちはみんな，そうしなければなりません。どうすればそうできるか，覚えていますか。—

そうですね。聖書にのっているイエスの生涯の記録を読むことによって，神のみ子に聴き従うことができます。偉大な教え手は，すばらしい事柄をたくさん話してくださる方です。聖書に書いてあることを読めば，そのような事柄を楽しく学べます。また，学んだ良いことを友達に話してあげるなら，幸福になれます。

イエスの言葉に耳をかたむけるならどんな良いことがあるかをもっと考えるため，聖書を開いて次の聖句を読んでください。ヨハネ 3:16; 8:28-30。使徒 4:12。

2章

愛にあふれた神からの手紙

あなたはどの本がいちばん好きですか。— 動物の本，と言う子もいれば，さし絵のたくさんある本，と言う子もいるでしょう。そういう本を読むのは楽しいものです。

でも，世界中の本の中でとくにためになるのは，神に関する真理を教える本です。中でも，ある1冊の本は他のどれよりも貴重です。どの本か分かりますか。— 聖書です。

聖書はなぜそんなに大切なのでしょう。— なぜなら，それは神がくださったものだからです。聖書は神について，また神がわたしたちのために行なおうとしておられる良い事柄について述べています。そして，神に喜んでいただくには何をしたらよいかということも教えています。聖書は神からの手紙のようなものです。

さて，神は，聖書全体を天で書いてから人間にあたえることもできましたが，そうなさいませんでした。書かれているのは神のお考えですが，神は地上のしもべたちを用いて聖書のほとんどを書かせたのです。

神はどのようにして書かせたのでしょうか。— そのことを理解するために，こう考えてみましょう。ラジオを聞いていると，遠くにいる人の声が流れてきます。テレビでは，ほかの国の人々の姿も見ることができ，その人たちの話す言葉も聞こえます。

人間は宇宙船に乗って，はるばる月まで飛んで行き，月から地球に何かを知らせることさえできます。知っていましたか。— 人間にそれができるのであれば，神が天から何かを知らせることもできるのではないでしょうか。— もちろん，できます。しかも神は，人間がラジオやテレビを使うようになるずっと前にそのことを行なわれました。

神が話すのを実際に聞いた人にモーセがいます。モーセは神を見ることはできませんでしたが，神の声を聞くことができました。そのことが起きた時，幾百万もの人々がちょうど近くにいました。その日，一つの山全体が神によってゆり動かされ，かみなりと稲妻が生じました。人々は，神がお話しになったということを知りましたが，非常におそれました。それで，モーセに，「神がわたしたちに話されることのないようにしてください。そうしないとわたしたちは死んでしまいます」と言いました。のちにモーセは，神が話されたことを書き記しました。それは聖書に収められています。—出エジプト記 20:18-21。

モーセは聖書の最初の五つの本を書きました。でも，聖書を書いたのはモーセだけではありません。神は約40人の人々を用いて，それぞれに聖書の一部を

はるか遠くにおられる神がわたしたちに話すことができると，どうして言えますか

書かせました。その人たちは遠い遠い昔の人で，聖書を書き終えるのに長い年月がかかりました。1,600年ほどかかったのです！ 聖書を書いた人の中には，たがいの顔をいちども見たことがない人たちもいました。それなのに，書いてあることがみなぴったり一致しているのは，おどろくべきことです。

聖書を書くため神に用いられた人の中には，名前のよく知られた人がいました。モーセは羊飼いでしたが，イスラエル国民の指導者になりましたし，ソロモンは世界一かしこくて裕福な王でした。一方，あまり知られていない人もいました。アモスはいちじくの木の世話をしていた人です。

さらに，お医者さんもいました。その人の名前を知っていますか。— ルカです。収税人，つまり税金を集める人もいました。マタイという人です。それから，ユダヤ教の律法にくわしい法律家もいました。その人は聖書の中の本をほかのだれよりも多く書きました。その人の名前を知っていますか。— パウロです。また，イエスの弟子になった漁師のペテロとヨハネも聖書を書きました。

聖書を書いたこのような人の多くは，神が後の時代に行なおうとしておられたことを書き記しました。でも，まだ起きてもいないことがどうして分かったのでしょうか。— 神がそれらの人にいろいろなことを知らせたのです。神はどんなことが起こるかをお告げになりました。

偉大な教え手であるイエスが地上にいた時には，聖書のかなりの部分が書き終えられていました。でも，偉大な教え手が以前，天にいたことを思い出してください。神の行なわれたことを知っていたわけです。イエスは聖書が神からのものであると信じていたでしょうか。— 確かに，信じていました。

イエスは神の行なわれたことについて人々に話すさい，聖書の言葉を読みました。時には聖書の言葉を，そらで言うこともありました。イエスはまた，神からのほかの情報も人間に伝えました。『わたしは神から聞いたこと，それを世で話しているのです』と語っています。（ヨハネ 8:26）イエスは神と一緒に暮らしておられたので，多くのことを神から聞いていました。イエスが話した事柄は，どこ

に書かれていますか。— 聖書の中です。それらはみな，わたしたちが読めるように書き記されたのです。

神が人々を用いて書かせた時，それらの人はもちろん，ふだん使っていた言葉で書きました。それで，聖書の半分以上はヘブライ語で，ある部分はアラム語で，いくらかはギリシャ語で書かれています。今日，たいていの人はそういう言葉の読み方を知りません。そのため聖書は，他のいくつもの言葉に直されてきました。今では，聖書の全体か一部を2,260以上の言葉で読むことができます。その数について考えてみてください。聖書はあらゆる場所の人々に対する神からの手紙です。どんなに多くの言葉に直されても，聖書が伝えていることは神からのものなのです。

聖書には，わたしたちにとって大切なことが記されています。聖書は遠い昔に書かれましたが，今日起きている事柄について述べているのです。また，近い将来

どんな名前の人たちが聖書を書きましたか

に神が行なおうとしている事柄をも告げています。聖書は胸がわくわくするようなことを述べています。すばらしい希望をあたえてくれる本です。

聖書は，神がわたしたちに望んでおられる生き方についても述べています。何が正しく，何がまちがいかも教えています。それは，あなたもわたしも知る必要のあることです。それから，悪いことをした人たちや，その人たちがどうなったかについても述べています。ですから，わたしたちは，悪いことをした人たちが味わった苦しみをさけることができます。また，正しいことをした人たちや，その人たちにもたらされた良い結果についても述べています。こうした事柄はすべて，わたしたちの益のために書き記されました。

聖書を読むと，どんなことが学べますか

しかし，聖書から最大の益を得るには，ある質問の答えを知っていることが必要です。聖書はだれからあたえられたものか，という質問です。あなたはどう答えますか。— そうです，聖書全体は神からのものです。では，自分がほんとうにかしこいことをどうすれば示せるでしょうか。— 神の言葉に耳をかたむけ，神の言われることを行なうことによってです。

ですから，わたしたちは時間をかけて，一緒に聖書を読まなければなりません。大好きな人から手紙をもらったなら，それを何度も読み返しますね。その手紙は，わたしたちにとって大切なものです。聖書をそのようなものと考えるようにしましょう。なぜなら，それはわたしたちを深く愛しておられる方からの手紙だからです。聖書は愛にあふれた神からの手紙なのです。

ここでもう少し時間を取って，次の聖句を読んでください。聖書がほんとうに，わたしたちの益のために書き記された神の言葉であることを示す聖句です。ローマ 15:4。テモテ第二 3:16，17。ペテロ第二 1:20，21。

3章

すべてのものを造られた方

わたしはすばらしいことを知っています。それを聞きたいと思いますか。— 自分の手を見てください。指を曲げてみましょう。今度は，何かをつまんでみましょう。手は多くのことを，しかも上手に行なえますね。だれが手を造ったのか知っていますか。—

生きているものすべてを造ったのはだれですか

そうです，口や鼻や目を造ったのと同じ方です。それは神です。偉大な教え手のお父さんです。神が目をあたえてくださったことをうれしく思いませんか。— 目があるので，いろいろなものを見ることができますね。花や，緑色の草や青い空を見ることができます。この絵にあるような，おなかをすかせたひな鳥を見ることもできるでしょう。こういうものを見ることができるのは，ほんとうにすばらしいことではないでしょうか。—

でも，それらのものを造ったのは，だれでしょうか。人間が造ったのでしょうか。そうではありません。人間は家を造ることはできても，生えてくる草を造ることは決してできません。人間は，ひな鳥も花も，ほかのどんな生き物も造れません。そのことを知っていましたか。—

これらのものすべてを造られたのは神です。神は天と地を造り，人々をもお造りになりました。神は最初の男と女を創造されたのです。偉大な教え手であるイエスは，そのように教えてくださいました。—マタイ 19:4-6。

神が男と女をお造りになったことを，イエスはどうして知ったのでしょうか。神

家はだれかが造ったものです。
では，花や木や動物を造ったのはだれですか

がお造りになるのを見たのでしょうか。— そうです，見ておられたのです。神が男と女をお造りになった時，イエスは神とともにおられました。イエスは神が最初にお造りになった方でした。イエスはみ使いでしたから，天でお父さんと一緒に住んでいました。

聖書によると，神は『一緒に人間を造ろう』とおっしゃいました。（創世記 1：26）神がだれに話しておられたか分かりますか。— ご自分の息子です。それは，地上に来て，イエスとなった方です。

そう聞くと，胸がわくわくしませんか。イエスの言葉に耳をかたむけるとはどういうことなのかを考えてください。わたしたちは，神が地球とほかのすべてのものをお造りになった時，神のそばにいた方から教わっていることになるのです。イエスは天でお父さんと働いて，たくさんのことを学びました。イエスが偉大な教え手であるのも不思議ではありません。

み子をお造りになる前，神はおひとりだったので，幸福ではなかった，と思いま

すか。— いいえ,そういうことはありませんでした。それなら,なぜほかの生き物をお造りになったのでしょうか。— そうなさったのは,愛の神だからです。ほかのものも生きて生活を楽しんでほしいと思われたのです。わたしたちは,命をあたえてくださったことを神に感謝しなければなりません。

神が行なわれたどんなことにも,神の愛が表われています。神は太陽をお造りになりました。太陽は光をあたえてくれますし,暖かくしてくれます。もし太陽がなければ,何もかも冷たくて,地上には命というものがなかったでしょう。神が太陽を造ってくださって,ほんとうによかったと思いませんか。—

また,神は雨を降らせてくださいます。雨が降ると外で遊べないので,雨はいやだと思うときもあるかもしれません。でも,花が育つのは雨のおかげなのです。では,きれいな花を見たら,だれに感謝しますか。— 神ですね。おいしい果物や野菜を食べるときには,だれに感謝を述べたらよいでしょうか。— いろいろなものが育つのは,太陽や雨のおかげですから,神に感謝しなければなりません。

もしもだれかから,『神は人間や動物も造ったのですか』と聞かれたら,何と答えますか。—「はい,神は人間や動物もお造りになりました」と答えるのは正しいことです。でも,神がほんとうに人間を造ったということを信じない人がいたらどうでしょうか。その人が,人間は動物から生じたと言ったらどうでしょうか。聖書はそのように教えてはいません。聖書は,神が生き物すべてを創造なさったと述べています。—創世記 1:26-31。

しかし,わたしは神を信じない,と言う人がいるかもしれません。そのとき,どう答えますか。— 家を指さして,「あの家を造ったのはだれですか」とたずねてはどうですか。だれかがその家を造ったということは,どんな人も知っています。家がひとりでにできるはずはありませんね。—ヘブライ 3:4。

それから,その人を庭に連れて行って,花を見せてあげましょう。そして,「これを造ったのはだれですか」と聞いてみてください。花を造った人

間はいません。家がひとりでにできたのでないのと同じように，その花もひとりでにできたのではありません。だれかがそれを造りました。神がお造りになったのです。

また，その人に，ちょっと鳥の鳴き声を聞いてもらいましょう。それから，「鳥を造って，鳴き方を教えたのはだれですか」とたずねてみてください。神がそれをなさいました。天と地と，すべての生き物をお造りになったのは神です。神は命をあたえる方です。

でも，中には，見えるものだけを信じる，と言う人がいるかもしれません。その人は，『見えないものは信じない』と言うかもしれません。ですから，ある人たちは，神は見えないから信じない，と言います。

確かに，人間は神を見ることができません。聖書は，『だれも神を見ることはできない』と述べています。地上の人間はだれも，男の人も女の人も，子どもも，神を見ることができません。ですから，神の絵をかこうとしたり，神の像を作ろうとしたりしてはなりません。神も，ご自分の像を作ってはならない，と述べておられます。ですから，そのようなものを家の中に置いておくと，神に喜んでいただくことはできません。—出エジプト記 20:4，5；33:20。ヨハネ 1:18。

それにしても，神を見ることができないとすれば，神がほんとうにおられるということはどうして分かるのでしょうか。では，次のことを考えてみてください。風は見えますか。— 見えませんね。だれも風を見ることはできません。でも，風の働きは見えます。風が木の枝の間をふきぬけるとき，葉が動くのを見ることができます。それで，風があるということが分かります。

神の行なわれた事柄も目で見ることができます。生きた花や鳥を見るとき，神のお造りになったものを見ているのです。それで，神がほんとうにいらっしゃるということが分かります。

『太陽や地球を造ったのはだれですか』と聞かれることがあるかもしれません。聖書は，「神は天と地を創造された」と述べています。（創世記 1:1）神はこ

のようなすばらしいものすべてを造ってくださったのです。そのことをどう感じますか。—

生きているのはすばらしいことではありませんか。鳥の美しいさえずりを聞くことができます。神のお造りになった花やそのほかのものを見ることができます。また，神があたえてくださった食物を食べることができます。

わたしたちは，それらすべてのものを神に感謝しなければなりません。とりわけ，命をあたえてくださったことを神に感謝しなければなりません。神に心から感謝している人は，何かをするようになるでしょう。どんなことをしますか。— 神の言葉に耳をかたむけ，神が聖書の中で命令しておられる事柄を行ないます。そうすれば，すべてのものをお造りになった方に対する愛を表わすことができます。

わたしたちは，神が行なわれたことすべてに対して，神に感謝しなければなりません。どのように感謝しますか。次の聖句に書いてあることを読んでください。詩編 139:14。ヨハネ 4:23，24。ヨハネ第一 5:21。啓示 4:11。

風があることは
どうして分かりますか

4章

神にはお名前があります

だれかに初めて会った時，ふつうは何を最初にたずねますか。— その人の名前をたずねますね。だれにでも名前があります。神は地上の最初の人間に名前をつけました。アダムという名前です。アダムの妻はエバと名づけられました。

しかし，名前があるのは人間だけではありません。ほかにもどんなものに名前があるか，考えてみましょう。だれかからお人形やかわいい動物をもらったら，名前をつけますね。— 名前があるのは，とても大切なことです。

夜，空を見上げてごらんなさい。たくさんの星が見えます。星には名前があると思いますか。— あるのです。神は空の星の一つ一つに，名前をおつけになりました。聖書にはこう書かれています。「神は星の数を数えておられ，そのすべてを各々の名で呼ばれる」。—詩編 147:4。

宇宙全体でいちばん重要な方はだれだと思いますか。— そうです，神ですね。神にはお名前があると思いますか。— イエスは，神には名前があるとおっしゃいました。ある時，イエスは神への祈りの中で，こう言いました。『わたしは，わたしに従う人々に，あなたのお名前を知らせました』。（ヨハネ 17:26）あなたは神の名前を知っていますか。— 神ご自身がわたしたちに名前を教えておられます。「わたしはエホバである。それがわたしの名である」と，言っておられるのです。ですから，神のお名前はエホバです。—イザヤ 42:8。

ほかの人があなたの名前を覚えていてくれたら，どう思いますか。— うれしいですね。— エホバも，人々にご自分の名前を知ってもらいたいと思っておられます。ですから，神について話すとき，エホバという名前を用いなくてはなりません。偉大な教え手は，人々に話すとき，エホバという，神のお名前を用いました。ある時，イエスは，『あなたは，心をこめてあなたの神エホバを愛さねばならない』と

おっしゃいました。—マルコ 12:30。

「エホバ」というのはとても大切な名前であることを，イエスは知っていました。そこで，ご自分に従う人々に，神のお名前を用いることを教えました。さらに，神のお名前について祈るよう教えました。神はすべての人にエホバという名前を知ってほしいと考えておられます。イエスはそのことをご存じでした。

昔，神はモーセという人に，ご自分の名前が大切であることを教えました。モーセはイスラエルの子孫の一人でした。イスラエルの子孫はイスラエル人と呼ばれ，エジプトという国に住んでいました。その国の人はエジプト人と呼ばれていました。エジプト人はイスラエル人をどれいにして，ひどくいじめました。モーセは，大人になってから，ひとりのイスラエル人を助けようとしました。エジプトの王ファラオはそのことに腹を立て，モーセを殺そうと考えました。そこで，モーセはエジプトからにげます。

モーセは別のところへ行きました。ミディアンの地です。モーセはそこで結婚し，子どもをもうけました。また，羊飼いとして働きました。ある

すべての星に名前があることを知っていましたか

日，山の近くでいそがしく羊の世話をしていたモーセは，不思議なものを見ました。いばらのしげみが燃えているのに，燃えつきてしまわないのです。モーセは，よく見ようとして近寄りました。

それからどうなったでしょうか。— その燃えるいばらのしげみの中から名前を呼ぶ声がしました。「モーセ，モーセよ」と大きな声で呼んでいます。だれが話していたのでしょうか。— 神です。神には，モーセにしてもらいたい仕事がたくさんありました。こう言っておられます。『さあ，わたしはあなたをエジプトの王ファラオのもとにつかわそう。あなたは，わたしの民であるイスラエルの子らをエジプトから導き出すのである』。神はモーセに，この仕事を助けてあげる，と約束されます。

ところが，モーセは神にこう言います。『わたしが，エジプトにいるイスラエルの子孫のところに行って，神がわたしをつかわされたと言うとしても，人々が，「神の名前は何というのか」と聞いたら，何と答えればよいでしょうか』。神は，イスラエルの子孫にこう話すようモーセに言いました。『エホバがわたしをあなた方のもとにつかわされました。エホバというのが，永遠の名前です』。（出エジプト記 3：1-15）このことから分かるように，神はいつまでもエホバという名前でいたいと

モーセは燃えるいばらのしげみで，どんな大切なことを学びましたか

考えておられました。その名前を変えることは決してないでしょう。永遠にエホバという名前で知られることを望んでおられました。

モーセがエジプトにもどった時，エジプト人は，エホバをイスラエル人のちっぽけな神にすぎないと考えました。エホバが全地の神であるとは考えなかったのです。そこで，エホバはエジプトの王に，『わたしは，わたしの名前を全地に知らせよう』と言われました。（出エジプト記 9:16）エホバは確かに，ご自分の名前を知らせました。どのようにしてそうされたか，知っていますか。—

神はモーセを用いて，イスラエルの人々がエジプトから出られるようにしました。かれらが紅海にやって来ると，エホバはその海を通りぬけるまっすぐなかわいた道をお造りになります。イスラエル人はかわいた地面を歩いて無事に海をわたり終えます。しかし，ファラオとその軍隊全体がそのかわいた海の底に入ると，それまで道の両側にとどめられていた水がくずれ落ち，エジプト人は一人残らず死んでしまいました。

やがて全地の人々は，エホバが紅海で行なわれたことをうわさで聞くようになりました。全地の人々が聞いたとどうして分かるのでしょう。— それから40年ほどたって，イスラエル人はカナンにやって来ます。カナンというのは，エホバがイスラエル人にあたえると約束しておられた土地です。その土地で，ラハブという若い女の人

神は紅海でどんなことを行なって，ご自分の名前をお知らせになりましたか

が，二人のイスラエル人に，『わたしたちは，あなた方がエジプトを出た時エホバがあなた方の前から紅海の水を干されたことを聞きました』と言ったのです。—ヨシュア 2:10。

今日の多くの人は，その時代のエジプト人とよく似ていて，エホバが全地の神であることを信じていません。ですからエホバは，ご自分の民が，ご自分について人々に知らせることを願っておられます。イエスはそうされました。地上での生活の終わりごろ，エホバに祈った時，『わたしはお名前をかれらに知らせました』と言いました。—ヨハネ 17:26。

あなたは，イエスのように

イエスは神のお名前を知らせました。
あなたは神のお名前が聖書のどこに出ているか示せますか

なりたいと思いますか。では，神のお名前はエホバであるということを，みんなに知らせてください。そのことを知らない人が多いことに気づくかもしれません。そういうときは，聖書の詩編 83編18節の聖句を教えてあげることができるでしょう。では，聖書を開いて，一緒にその聖句を見つけましょう。そこには，こう書かれています。「それは，人々が，その名をエホバというあなたが，ただあなただけが全地を治める至高者であることを知るためです」。

この聖句を読んで，どんなことが分かりますか。— エホバという名がいちばん大切だということです。それは，全能の神のお名前です。イエスのお父さん，すべてのものを造られた方のお名前です。それからこのことも思い出してください。わたしたちは心をこめてエホバを愛さなければならない，とイエスは言われましたね。あなたはエホバを愛していますか。—

どうすれば，エホバを愛していることを示せるでしょうか。— 一つの方法は，エホバを友達のようによく知ることです。もう一つの方法は，神のお名前をみんなに話すことです。神のお名前がエホバであることは聖書を開いて見せてあげることができます。また，エホバがお造りになったすばらしいものや，エホバが行なった良い事柄について話せます。そうすれば，エホバはとても喜んでくださいます。なぜなら，ご自分のことをみんなに知ってもらいたいと思っているからです。わたしたちも，エホバのことを知らせる活動に参加できますね。—

わたしたちがエホバについて話そうとしても，聞きたがらない人はいるでしょう。偉大な教え手であるイエスがエホバについて話した時でさえ，多くの人は聞こうとしませんでした。でも，だからといって，イエスはエホバについて話すのをやめませんでした。

ですから，イエスを見ならいましょう。エホバについて話すのをやめないようにしましょう。そのようにして，エホバのお名前を愛していることを示すなら，エホバ神はわたしたちのことを喜んでくださるでしょう。

神のお名前の大切さを示す聖句をもう少し聖書から一緒に読みましょう。イザヤ 12:4，5。マタイ 6:9。ヨハネ 17:6。ローマ 10:13。

5章

『これはわたしの子です』

子どもが良いことをすると，その子を育てている人はうれしくなります。女の子が上手に何かを行なえば，お父さんは喜んで，「これはわたしのむすめです」とみんなに言えます。また，男の子が良いことをすると，お父さんはうれしそうに，「これはわたしの息子です」と言います。

イエスはいつも，お父さんに喜ばれることを行ないます。ですから，イエスのお父さんは，イエスをほこりに思っておられます。ある日，イエスが3人の弟子たちと一緒にいた時に，イエスのお父さんが何をなさったか，覚えていますか。— そうです。神は遠い天からその人たちに語りかけて，『これはわたしの子，わたしの愛する者である。わたしはこの者をよいと認めた』と言われました。—マタイ 17:5。

イエスはいつでも，お父さんの喜ぶことを自分から進んで行ないます。なぜか分かりますか。お父さんをほんとうに愛しているからです。しなければならないから行なうというだけでは，たいへんなことに思えます。でも，進んで行なう気持ちがあると，楽にできます。進んで行なう気持ちがあるとはどういうことか分かりますか。— 何かを行ないたいとほんとうに思っていることです。

イエスは地上に来る前でさえ，お父さんにたのまれたことを何でも進んで行ないました。お父さんであるエホバ神を愛していたからです。イエスは，お父さんと一緒に天のすばらしいところにいました。ところが神は，ある特別な仕事をイエスに行なわせるつもりでした。その仕事をするために，イエスは天を去らなければなりません。地上で赤ちゃんとして生まれなければなりません。でもイエスは進んでそうしました。そうすることをエホバが望んでおられたからです。

イエスが赤ちゃんとして地上で生まれるためには，お母さんがいなければなりません。イエスのお母さんはだれか知っていますか。— マリアという人です。エホバはみ使いガブリエルを天からつかわして，マリアと話しをさせました。ガブリ

『これはわたしの子です』

み使いガブリエルは
マリアに何を告げましたか

エルはマリアに，あなたは男の赤ちゃんを産むでしょう，と告げました。その赤ちゃんはイエスと名づけられます。では，赤ちゃんのお父さんはだれですか。— み使いが述べたように，それはエホバ神です。ですから，イエスは神の子と呼ばれます。

マリアはこのことをどう感じたと思いますか。— マリアは，「イエスのお母さんになるのはいやです」と言ったでしょうか。いいえ，マリアは，神が望んでおられることなら喜んで行ないたいと思いました。しかし，いったいどうしたら，天にいる神のみ子が赤ちゃんとして地上に誕生するのでしょうか。イエスの誕生は，ほかのどの赤ちゃんともちがっていました。どこがちがっていたか，知っていますか。—

神は，人間の最初の親であるアダムとエバが，すばらしい仕方で一緒になれるように，二人をお造りになりました。二人が一緒になると，赤ちゃんがお母さんの体の中で育ちはじめます。これは奇跡だ，と人々は言います。あなたも，きっとそう思いますよ。

神はそれよりもはるかにすばらしい奇跡を行なわれました。み子の命を天からマリアの体の中に移されたのです。神がそのようなことを行なわれたのは，後にも先にもその時だけです。その奇跡によって，イエスは，ほかの赤ちゃんと同じように，お母さんの中で，つまりマリアの体の中で育ちはじめました。それからマリアはヨセフと結婚しました。

イエスが生まれる時になりました。その時マリアとヨセフは，ベツレヘムという都市に来ていました。でも，ベツレヘムは人でいっぱいでした。マリアとヨセフは，

部屋が一つもなかったので，動物が飼われている場所でねむらなければなりませんでした。マリアはそこでイエスを産みます。それでイエスは，この絵にあるように，飼い葉おけの中に置かれました。飼い葉おけというのは，牛など動物のえさを入れるものです。

イエスが飼い葉おけの中に置かれるのはなぜですか

イエスが生まれた夜，わくわくするようなことが起こりました。ベツレヘムの近くで，ひとりのみ使いが羊飼いたちに現われたのです。そして，イエスが重要な方であるということを知らせました。こう述べています。『見よ，わたしは，人々を幸福にする良いたよりをあなた方に告げます。人々を救う方が今日生まれました』。—ルカ 2:10, 11。

み使いは羊飼いに，ベツレヘムに行けば，飼い葉おけの中にねかされたイエスが見つかるでしょう，と言いました。それから，とつぜん，天のほかのみ使いたちがそのみ使いと一緒になって神を賛美しました。み使いたちは，「栄光が神に，地上

これらのみ使いのひとりは，どんな良いたよりを羊飼いたちに伝えましたか

では平和が善意の人々の間にあるように」と歌いました。—ルカ 2:12-14。

み使いたちが去ると，羊飼いたちはベツレヘムに行ってイエスを見つけました。そして，自分たちが聞いた良い事柄を一つ残らずヨセフとマリアに話しました。マリアは自分が進んでイエスのお母さんになったことをどれほど幸せに感じたか，想像できますか。

そののち，ヨセフとマリアはイエスをナザレという都市に連れて行きました。イエスはそこで育ちました。大人になったイエスは，人を教えるという大きな仕事を始めました。それは，エホバ神が，み子に地上で行なわせたいと思っていた仕事の一つでした。イエスは，天の父をとても愛していたので，その仕事を進んで行ないました。

イエスは,偉大な教え手としての仕事を始める前に,ヨルダン川でバプテストのヨハネからバプテスマを受けました。その時,おどろくようなことが起こりました。イエスが水から上がってくると,エホバが天から話し,こうおっしゃったのです。『これはわたしの子,わたしの愛する者である。この者をわたしはよいと認めた』。(マタイ 3:17) お父さんとお母さんから愛していると言われたら,うれしくなりませんか。イエスもきっと,うれしく思ったにちがいありません。

イエスはいつも,正しいことを行ないました。ほかのだれかになりすますようなことはありませんでした。自分は神である,とは言いませんでした。み使いガブリエルはマリアに,イエスは神の子と呼ばれると告げていました。イエスも,自分は神の子である,と言いました。また,お父さんよりも自分のほうがいろいろよく知っている,とは言いませんでした。イエスは,『父はわたしより偉大な方です』と言いました。—ヨハネ 14:28。

天にいた時も,イエスはお父さんから仕事をあたえられると,それを行ないました。やります,と言っておきながら,何かほかのことをするようなことはありませんでした。イエスはお父さんを愛していましたから,何でもお父さんの言うことを聞きました。のちになって地上につかわされた時も,天の父が地上で行なわせたいと思っていることを行ないました。ほかのことをして時間を過ごしたりはしませんでした。エホバがみ子のことを喜んでおられるのも不思議ではありません。

わたしたちもエホバに喜んでいただきたいと思っていますね。— では,イエスのように,神の言われる事柄に心から耳をかたむけるという態度を示さなければなりません。神は聖書を通してわたしたちに話しかけておられます。神の言われる事柄に耳をかたむけるふりをしながら,聖書に反することを信じたり,行なったりするのは正しいことでしょうか。— それから,このことも忘れないでください。エホバをほんとうに愛していると,エホバにぜひ喜んでいただきたい,と思うようになるのです。

イエスについてどんなことを知り,どんなことを信じる必要があるかを示すほかの聖句を読んでください。次のような聖句があります。マタイ 7:21-23。ヨハネ 4:25, 26。テモテ第一 2:5, 6。

6章

偉大な教え手は ほかの人たちに仕えた

だれかから親切にしてもらうのは好きですか。— ほかの人たちも，だれかから親切にしてもらうのは好きです。みんな同じです。偉大な教え手はそのことをご存じだったので，いつも，人のためになることをしていました。そして，『わたしは，仕えてもらうためではなく，仕えるために来たのです』とおっしゃいました。—マタイ 20:28。

では，偉大な教え手のようになりたいなら，何をしなければなりませんか。— ほかの人たちに仕えなければなりません。人の役に立つことをしなければなりません。もちろん，そうしない人はおおぜいいます。それどころか，たいていの人はいつもほかの人に仕えてもらいたいと思っています。イエスに従っていた人たちでさえ，そう思っていたことがありました。どの人も，いちばんえらくなりたい，いちばん重要な人になりたいと思ったのです。

イエスの弟子たちは何について言い争っていますか

ある日，イエスは弟子たちと一緒に旅をしていました。一行は，ガリラヤの海のそばのカペルナウムという都市に行き，一軒の家の中に入りました。その家でイエスは弟子たちに，『あなた方は途中で何を言い争っていたのですか』とお聞きになりました。弟子たちはだまっていました。途中で，だれのほうがえらいかと，言い争っていたからです。—マルコ 9:33，34。

どの弟子であっても，自分はみんなよりもえらいと考えるのは良くないことをイエスは知っていました。それで，この本の最初の章で学んだように，弟子たちの真ん中に幼い子どもを立たせ，この小さな子のようにけんそんでなければならない，とおっしゃいました。それでも，弟子たちには分かりませんでした。ですからイエスは，亡くなる少し前に，決して忘れられない教訓を弟子たちにあたえました。何をなさったのでしょう。—

みんなで食事をしていた時のことです。イエスは，席から立ち上がると上着をぬぎ，布切れを取って腰に巻きました。それから，洗面器を手に取って水を入れました。イエスに従っていた人たちは，いったいイエスは何をするのだろうと思ったにちがいありません。弟子たちが見守っていると，イエスは一人一人のところに行って腰をかがめ，足を洗い，布切れでふき始めました。ちょっと考えてみてください。もし自分がそこにいたとしたら，どうでしょうか。どう感じたと思いますか。—

イエスに従っていた人たちは，偉大な教え手がそのように自分たちに仕えるのはまちがっていると思って，困ってしまいました。ペテロは，そんないやしいことをイエスにさせるわけにはいかない，と考えたほどです。でも，イエスは，わたしがそうするのは大切なことです，と言われました。

今はふつう，たがいに足を洗い合うことはしません。しかし，イエスが地上にいたころは，そうしていました。なぜか分かりますか。— イエスとイエスに従う人たちが住んでいた国では，素足にサンダルをはきました。ですから，舗装していない道を歩くと，足はほこりだらけになりました。それで，家に入って来た人のよごれた足を洗うのは親切な行ないでした。

ところが，この時は，イエスの弟子の中で，他の人の足を洗うことを申し出た人は一人もいませんでした。それで，イエスご自身がなさったのです。こうしてイエスは，ご自分に従う人々に大切な教訓をあたえました。弟子たちはその教訓を学ぶ必要がありました。今日のわたしたちも学ぶ必要があります。

それはどんな教訓か，知っていますか。— イエスは再び上着を着て食卓につ

いてから，こう説明なさいました。『わたしがあなた方にしたことが分かりますか。あなた方はわたしを，「先生」，また「主」と呼びます。そう言うのは正しいことです。わたしはそのような者だからです。それで，わたしが，主また先生でありながらあなた方の足を洗ったのであれば，あなた方もたがいに足を洗い合うべきです』。—ヨハネ 13:2-14。

偉大な教え手はここで，ご自分に従う人々はたがいに仕え合ってほしいと言っておられたのです。イエスは，弟子たちが自分のことしか考えない人間にならないでほしいと思いました。また弟子たちが，自分はとてもえらいので，ほかの人にいつも仕えてもらうのは当然だ，などと考えたりしないでほしいと思いました。イエスは，かれらが喜んでほかの人たちに仕えるようにと願っておられたのです。

すばらしい教訓ではありませんか。— あなたも偉大な教え手のようになって，ほかの人たちに仕えますか。— わたしたちはだれでも，人の役に立つことを行なえます。そうすれば，してもらった人はうれしく思います。でも，とくに，イエスとイエスのお父さんは，うれしく思われます。

ほかの人に仕えるのは難しいことではありません。注意して見ていると，人の

ためにできることはたくさんあることが分かります。さあ，考えてみてください。お母さんのお手伝いが何かできませんか。お母さんは，あなたや家族のためにたくさんの仕事をしてくださいますね。お母さんのお手伝いができますか。— お母さんに聞いてみてはどうですか。

家族で食事をする前に，食卓の用意をすることができるでしょう。それに，食事のあと，よごれた食器を片づけることもできますね。毎日ごみを外に運び出す子もいます。どんなことでもいいですから，自分にできることを行なうなら，イエスのように，ほかの人に仕えていることになります。

あなたには弟や妹がいますか。もしいれば，弟や妹にも仕えることができます。偉大な教え手のイエスが，ご自分に従う人々に仕えたことを思い出してください。弟や妹に仕えるなら，イエスに見ならっていることになります。どんなことをしてあげられますか。— 遊び終わったおもちゃを片

ほかの人を助けるために，どんなことを行なえますか

づけるよう教えてあげられるでしょう。服を着るときに手伝ってあげることもできます。布団の上げ下ろしをしたり，ベッドを整えたりするのを手伝えるかもしれません。ほかにも，できることがあると思いますか。— そのようにすれば，ちょうどイエスが弟子たちから愛されたように，弟 や 妹から愛されるでしょう。

学校でも，ほかの人に仕えることができます。クラスの友達や担任の先生のことを考えるとよいでしょう。だれかが本を落としたら，拾ってあげるのは親切なことです。先生には，黒板をふきましょうか，何かお手伝いしましょうか，と言うことができるでしょう。ほかの人のため，ドアをおさえて開けておいてあげるのも，親切な行ないです。

何かをしてあげても，お礼を言わない人がときどきいます。そういう人がいるので，良いことをするのはやめたほうがいい，と思いますか。— いいえ，やめてはなりません。多くの人はイエスが行なった良いことに感謝しませんでした。それでもイエスは良いことをやめませんでした。

ですから，ほかの人に仕えるのを決してためらってはなりません。偉大な教え手イエスのことを思い出して，イエスの模範にいつもならうようにしましょう。

ほかの人を助けることについて述べる聖句は，もっとあります。次の聖句を読んでください。箴言 3:27, 28。ローマ 15:1, 2。ガラテア 6:2。

7章

従順はあなたを守る

したいことが何でもできたらいいなあ，と思いますか。ああしなさい，こうしなさいと，だれからも言われたくないときがありますか。正直に言っていいですよ。—

でも，どちらがあなたのためになるでしょうか。したいことを何でもするのは，ほんとうにかしこいことですか。それとも，お父さんやお母さんに従うほうが，良い結果になりますか。— 親に従わなければならない，と言っておられるのは神です。ですから，親に従うことにはもっともな理由があるにちがいありません。では，その理由を考えてみましょう。

年上の人の言葉に耳をかたむける必要があるのはなぜですか

あなたは何歳ですか。— お父さんは何歳か知っていますか。— お母さんやおばあさん，おじいさんは何歳ですか。— みんな，あなたよりずっと長く生きてきました。長く生きれば生きるほど，いろいろなことを学ぶ時間は増えます。聞く事柄，見る事柄，行なう事柄が毎年加わってゆきます。ですから，若い人は年上の人から学ぶことができるのです。

あなたより年下の子をだれか知っていますか。— あなたは，その子よりも多くのことを知っていますか。— どうしてでしょうね。— それは，あなたのほうが長く生きているからです。いろいろなことを学ぶ時間が，年下の子より多かったのです。

あなたよりもわたしよりも，他のどんな人よりも長く生きているのはだれですか。— エホバ神です。エホバは，あなたやわたしよりも多くのことをご存じです。何かをするようエホバから言われたなら，難しそうに思えても，そうするのは確かに正しいのです。でも，偉大な教え手でさえ，従うのは難しいと思ったことがありました。知っていましたか。—

ある時，神は，とても難しいことをイエスにお求めになりました。イエスは，この絵にあるように，そのことについて祈りました。『もしあなたの望まれることでしたら，この難しい問題をわたしから取り除いてください』と祈ったのです。イエスのこの祈りには，神のご意志を行なうのはいつも易しいわけではないことが示されています。しかし，イエスが祈りの終わりに何と言ったか，知っていますか。—

「わたしの意志ではなく，あなたのご意志がなされますように」と言って祈りを終えたのです。（ルカ 22:41, 42）イエスは，自分の意志ではなく，神のご意志がなされることを望みました。自分がいちばん良いと思うことではなく，神が望んでおられることを進んで行ないました。

このことから何が学べますか。— たとえ難しそうでも，神が言われることを行なうのは，いつでも正しいということです。でも，ほかにも学べる点があります。どんなことか分かりますか。— ある人たちが言っているのとはちがい，神とイエスは同じ方ではないということです。エホバ神のほうが長く生きていて，み子イエスより多くのことを知っておられるのです。

イエスの祈りから どんなことが 分かりますか

神に従うなら，神を愛していることを示せます。聖書には，『そのおきてを守り行なうこと，これがすなわち神への愛です』と書かれています。（ヨハネ第一 5:3）ですから，わたしたちはみな，神に従う必要のあることが分かりますね。あなたも神に従いたいと思っていますね。—

では，聖書を開いて，神が子どもたちにどんなことを言っておられるか調べてみましょう。エフェソス6章1，2，3節にある聖書の言葉を読みたいと思います。そこには，こう書かれています。『子どもたちよ，主と結ばれたあなた方の親に従順でありなさい。これは義にかなったことなのです。「あなたの父と母を敬いなさい」とあり，これは約束をともなった最初の命令です。すなわち，「それはあなたにとって物事が良く運び，あなたが地上で生き永らえるためである」』。

そうですね，お父さんとお母さんに従順であるようにと言っておられるのは，エホバ神です。親を『敬う』とは，どういう意味でしょうか。それは，お父さんとお母さんをりっぱだと思って，大切にするということです。また神は，親に従うなら，物事が『あなたにとって良く運ぶ』と約束しておられます。

従順だったので命を救われた人たちがいます。その人たちの話をしてあげましょう。ずっと昔，その人たちはエルサレムという大きな都市に住んでいました。その都市のほとんどの人が神の言葉に耳をかたむけなかったので，イエスは人々に，神はエルサレムにほろびをもたらそうとしておられる，と警告しました。イエスはさらに，正しいことを愛する人がどうすればのがれられるかも教えました。こう述べています。『エルサレムが軍隊にぐるりと囲まれるのを見たなら，ほろびの近づいていることが分かります。それは，エルサレムから出て，山ににげるべき時です』。—ルカ 21:20-22。

さて，イエスの言われたとおり，軍隊がエルサレムをこうげきするためにやって来ました。ローマの軍隊は，エルサレムをぐるりと囲んでテントを張ります。ところがそのあと，どういうわけか兵士たちは引きあげてしまいます。大部分の人は，もう危なくないと思って，エルサレムにとどまっていました。でも，イエスは，どうしなければならないと言っていましたか。— もし，あなたがエルサレムに住んでいたら，どうしたと思いますか。— イエスをほんとうに信じていた人たちは，家を後にして，エルサレムから遠くはなれた山ににげました。

1年たっても，エルサレムには何も起きません。2年目，何も起きません。そして3年目，やっぱり何も起きません。エルサレムから出て行った人たちはおろか

これらの人は，
イエスの命令に従順に従い，
どのように行動して
救われましたか

だった，と思う人もいたかもしれません。ところが，4年目になると，ローマの軍隊がもどってきました。そして，またもや，その都市をぐるりと囲んでテントを張りました。にげるには，もうおそすぎます。今度こそ，ローマの軍隊はエルサレムをほろぼしてしまいました。その中にいた人のほとんどは死んでしまい，あとに残った人たちはとらえられました。

しかし，イエスの言葉に従った人たちはどうなったでしょうか。— 無事でした。エルサレムから遠くはなれたところにいたので，害を受けませんでした。従順だったので，守られたのです。

あなたの場合も，従順であれば守られるでしょうか。— お父さんやお母さんは子どもに，道路では絶対に遊んではいけません，と言うことがありますね。なぜでしょうか。— 車にひかれてしまうかもしれないからです。ところが，ある日，あなたはこう思うかもしれません。『今は，車が走っていないから，ひかれたりし

少しも危なくないと思えても，
従う必要があるのはなぜですか

ないよ。道路で遊んでいる子もいるけど，けがをした子なんか，いちども見たことがない』。

エルサレムにいた人のほとんども，同じように考えました。ローマの軍隊が去ったので，もう大丈夫と思ったのです。その人たちは，ほかの人がエルサレムにとどまったので自分もとどまりました。警告されていたのに，耳をかたむけなかったのです。そのために，命を失いました。

もう一つの例を考えましょう。マッチで遊んだことがありますか。— マッチに火をつけてながめるのはおもしろそうに思えるかもしれません。でも，マッチで遊ぶのは危険なことです。家が丸焼けになって，あなたは死んでしまうかもしれません。

次のことを忘れないようにしましょう。ときどき従えばよいというのではありません。ときどきではなく，いつも従っていれば，確かに守られます。それから，『子どもたちよ，あなた方の親に従順でありなさい』と命じているのはだれでしたか。— 神です。神はあなたをほんとうに愛しているので，そう言っておられるということも，忘れないでください。

ここで，従順の大切さを示す次の聖句を読んでください。箴言 23:22。伝道の書 12:13。イザヤ 48:17, 18。コロサイ 3:20。

8章

人間より高い存在

あなたよりもわたしよりも位が高く，偉大で，力の強い方がいることは知っていますね。だれのことだと思いますか。— エホバ神です。神のみ子である偉大な教え手はどうですか。わたしたちより位が高いでしょうか。— もちろん，そうです。

イエスは天で神とともに暮らしていました。イエスは神の霊の子，すなわちみ使いでした。神はみ使いを，つまり霊の子をほかにもお造りになりましたか。— 数え切れないくらいおおぜい，お造りになりました。それらのみ使いもわたしたちより位が高くて，強い力を持っています。—詩編 104:4。ダニエル 7:10。

マリアに話しをしたみ使いの名前を覚えていますか。— ガブリエルでしたね。ガブリエルはマリアに，生まれてくる赤ちゃんは神の子になる，と告げました。神が霊の子の命をマリアの体の中に入れたので，イエスは赤ちゃんとして地上に生まれることができました。—ルカ 1:26，27。

あなたはその奇跡を信じますか。イエスが天で神とともに暮らしていたことを信じますか。— イエスはそのように言いました。どうしてそういうことを知っていたのでしょう。たぶん，子どものときにマリアから，ガブリエルが話したことを聞いていたのでしょう。また，ヨセフも，お前のほんとうのお父さんは神なんだよ，とイエスに話していたのでしょう。

神も，イエスがバプテスマを受けたときに，天から，「これはわたしの子」とおっしゃいました。（マタイ 3:17）また，イエスは死ぬ前の夜に，『父よ，世がある前にわたしがみそばで持っていた栄光で，わたしを今ご自身のかたわら

マリアとヨセフはイエスにどんなことを話したと考えられますか

にあって栄光ある者としてください』と祈っています。（ヨハネ 17:5）天にもどって再び神と一緒に暮らせるようにお願いしたのです。どうしたら天で暮らせるのでしょう。— エホバ神がイエスを目に見えない霊者，つまりみ使いにもどさない限り，そうすることはできません。

ここで，大切な質問をしたいと思います。み使いはみな良い者たちですか。どう思いますか。— そうですね，良いみ使いしかいなかった時があります。というのは，み使いはエホバが創造なさったものだからです。エホバがお造りになるものはみな良いものです。でも，あとになって，み使いのひとりが悪くなりました。どうしてそうなったのでしょう。

それを知るには，神が最初の男性と女性，アダムとエバをお造りになった時までもどらなければなりません。アダムとエバの話はただの作り話だという人もいます。しかし，偉大な教え手は，ほんとうにあった話であることを知っていました。

アダムとエバは，どうすれば楽園で永遠に生きられたでしょうか

神はアダムとエバを造り，エデンと呼ばれる場所にあった美しい園に置きました。そこは庭園であり，楽園でした。二人は子どもをたくさんもうけて大きな家族になり，楽園で永遠に生きることもできました。しかし，ある大切な教訓を学ぶ必要がありました。その教訓のことは前にも話しましたね。覚えているかどうか確かめてみましょう。

人間より高い存在

エホバはアダムとエバに，園の木の実はどれでも好きなものを食べてよい，と言われました。ただし，一本の木だけは，その実を食べてはなりませんでした。神は，それを食べたらどうなるか，二人に告げました。「あなたは必ず死ぬ」とおっしゃったのです。（創世記 2:17）では，アダムとエバが学ぶ必要があったのは，どんな教訓でしたか。—

それは，従順に関する教訓でした。命はエホバ神への従順にかかっているのです。アダムとエバが，エホバに従います，と口で言うだけではふじゅうぶんでした。行ないによって，従うことを示さなければなりませんでした。神に従えば，神への愛や，神が自分たちの支配者であってほしいという願いを示せました。そうすれば，楽園で永遠に生きることができたはずです。しかし，その木から食べれば，何を示すことになるでしょうか。—

神からあたえられたものにほんとうは感謝していないことを示してしまいます。もしあなたがそこにいたとしたら，エホバに従ったでしょうか。—

最初，アダムとエバは従いました。でも，その後，二人より高い者がエバをだましました。その者は，エバをエホバに背かせました。だれがそうさせたのでしょうか。—

へびを使ってエバに話していたのは，だれですか

聖書は，へびがエバに話したと述べています。でも，へびは自分では話せないはずです。では，どうして話すことができたのでしょうか。— ひとりのみ使いが，まるでへびが話しているかのように見せかけたのです。しかし，実際に話していたのは，そのみ使いでした。そのみ使いは悪いことを考えるようになっていました。アダムとエバから崇拝してもらいたい，自分の言うことに二人を従わせたいと思いました。み使いは，神の地位に就きたかったのです。

そこで，その悪いみ使いは，エバにまちがった考えをいだかせました。へびを通して，エバにこう言ったのです。『神はあなたにほんとうのことを言いませんでした。たとえその木から食べても，死ぬことはありません。あなたは神のようにかしこくなるのですよ』。あなただったら，そのように言う声を信じたでしょうか。—

エバは，神からあたえられなかったものを欲しがるようになりました。それで，禁じられていた木の実を食べ，次に，それを少しアダムにあたえました。アダムはへびのことばを信じませんでした。けれども，エバと一緒にいたいという気持ちのほうが，神への愛よりも強かったので，アダムもその木から食べました。—創世記 3:1-6。テモテ第一 2:14。

それで，どうなったでしょうか。— アダムとエバは不完全になり，年を取って死にました。二人が不完全だったので，その子どもたちも

アダムとエバは，神に背いたあと，どうなりましたか

みな不完全でした。それで，やがて年を取って死にました。神はうそをついてはいなかったのです。命は確かに神への従順にかかっています。（ローマ 5:12）聖書によれば，エバにうそをついたみ使いは悪魔サタンと呼ばれています。また，悪くなったほかのみ使いたちは悪霊と呼ばれています。—ヤコブ 2:19。啓示 12:9。

さて，神が造った良いみ使いがなぜ悪くなったのか分かりますか。— そのみ使いが悪いことを考え始めたからです。いちばんえらくなりたいと思いました。そのみ使いは，神がアダムとエバに対して子どもを持つよう命じたのを知っていました。そして，その人たち全員から崇拝されたいと思いました。悪魔はすべての人をエホバに背かせたいと思っています。それで，人間に悪い考えをいだかせようとします。—ヤコブ 1:13-15。

悪魔は，エホバをほんとうに愛しているものなど一人もいないと言います。あなたもわたしも神を愛してはいない，神から言われることを心から行ないたいと思ってはいない，と言うのです。そして，人間がエホバに従うのは，すべてがうまくいっている時だけだ，と言います。悪魔の言うことは正しいでしょうか。わたしたちはそのような人間ですか。

偉大な教え手は，はっきり，悪魔はうそつきだと言われました。イエスは，エホバに従うことによってエホバをほんとうに愛していることを証明しました。しかも，楽な時だけ従ったのではありません。いつでも従いました。他の人からじゃまされて難しくなった時でも従いました。イエスは死ぬまでずっとエホバに忠実でした。ですから，神はイエスを生き返らせて，永遠に生きることができるようにされたのです。

では，わたしたちにとって最大の敵はだれでしょうか。— そうです，悪魔サタンです。サタンは目に見えますか。— もちろん，見えません。でも，サタンがいること，また，サタンのほうがわたしたちより高いところにいて力も強いということは分かります。しかし，悪魔よりも高いところにいるのはだれでしょうか。— エホバ神です。ですから，神はわたしたちを守ることができるのです。

わたしたちが崇拝しなければならない方について，次の聖句を読んで学びましょう。申命記 30:19，20。ヨシュア 24:14，15。箴言 27:11。マタイ 4:10。

9章

ゆうわくを退ける必要があります

だれかから，悪いことをするように言われたことがありますか。— その人は，やれるものならやってごらんと言いましたか。あるいは，おもしろいよとか，ほんとうは悪いことじゃないよとか言いましたか。— そういうことをする人は，わたしたちをゆうわくしようとしているのです。

ゆうわくされたら，どうするのがよいでしょうか。ゆうわくに負けて，悪いことをしてもかまいませんか。— そうしたらエホバ神に喜んでいただくことはできません。でも，だれが喜ぶと思いますか。— 悪魔サタンです。

サタンは神の敵です。サタンはわたしたちの敵でもあります。サタンは霊者ですから，わたしたちには見えません。でも，サタンにはわたしたちが見えています。ある日のこと，悪魔は，偉大な教え手イエスに話しかけて，イエスをゆうわくしようとしました。イエスがどうしたかを調べてみましょう。そうすれば，ゆうわくにあったとき，どうすればよいかが分かります。

イエスはいつも神のご意志を行ないたいと思っていました。イエスはその気持ちを，ヨルダン川でバプテスマを受けることによって公に示しました。イエスがバプテスマを受けたすぐあとに，サタンはイエスをゆうわくしようとします。聖書によれば，イエスに対して「**天が開け**」**ました**。（マタイ 3:16）これは，イエスが以前に天で神とともに暮らしていた時のことを思い出すようになったという意味でしょう。

イエスはバプテスマを受けたあと，思い出すようになった事柄について考えるため，荒野に行きます。まる40日たちま

イエスは，バプテスマを受けたとき，何を思い出すようになったと思われますか

した。イエスはその間ずっと何も食べなかったので，すっかりおなかがすいていました。サタンがイエスをゆうわくしようとしたのはその時です。

悪魔はこう言いました。「あなたが神の子であるなら，これらの石に，パンになるように命じなさい」。パンだったら，どんなにおいしいことでしょう。でもイエスには，石をパンに変えることなどできるのでしょうか。— そうすることもできました。なぜなら，神の子であるイエスは，特別な力を持っていたからです。

あなただったら，悪魔が石をパンに変えるように言ったとき，そうしたと思いますか。— イエスはとてもおなかがすいていました。ですから，1回くらいやってもいいのではないでしょうか。— イエスは，自分の力をそのように用いてはいけないことを知っていました。そうした力がエホバからあたえられた目的は，自分のために用いることではなく，人々を神に引き寄せることでした。

それでイエスは，サタンの言うとおりにはせず，聖書に書いてあることをサタンに告げました。「人は，パンだけによらず，エホバの口から出るすべてのことばによって生きなければならない」と言ったのです。イエスは，エホバに喜ばれることをするほうが，食物を手に入れるより大切であることを知っていました。

ところが，悪魔はもう一度ゆうわくしようとしました。今度はイエスをエルサレムに連れて行って，神殿の高いところに立たせると，こう言いました。『もしあなたが神の子なら，ここから下に身を投げなさい。神の使い

悪魔は石を用いて，どのようにイエスをゆうわくしましたか

たちはあなたが，けがをしないよう守ってくれる，と書かれているからです』。

サタンはなぜ，そう言ったのでしょう。— ばかげたことをするようイエスをゆうわくしようと思ったのです。でも，イエスは今度もサタンの言うことを聞かず，『「あなたの神エホバを試みてはならない」と書いてあります』と言いました。イエスは，命を危険にさらしてエホバを試みる，つまり試すのはまちがっていることを知っていたのです。

サタンはそれでもあきらめず，今度はイエスをたいへん高い山に連れて行きました。そこで，世界のすべての王国，つまり政府と，それぞれが栄えている様子をイエスに見せて，こう言いました。『もしあなたがひれふしてわたしに崇拝の行為をするならば，わたしはこれらのすべてをあなたに上げましょう』。

悪魔の申し出について考えてみましょう。人間の王国，つまり政府はみな，ほんとうにサタンのものだったのでしょうか。— イエスは，それらがサタンのものであることを否定しませんでした。サタンのものでなかったなら，そう言ったことでしょう。サタンは実際に世界のすべての国を支配しています。聖書もサタンのことを「この世の支配者」と呼んでいます。—ヨハネ 12:31。

わたしを崇拝するなら，必ずこれを上げます，と悪魔から言われたら，どうしますか。— イエスは，どんなものをもらえるとしても，悪魔を崇拝するのはまちがっていることを知っていました。それでこう言いました。『サタンよ，はなれ去れ！聖書には，あなたの神エホバをあなたは崇拝しなければならず，この方だけに仕えなければならないと書いてあるからです』。—マタイ 4:1-10。ルカ 4:1-13。

わたしたちも，ゆうわくにあいます。どんなゆうわくがあるか知っていますか。—例えば，こんなこともあります。お母さんがおいしいパイかケーキのデザートを作りました。そして，食事の時まで食べてはいけませんよ，と言います。ところがあなたは，とてもおなかがすいているので食べたいというゆうわくを感じます。さあ，あなたはお母さんに従いますか。— サタンは，そうしてほしくないと思っています。

イエスのことを思い出してください。イエスも，たいへんおなかがすいていま

サタンがイエスに，これらの王国をみな上げましょう，と言えたのはなぜですか

した。でも，食べることより神を喜ばせることのほうが大切だということを知っていました。あなたもお母さんの言いつけを守るなら，イエスに見ならっていることになります。

もしかすると，ほかの子から，何かの薬を飲むように言われるかもしれません。そういう子は，これを飲むと，とてもいい気持ちになるよ，と言ったりします。でもそれは，麻薬かもしれません。飲むと重い病気になって，死んでし

ゆうわくされたら，どうしますか

まうことさえあります。また，たばこをわたされ，吸えるなら吸ってみろと言われるかもしれません。たばこにも，麻薬がふくまれています。さあ，どうしますか。—

イエスのことを思い出してください。サタンはイエスに，神殿から飛び降りるようにと言って，イエスの命を危険にさらそうとしました。しかし，イエスは神殿から飛び降りようとはしませんでした。何か危険なことをやってみるようにと言われたなら，どうしますか。— イエスはサタンの言葉に聴き従いませんでした。あなたも，悪いことをさせようとする人の言葉に聴き従ってはなりません。

いつか，何かの像を崇拝するように言われる時があるかもしれません。聖書には，そうしてはならない，と述べられています。（出エジプト記 20：4，5）像を崇拝することが，学校の式典にふくまれていることもあります。像は崇拝しません，と言うと，もう学校へ来てはいけません，と言われるかもしれません。そうしたら，どうしますか。—

崇拝に何かの像を使うことがまちがっているのはなぜですか

だれもが正しいことをしているときに正しいことをするのは，簡単です。でも，ほかの人たちが悪いことをさせようとしているときに正しいことをするのは，とても難しい場合があります。その人たちは，自分たちのしていることはそんなに悪くない，と言うかもしれません。しかし，大切なのは，神は何と言っておられるかということです。神は最もよくご存じです。

ですから，人が何と言おうと，神がまちがっていると言っておられることを決して行なってはなりません。このようにすれば，わたしたちは，いつも神に喜んでいただくことができ，悪魔を喜ばせるようなことは決してないでしょう。

悪いことをさせようとするゆうわくを退ける方法については，次の聖句を読むともっと多くのことが分かります。詩編 1：1，2。箴言 1：10，11，14。マタイ 26：41。テモテ第二 2：22。

10章

イエスは悪霊より強い

神のみ使いのひとりが悪魔サタンになったのはなぜか覚えていますか。— 崇拝されたいという利己的な願いがあったからです。そのためにこのみ使いは神に背きました。サタンにならったみ使いもいたでしょうか。— 確かにいました。聖書はそのみ使いたちを『サタンの使い』とか悪霊とか呼んでいます。—啓示 12:9。

それら悪いみ使い，つまり悪霊たちは神を信じているでしょうか。—『悪霊たちは，神がおられることを信じている』と聖書は述べています。（ヤコブ 2:19）しかし，今はびくびくしています。悪いことをしたので神からばつを受けることが分かっているからです。どんなまちがいをしたのでしょうか。—

聖書によると，そのみ使いたちは自分たちにふさわしい天の住みかをはなれ，地上にやって来て，人間として暮らしました。なぜなら，地上の美しい女の人と性関係を持ちたかったからです。（創世記 6:1，2。ユダ 6）性関係について知っていることがありますか。—

性関係というのは，男の人と女

これらのみ使いはどんな悪いことをしましたか

の人が特別な仕方で親しくなることです。そうすると，お母さんの体の中で赤ちゃんが育ちます。しかし，み使いが性関係を持つのはまちがいです。神は，結婚している人間の男性と女性だけが性関係を持つよう望んでおられます。そのようにして赤ちゃんが生まれたら，夫婦で赤ちゃんの世話をすることができます。

み使いたちが人間の体を着けて地上の女の人と性関係を持ったあと，赤ちゃんが生まれ，成長して巨人になりました。それら巨人たちはとても意地悪で，人々をひどい目にあわせてばかりいました。それで神は大洪水を起こして，巨人と悪い人々を残らずほろぼしてしまいました。でも，ノアには箱船，つまり大きな船を造らせて，正しいことをしたわずかな数の人たちをお救いになりました。大洪水の時の出来事は忘れてはならない大切なことです，と偉大な教え手は言いました。—創世記 6:3, 4, 13, 14。ルカ 17:26, 27。

大洪水が起きたとき，悪いみ使いたちはどうなったか知っていますか。— 人間の体でいるのをやめて，天にもどっていきました。といっても，もう神のみ使いにはなれないので，サタンの使い，つまり悪霊になりました。では，その子どもである巨人たちはどうなったのでしょうか。— 大洪水で死にました。神に背いた人々もみな，死んでしまいました。

今地上に，これまでにないほど問題が多いのはなぜですか

大洪水の時から今まで，神は悪霊が人間のようになることを許しておられません。ところが悪霊は，わたしたちには見えませんが，今でも人々にとても悪いことをさせようとしています。これまでにないほど多くの問題を引き起こしています。なぜなら，悪霊たちは天から地に投げ落とされてしまったからです。

悪霊を見ることができないのはなぜか分かりますか。— 霊者だからです。でも，悪霊が活動していることは確かです。聖書は，サタンが『世界じゅうの人々をまどわして』いて，悪霊たちがサタンを助けていると述べています。—啓示 12:9，12。

わたしたちも悪魔と悪霊たちにまどわされる，つまり，だまされることがあるのでしょうか。— 注意していないと，そうなります。といっても，びくびくする必要はありません。偉大な教え手は，『悪魔はわたしに対して何の力もありません』と言いました。神からはなれなければ，神はわたしたちを悪魔と悪霊たちから守ってくださいます。—ヨハネ 14:30。

悪霊がわたしたちにどんな悪いことをさせようとするかを知っておくのは大切です。ですから，そのことについて考えてみましょう。悪霊は地上にやって来たとき，どんな悪いことをしましたか。— 大洪水前，女の人と性関係を持ちました。それは，み使いがしてはいけないことでした。今日，性関係について神の律法を守らない人たちがいると，悪霊たちは喜びます。ちょっと聞いていいですか。性関係を持ってよいのはだれだけですか。— そうです。結婚している人だけですね。

今日，まだ子どもなのに性関係を持つ男の子や女の子がいます。でも，それはまちがったことです。聖書は，男の人の「生殖器」，つまり陰茎（ペニス）について述べています。（レビ記 15:1-3）女の人のその部分は外陰といいます。エホバが人間の体にそうした部分をお造りになったことには特別な目的がありました。結婚した人だけがその目的を果たす喜びにあずかることになっています。人々がエホバに禁じられていることをすると，悪霊は喜びます。例えば，男の子

と女の子が相手の陰茎や外陰をおもちゃのようにして遊ぶと，悪霊は喜びます。悪霊を喜ばせたくありませんね。—

悪霊の好きなことで，エホバがにくまれることはほかにもあります。どんなことか分かりますか。— 暴力です。（詩編 11:5）暴力というのは，人が意地悪になって他の人をひどい目にあわせることです。思い出してください。悪霊の息子の巨人たちがそういうことをしましたね。

悪霊は人々をこわがらせることも好きです。死んだ人になりすますこともあります。死んだ人の声をまねることさえあるでしょう。悪霊はそのようにして多くの人をだまし，死者は生きていて，生きている人と話ができると信じこませています。多くの人がゆうれいを信じているのは悪霊のせいなのです。

ですから，サタンと悪霊たちにだまされないよう用心しなければなりません。聖書は，『サタンは自分を良いみ使いに見せかけようとしており，そのしもべたちも同じようにしている』という注意をあたえています。（コリント第二 11:14,15）でも，悪霊は

暴力的なものを見ると，どうなることがありますか

ほんとうは悪者です。悪霊たちがどんなやり方で，人間に自分たちと同じことをさせようとするか，調べてみましょう。

人々は，暴力，まちがった性関係，霊者，ゆうれいなどについて，くわしいことをどんな時に学ぶのでしょうか。— テレビや映画を見ているとき，コンピューターゲームやテレビゲームをしているとき，インターネットで調べているとき，漫画を読んでいるときではありませんか。こうしたことをしていると，神に近づくことができますか。それとも悪魔と悪霊たちに近づきますか。どう思いますか。—

悪いものを見たり聞いたりしてほしい，と思っているのはだれでしょう。— そうです，サタンと悪霊たちです。では，あなたもわたしも何をする必要がありますか。— わたしたちのためになり，エホバに仕えるのを助けてくれるものを読んだり，聞いたり，見たりする必要があります。今述べた良いことのうち，わたしたちにできる事柄が何か思いうかびますか。—

わたしたちにとって，何をするのは良いことですか

良いことをしていれば，悪霊をおそれる必要はまったくありません。イエスは悪霊より強い方です。ですから，悪霊たちはイエスをおそれています。ある日，悪霊たちはイエスに向かって，『わたしたちをほろぼそうとしてやって来たのですか』とさけびました。（マルコ 1：24）イエスがサタンと悪霊たちをほろぼす時が来たら，うれしいでしょうね。— それまでの間，イエスとイエスの天の父からはなれなければ，イエスはわたしたちを悪霊から守ってくださるにちがいありません。

次の聖句を読み，わたしたちが何をする必要があるかについて調べましょう。ペテロ第一 5:8，9。ヤコブ 4:7，8。

11章

神のみ使いたちの助け

見えるものしか信じないと言う人がいます。でも，それはおろかなことです。実際に存在していても目に見えないものはたくさんあります。どんなものがあるか，そのうちの一つを言えますか。—

わたしたちが吸う空気はどうでしょう。空気を体で感じることはできますか。—手を出して，息をふきかけてみましょう。何か感じましたか。— 感じましたね。でも，空気は見えませんね。—

目に見えない霊者のことは前に話しました。良い霊者も悪い霊者もいることを学びましたね。目に見えない良い霊者というと，例えばだれがいるでしょうか。— そうです。エホバ神がいます。イエスがいます。良いみ使いたちもいます。悪いみ使いもいますか。— そういう者もいる，と聖書は言っています。では，悪いみ使いについてどんなことを学びましたか。—

はっきりしているのは，良いみ使いも悪いみ使いも人間より強いということです。偉大な教え手は，み使いのことをよく知っていました。なぜならこの方は，赤ちゃんとして地上に生まれる前は，み使いだったからです。天でほかのみ使いたちと一緒に暮らしていました。偉大な教え手は非常に多くのみ使いを知っていました。そのみ使いたちはみんな，名前を持っているのでしょうか。—

前に学んだように，神は星に名前をお付けになりました。ですから，み使いたちもみんな名前を持っているにちがいありません。そのうえ，み使いたちはおたがいに話すことができます。聖書に，『み使いのことば』のことが出てくるからです。（コリント第一 13:1）み使いたちはどんなことについて話すと思いますか。地に住むわたしたちについてでしょうか。—

サタンの使いである悪霊は，わたしたちに働きかけてエホバに背かせようとしています。ですから，悪霊たちは，その方法について話し合うにちがいありませ

ん。悪霊たちは，人間も自分たちのようになって，エホバからきらわれることを願っているのです。では，神に忠実なみ使いたちはどうでしょうか。そういうみ使いもわたしたちについて話していると思いますか。— そうです，話しています。忠実なみ使いはわたしたちを助けたいと思っています。エホバを愛し，エホバに仕える人々を神のみ使いがどのように助けたか，話してあげましょう。

例えば，ダニエルという男の人がバビロンに住んでいました。そこの人々の多くはエホバを愛していなかったので，エホバ神に祈る人をばっする法律まで作りました。でも，ダニエルはエホバに祈ることをやめようとしませんでした。それで，バビロンの人々がダニエルに何をしたか知っていますか。—

そのとおりです。悪い人たちは，ダニエルをライオンの穴に投げこませました。ダニエルはたった一人，おなかをすかせたライオンたちと一緒にされたのです。それから，どうなったか知っていますか。—「神はご自分の使いを送って，ライオンの口をふさがれました」と，ダニエルは言っています。なんと，かすり傷一つ負いませんでした。み使いたちは，エホバ

神はダニエルを救うため，どんなことをされましたか

に仕える人のためにすばらしいことを行なえるのですね。—ダニエル 6:18-22。

それから，ペテロがろうやに入っていた時のことです。ペテロが偉大な教え手，イエス・キリストの友人だったことは覚えているでしょう。ペテロがイエスは神の子だと言ったとき，ある人たちはそれが気に入りませんでした。それでペテロをろうやに入れたのです。兵士たちは，ペテロがにげないように見張っていました。だれかが助けてくれるでしょうか。—

ペテロは二人の番兵の間でねむっていました。おまけに両手はくさりでつながれています。ところが，聖書はこう述べています。『見よ，エホバのみ使いがやって来て，光がろうやの中を照らし出した。み使いはペテロのわき腹をたたいて起こし，「早く立ちなさい!」と言った』。

み使いはどのようにして，ペテロをろうやから助け出しましたか

すると，どうでしょう。ペテロの両手から，くさりが落ちました！ み使いは，『服を着て，サンダルをはき，わたしに付いて来なさい』とペテロに言います。み使いがペテロを助けていたので，番兵たちは止めることができません。さて，み使いとペテロが鉄の門のところへ来ると，不思議なことが起きます。門がひとりでに開いたのです！ み使いのおかげで自由になったペテロは，伝道を続けることができました。—使徒 12：3-11。

わたしたちも神のみ使いに助けてもらえますか。— はい，助けてもらえます。では，み使いはわたしたちがまったくけがなどしないように守ってくれるということですか。— そうではありません。わたしたちがむちゃなことをしても，けがをしないようにみ使いが助けてくれるというわけではないのです。また，むちゃなことをしなくても，けがをする場合があります。み使いたちは，そういうことが起こるのを防ぐようにとは命じられていません。神はみ使いたちにそのような命令ではなく，別の大事な仕事をおあたえになりました。

聖書に出てくるひとりのみ使いは，あらゆる場所の人々に，神を崇拝しなさい，と告げています。（啓示 14：6，7）み使いたちはどのようにして告げるのでしょうか。だれにでも聞こえるように，天からさけぶのでしょうか。— いいえ，そうではありません。イエスの弟子たちが地上で神について他の人に話し，み使いたちがその仕事を導くのです。み使いたちは，神のことをほんとうに知りたい人たちが必ずその話を聞けるようにします。わたしたちはそのような伝道で一緒に働けます。そして，み使いはわたしたちを助けてくれます。

しかし，神を愛さない人々がわたしたちを困らせる場合はどうでしょうか。わたしたちをろうやに入れるとしたら，どうですか。み使いはわたしたちを自由にしてくれるでしょうか。— そうすることはできます。しかし，いつでもそうしてくれるわけではありません。

イエスの弟子パウロは，とらわれていた時，船に乗せられて，あらしの中を航海したことがありました。でも，み使いはパウロをすぐには自由にしませんでした。神について聞く必要のある人々がほかにもいたからです。「パウロよ，おそ

れることはない。あなたはカエサルの前に立たねばならない」と，み使いは言いました。パウロは，世界を支配するカエサルに伝道できるよう，その人のもとに連れて行かれるのです。み使いはパウロの居場所をいつも知っていて，パウロを助けました。わたしたちも，ほんとうに神に仕えていれば，み使いに助けてもらえるでしょう。—使徒 27:23-25。

み使いたちは，もう一つ大きな仕事を行なうことになっています。その時は間もなくやってきます。神が邪悪な人々をほろぼされる時はとても近いのです。まことの神を崇拝しない人はみなほろぼされます。み使いは目に見えないから信じないと言う人は，自分がどんなにまちがっていたかを思い知らされるでしょう。—テサロニケ第二 1:6-8。

このことはわたしたちにとって何を意味しますか。— もし神のみ使いたちと同じ側にいるなら，み使いたちはわたしたちを助けてくれます。では，わたしたちはみ使いたちの側にいるでしょうか。— エホバに仕えていれば，そう言えます。そして，エホバに仕えていれば，他の人たちにも，エホバに仕えるようにすすめるでしょう。

み使いが人々の生活におよぼすえいきょうについてもっと知るため，次の聖句も読んでください。
詩編 34:7。マタイ 4:11; 18:10。ルカ 22:43。使徒 8:26-31。

み使いはパウロに何と言っていますか

12 章

イエスは祈ることを教えておられる

あなたはエホバ神にお話ししますか。— エホバは，話しかけてほしいと思っておられます。神にお話しすることを祈りといいます。イエスは天のお父さんによく話しかけました。神に話すため，独りになりたいと思ったこともありました。聖書によると，ある時，『イエスは祈るために自分だけで山に上って行かれました。時刻はおそくなりましたが，イエスはただ独りでそこにおられました』。—マタイ 14:23。

独りでエホバに祈るには，どこがいいでしょうか。— 夜ねる前，ベッドのそばなら，独りでエホバに話せるでしょう。イエスはこう言いました。『あなたが祈るときには，自分の部屋に入り，戸を閉じてから，あなたの父に祈りなさい』。（マタイ 6:6）毎晩，ねる前にエホバに祈りますか。— それは必要なことです。

イエスは，ほかの人たちと一緒にいる時にも祈りました。友人のラザロが死んだ時，イエスは，ラザロを横たえてある場所でほか

イエスは独りの時に……
また，ほかの人たちと一緒にいる時にも祈った

集会でささげられる祈りに注意深く耳をかたむける必要があるのはなぜですか

の人たちと一緒に祈りました。（ヨハネ 11:41, 42）弟子たちと集まり合っている時にも祈りました。あなたは，祈りがささげられる集会に行っていますか。— 集会では，ふつう，年長の人が祈ります。祈りをささげる人はあなたのために神にお話ししているのですから，その祈りに注意深く耳をかたむけましょう。そうすれば，その祈りに対して，「アーメン」と言えるでしょう。祈りの終わりに「アーメン」と言うことにはどんな意味があるか知っていますか。— その祈りは良いと思います，という意味です。その祈りに賛成します，同じように祈りたいと思います，という意味です。

イエスは食事の時にも祈り，食べ物に対してエホバ神に感謝しました。あなたは食事の前に必ず祈りますか。— 食事を始める前に，食べ物に対してエホバ神に感謝するのは良いことです。何人かで一緒に食事をするときは，だれかが祈ってくださるかもしれません。でも，独りで食べるときはどうでしょう。または，エホバに感謝しない人たちと一緒に食事をするときはどうでしょうか。— そのときは，自分で祈る必要があります。

いつも大きな声で祈らなければなりませんか。それとも，心の中で祈っても，エホバには聞こえるのでしょうか。— ネヘミヤの経験を調べると，その答えが分かります。ネヘミヤはエホバの崇拝者であり，ペルシャのアルタクセルク

セス王の宮殿で働いていました。ある日，ネヘミヤは，エルサレムの城壁がくずれたままになっていることを聞いて，とても悲しくなりました。エルサレムはネヘミヤと同じ民にとっての都でした。

ネヘミヤは，悲しそうにしているわけを王から聞かれ，まず，だまって祈りました。それから，そのわけを話し，城壁を建て直すためにエルサレムへ行かせていただけないでしょうか，と願い出ました。それから，どうなりましたか。—

神はネヘミヤの祈りに答えてくださいました。王は，行ってもよいと言ってくれたのです。そればかりか，城壁を建てるために使う木材をたくさんネヘミヤにあたえました。ですから神は，たとえだまってささげられた祈りでも，答える力を持っておられるのです。—ネヘミヤ 1:2，3; 2:4-8。

さて，ここで考えてみましょう。祈るときは頭を下げる必要がありますか。ひ

どんなときには，ネヘミヤのように だまって祈りをささげることができますか

ざまずく必要がありますか。どう思いますか。— イエスはひざまずいて祈ることがありました。立ち上がって祈ることもありました。ラザロのために祈った時のように，天を見上げて祈ったこともあります。

では，このことから何が分かりますか。— そうです，どんな姿勢を取るかは重要ではありません。頭を下げ，目を閉じて祈るのが良いときもあります。また，イエスがなさったように，ひざまずいて祈りたいときもあるでしょう。ただ，忘れてはならないのは，夜でも昼でも，神に祈ることができ，神はわたしたちの祈りを聞いてくださるということです。祈りに関して大切なのは，エホバが耳をかたむけておられるということを，ほんとうに信じることです。あなたは，エホバが祈りを聞いてくださることを信じていますか。—

エホバに祈るときはどんなことを言ったらよいのでしょうか。— あなたは祈るとき，どんなことについて神にお話ししますか。— エホバは，わたしたちにとても多くの良い物をあたえてくださるので，それらに対してエホバに感謝するのは正しいことですね。— 食べ物に対してエホバに感謝できます。でも，青い空や緑の木，きれいな花に対してエホバに感謝したことはありますか。— そういうものもエホバがお造りになったのです。

ある時イエスの弟子たちは，祈り方を教えてくださいとイエスにお願いしました。それで偉大な教え手は，とくに何を祈り求めることが大切かを教えました。それはどんなことだか知っていますか。— 聖書を開いて，マタイ 6章を見てください。9-13節までは，ふつう「主の祈り」と呼ばれているところです。一緒にそこを読みましょう。

祈りの中でどんなことを神にお話しできますか

そこを読むと，イエスは神のお名前について祈るよう命じていることが分かります。イエスは，神のお名前が神聖なものとされるように，つまり聖なるものとしてあつかわれるように祈りなさい，と言いました。神のお名前は何ですか。—そうです，エホバです。わたしたちはその名前を大切にしなければなりません。

第二に，イエスは，神の王国が来るようにと祈ることを教えました。この王国は重要なものです。なぜなら，この王国によって地上は平和になり，楽園に変わるからです。

第三に，偉大な教え手は，神のご意志が天で行なわれているとおり，地上でも行なわれるように祈りなさい，と言いました。そう祈るなら，わたしたちは神が望んでおられることを行なわなければなりません。

次にイエスは，その日に必要な食べ物を祈り求めるようにと教えました。まちがったことをしたら，必ず，ごめんなさいと神に言うようにともおっしゃいました。許していただけるようにお願いしなければなりません。でも，神から許していただくには，わたしたちに対してまちがったことをした人たちを許さなければなりません。人を許すのは簡単だと思いますか。—

最後にイエスは，邪悪な者である悪魔サタンからわたしたちを守ってくださるようエホバ神に祈りなさい，と言いました。こういうことについて神に祈るのは良いことです。

わたしたちは，エホバが祈りを聞いてくださるということを信じなければなりません。また，助けてくださいとお願いするだけでなく，エホバに絶えず感謝する必要があります。わたしたちが祈りの中でほんとうの気持ちを話し，正しい事柄を願い求めるなら，エホバは喜んでくださいます。そしてエホバは，それらのものをわたしたちにあたえてくださいます。そのことを信じていますか。—

祈りに関する良い助言は，次の聖句にもあります。ローマ 12:12。ペテロ第一 3:12。ヨハネ第一 5:14。

13章

イエスの弟子になった人々

これまでの神のしもべの中で，いちばん立派だったのはだれでしょうか。— そのとおり，イエス・キリストです。わたしたちもイエスのようになれると思いますか。— 聖書には，イエスはわたしたちのために模範を残された，と書いてあります。イエスも，わたしの弟子になりなさい，とすすめておられます。

イエスの弟子になるとはどういう意味か分かりますか。— それにはいくつかの意味があります。まず，イエスから学ばなければなりません。でも，それだけではありません。イエスが言っていることをほんとうに信じなければなりません。ほんとうに信じているなら，イエスが命じていることを行なうようになります。

イエスを信じると言う人は少なくありません。その人たちはみんなほんとうにイエスの弟子だと思いますか。— そうではありません。その大部分はちがうのです。教会に行っているかもしれませんが，たいていの人は，イエスの教えを学ぶための時間をまったく取ってきませんでした。ほんとうに，イエスの模範にならう人だけがイエスの弟子なのです。

では，人間として地上におられた時のイエスの弟子たち数人について考えてみましょう。最初の弟子たちの中にフィリポがいます。フィリポは友達のナタナエル（バルトロマイとも呼ばれる）をさがしに行きます。ナタナエルは，このさし絵にあるように，木の下に座っていました。ナタナエルがイエスのところへ行くと，イエスは，『見なさい。正直で，ほんとうのイスラエル人がここに

この男の人はだれですか。この人はどのようにしてイエスの弟子になりましたか

います』と言いました。ナタナエルはびっくりして,『どうしてわたしを知っておられるのですか』と聞きました。

「フィリポがあなたを呼ぶ前,あなたがいちじくの木の下にいた時に,わたしはあなたを見ました」とイエスは言います。ナタナエルは,自分がどこにいたかをイエスがちゃんと知っていたことにとてもおどろいて,「あなたは神の子

イエスはご自分の弟子になるようだれに呼びかけていますか

です。あなたはイスラエルの王です」と言います。—ヨハネ 1:49。

フィリポやナタナエルより一日早く,弟子になった人たちもいます。アンデレとアンデレの兄弟のペテロ,それにヨハネです。ヨハネの兄弟ヤコブもそうかもしれません。(ヨハネ 1:35-51) けれども,この4人はしばらくしてから,魚を取る仕事にもどりました。そんなある日,ガリラヤの海のほとりを歩いていたイエスは,ペテロとアンデレが,魚のあみを海の中に下ろしているのを見ました。イエスは二人に,「わたしに付いて来なさい」と声をかけます。

もう少し行くと，ヤコブとヨハネの姿が見えました。二人はお父さんと一緒に舟の中で，魚のあみを修理しています。イエスはヤコブとヨハネにも，わたしに付いて来なさい，と声をかけます。あなたがもしイエスに声をかけられたとしたら，どうしたと思いますか。すぐにイエスと一緒に行ったでしょうか。— その人たちはイエスがどういう人だか知っていました。イエスが神からつかわされたことを知っていたのです。ですから，魚を取る仕事をやめて，すぐにイエスのあとに従いました。—マタイ 4:18-22。

その人たちがイエスの弟子になったということは，そのあとずっと，まちがったことを決してしなかったという意味でしょうか。— そうではありません。その人たちが，自分たちのうちでだれがいちばんえらいかと言い争ったことは，覚えていますね。でも，その人たちはイエスの言葉に耳をかたむけ，進んで自分を変えようとしました。わたしたちも，進んで自分を変えようとするなら，イエスの弟子になれます。

イエスは，ご自分の弟子になるよう，さまざまな人にすすめました。あるとき，若くて金持ちの支配者がイエスのもとにやって来て，永遠の命を得るにはどうしたらよいかと聞きました。その金持ちの支配者が，わたしは子どもの時からずっと神のおきてに従ってきましたと言うと，イエスはその人に，『来て，わたしの弟子になりなさい』とすすめました。それからどうなったと思いますか。—

その人は，金持ちであることよりイエスの弟子になることを大切にしなくてはいけない，と聞いてとても悲しくなりました。神よりもお金を愛していたので，イエスの弟子にはなりませんでした。—ルカ 18:18-25。

イエスは，1年半近く伝道してから，弟子のうち12人を選んで使徒にしました。使徒というのは，特別な仕事を行なうようイエスからつかわされた人のことです。使徒たちの名前を知っていますか。— 使徒たちの名前を覚えましょう。この絵を見て，名前を言ってみましょう。それから，そらで言ってみましょう。

しばらくして，12使徒の一人が悪い人になりました。ユダ・イスカリオテという

人です。そのあと，別の弟子が使徒に選ばれました。その人の名前を知っていますか。— マッテヤです。のちになって，パウロとバルナバも使徒になりました。でも，この二人は12使徒にふくまれていません。—使徒1：23-26；14：14。

この本の1章で学んだように，イエスは幼い子どもたちに関心を持っていました。どうしてでしょうか。— なぜなら，子どもたちも弟子になれることを知っておられたからです。実際，子どもたちは，大人が耳をかたむけたくなるような，そして偉大な教え手についてもっと知りたくなるような話し方をすることがよくあります。

女の人もおおぜい，イエスの弟子になりました。イエスが伝道のためにい

イエスが伝道に行った時にイエスの手伝いをしたこの女の人たちはだれですか

ろいろな都市へ行くとき，一緒に旅をした人たちもいます。マリア・マグダレネ，ヨハンナ，スザンナなどがそうでした。それらの女の人は，イエスの食事を作ったり，イエスの服を洗ったりする仕事もしたのでしょう。—ルカ 8:1-3。

イエスの弟子になりたいと思いますか。— では，わたしはイエスの弟子です，と言うだけで，弟子になれるわけではないことを忘れないでください。クリスチャンの集会に行く時だけでなく，どこにいる時でもイエスの弟子らしく行動しなければなりません。ほかにも，どんな場所でイエスの弟子らしく行動することが大切だと思いますか。—

そうです，家にいる時です。学校にいる時もそうです。イエスのほんとうの弟子になるには，どこにいても，毎日，朝から晩まで，いつもイエスのように行動しなくてはならないのです。わたしたちはそのことを決して忘れてはいけません。

聖書がイエスの弟子たちについて述べている次の箇所を一緒に読みましょう。マタイ 28:19, 20。ルカ 6:13-16。ヨハネ 8:31, 32。ペテロ第一 2:21。

どんな場所で，イエスの弟子らしく行動することが大切ですか

14章

人を許す必要があるのはなぜですか

だれかにひどいことをされた経験はありますか。— 傷つけられたり，意地悪なことを言われたりしましたか。— では，自分がされたように，その人に意地悪をしてよいでしょうか。—

傷つけられると，相手を傷つけて仕返しをする人がよくいます。しかしイエスは，ひどいことをされても，その人を許さなければならないと教えてくださいました。（マタイ 6:12）相手の人が何回も意地悪をしたときは，どうでしょう。その人を何回許す必要があるでしょうか。—

ペテロはそれを知りたいと思いました。ですから，ある日イエスに，『わたしはその人を七回まで許さなければいけないのですか』と聞きました。ところが七回ではふじゅうぶんでした。イエスは，もし人があなたに七十七回罪を犯すなら，『七十七回許さなくてはなりません』と言われました。

ずいぶん多い回数ですね。そんなに何回もひどいことや悪いことをされたら，いちいち覚えていられないでしょう。ですからイエスは，人から何回ひどいことをされたか覚えようとしてはならない，と言っておられたのです。許してほしいと言われたら，許してあげなくてはなりません。

イエスは，許すことの大切さを弟子たちに

ペテロは，人を許すことについて，どんなことを知りたいと思いましたか

返せるようになるまで，もっと時間をくださいと王様にたのんだどれいは，どうなりましたか

教えたいと思いました。そこで，ペテロの質問に答えた後，弟子たちに一つの物語を話されました。聞きたいと思いますか。—

昔，良い王様がいました。その王様はとても親切で，自分のどれいが困るとお金を貸すことまでしていました。でも，ある日，どれいたちからお金を返してもらいたいと思うようになりました。そこで，6,000万枚のお金を借りていたどれいが王様の前に連れて来られます。とてもたくさんのお金ですね。

どれいは，借りたお金を返せない仲間のどれいをどうしましたか

しかし, そのどれいは王様から借りたお金を使い果たしてしまい, 返すことができません。それで王様はそのどれいを売るように命じました。また, どれいの妻と子どもたち, そして持ち物すべても売るように言いつけました。そうすれば, 売って得たお金で, 貸した分を返してもらえます。それを聞いたどれいは, どんな気持ちになったと思いますか。—

そのどれいは王様の前でひざまずき, 『どうか, もっと時間をください。そうすれば, お借りしている分をぜんぶお返しいたします』と, お願いしました。もし, 自分が王様だったら, そのどれいをどうしたと思いますか。— 王様はどれいをかわいそうに思い, 許してやりました。そして, お金を返す必要はまったくない, 6,000万枚のうち1枚も返さなくてよい, と言いました。それを聞いて, どれいはどんなにうれしかったことでしょう。

でも, それからどうしたでしょうか。出かけて行って, 自分がお金を100枚だけ貸してあった別のどれいを見つけました。そして, この仲間のどれいの首をつかんでしめつけながら, 『わたしから借りた100枚のお金を返せ』と言いました。王様からたくさん許してもらったのに, そんなことをする人を想像できますか。—

さて, 100枚だけお金を借りていたどれいは貧乏だったので, すぐには返せませんでした。それで友達のどれいの足もとにひれふして, 『どうかもっと時間をください。そうすれば, 借りたものを返します』と, たのみました。たのまれたこの人は仲間のどれいにもっと時間をあたえるべきではないでしょうか。— 自分だったらどうしたと思いますか。—

その男は王様とはちがって, 親切ではありませんでした。お金をすぐに欲しがりました。それで, お金を返せない仲間のどれいをろうやに入れてしまいました。その出来事を始めから終わりまで見ていたほかのどれいたちは, それが気に入りません。ろうやにいるどれいをかわいそうに思い, 王様の所へ行って, 起きたことをぜんぶ伝えました。

王様も，そんなことは気に入りません。どれいが人を許そうとしないことにたいへん腹を立て，自分のもとに呼んでこう言いました。『悪いどれいよ，わたしはお前の借金をないことにして，許してやらなかったか。では，お前も仲間のどれいを許すべきではなかったか』。

人を許そうとしないどれいは，良い王様から教訓を学ぶ必要がありましたが，学びませんでした。それで王様は，そのどれいを，6,000万枚のお金を返せる時までろうやに入れました。もちろん，ろうやの中にいては，お金をもうけて返すことなどできませんから，その男は死ぬまでそこにいることになったでしょう。

イエスはこの話を語り終えると，弟子たちにこう言いました。『もしあなた方各自が，自分の兄弟を心から許さないなら，わたしの天の父もあなた方をこれと同じようにあつかわれるでしょう』。—マタイ 18:21-35。

分かりますね。わたしたちはみな神に負っているもの，つまり借りがたくさん

王様は，人を許そうとしないどれいをどうしましたか

あります。命そのものも神がくださったものです。ですから，わたしたちが神に負っているものに比べれば，他の人がわたしたちに負っているものはわずかです。ちょうど，一方のどれいが，もう一方のどれいに借りていた，つまり負っていた100枚のお金のようなものです。でも，わたしたちがまちがったことをしたために神に負っているものは，どれいが王様に借りていた6,000万枚のお金のようなものです。

神はとても親切な方で，わたしたちがまちがったことをしても許してくださいます。わたしたちの命を永遠にうばったりして借りを返させることはしません。でも，次の教訓は覚えておく必要があります。それは，**わたしたちにまちがったことをする人を許さなければ，神に許していただくことはできない**，ということです。これは考えなければならないことですね。—

では，だれかから意地悪なことをされたときに，その人があとで謝ったら，どうしますか。許しますか。— そういうことが何回もあったらどうしますか。それでも，許しますか。—

もし自分が，許してほしいとたのむほうの側だったら，相手の人に許してもらいたいと思いますね。— では，人にも同じようにしなくてはなりません。許してあげると口で言うだけでなく，心から許さなくてはなりません。そうすれば，偉大な教え手の弟子になりたいとほんとうに願っていることを示せます。

人を許すことの大切さを理解するために，次の聖句も一緒に読みましょう。箴言 19:11。マタイ 6:14，15。ルカ 17:3，4。

だれかから，許してほしいと言われたら，どうしますか

15章

親切に関する教訓

偏見とはどういうことか，知っていますか。— 偏見というのは，自分とは見た感じや話す言語がちがうというだけで，その人を好きになれないことです。ですから，偏見を持つというのは，相手をよく知らないうちに，その人のことを悪く思ったり，こういう人だと思いこんだりすることです。

どういう人かよく知らないのに，あるいは，ただ自分とはちがうというだけで，その人を良く思わないのは正しいことでしょうか。— いいえ，偏見は正しいことではありません。親切なことでもありません。自分たちとはちがっているようだというだけで，親切にしないのは良くありません。

ところで，皮膚の色や，話す言語が自分とはちがう人を知っていますか。— もしかすると，けがや病気のせいで，見た感じがふつうとはちがう人もいるでしょう。自分とちがうところがある人に優しく親切にしていますか。—

偉大な教え手イエス・キリストに聴き従う人は，だれに対しても親切にします。人の生まれた国や皮膚の色を問題にしてはなりません。どんな人にも親切にしなければならないのです。すべての人がそう考えているわけではありませんが，イエスはそういう教訓をおあたえになりました。では，その教訓について考えましょう。

人に対する偏見を持っていた一人のユダヤ人がイエスのもとにやって来て，『永遠に生きるには，何をしなければなりませんか』と質問しました。イエスには分かっていました。このユダヤ人は，自分と同じ人種か国籍の人にだけ親切にすればよい，とイエスに言わせようとしていたのです。それでイエスは，自分で答えるかわりに，『神の律法は，わたしたちが何をしなければならないと述べていますか』と聞きました。

その人は答えました。『あなたは心をつくして，あなたの神エホバを愛さなければならない。そして，あなたの隣人を自分自身のように愛さなければならない』。イエスは言いました。『そのとおりです。そのように行ないつづけなさい。そうすれば，とこしえの命を得るでしょう』。

しかし，その人には，自分とちがうところのある人たちにも優しく親切にしたいという気持ちがありませんでした。そこで，言い訳をしようとして，イエスに，「わたしの隣人とはいったいだれでしょうか」と質問しました。たぶん，「あなたの隣人とは，あなたの友達です」とか，「見た感じがあなたと同じような人たちです」などと言ってほしかったのでしょう。イエスは質問に答えるため，ユダヤ人とサマリア人の話をされました。こういうお話です。

一人の男の人がエルサレム市からエリコに向かう道を下っていました。その人はユダヤ人でした。歩いていたところ，強盗につかまり，打ちたおされたうえに，お金と衣服を取られてしまいました。強盗は，その人を打ちのめして半殺しにすると，道のかたわらに置いたまま，去って行きました。

それから間もなく，一人の祭司がその道をやって来ました。祭司は，ひどい傷

自分たちとどこかちがうように思える人たちに，どのように接する必要がありますか

を負った男の人を見ました。あなたならどうしたでしょうか。— 祭司は道の反対側を通って行ってしまいました。立ち止まることさえありませんでした。助けになることは一つもしませんでした。

次に，もう一人，とても信心深い人が道を下って来ました。それはエルサレムの神殿で仕えるレビ人でした。そのレビ人は立ち止まって助けるでしょうか。— いいえ，祭司とまったく同じようにしました。

最後に，サマリア人が通りかかりました。道の角を曲がってやって来るのが見えますか。— ユダヤ人がひどい傷を負って，たおれているのを見ました。実は，たいていのサマリア人とユダヤ人はにくみ合っています。（ヨハネ 4:9）では，このサマリア人は男の人を助けずに置き去りにするでしょうか。『どうしてこのユ

ダヤ人を助けなければならないのか。わたしがけがをしても,この人はわたしを助けてはくれないだろう』と思うでしょうか。

そのサマリア人は,道のわきにたおれている人を見て,たいへんかわいそうに思いました。置き去りにして,見殺しにする気にはなれません。それで,乗っていた動物から降りると,男の人の方へ行き,傷の手当てを始めました。傷に油とぶどう酒を注ぎました。こうすると,傷が早く治るのです。それから,傷に布を巻きました。

サマリア人は,自分が乗ってきた動物にけが人をそっと乗せ,ゆっくりと道を下って行きました。そして,宿屋つまり小さな旅館にたどり着くと,ユダヤ人のために部屋を取って,手厚くかいほうしました。

ここでイエスは,『これら3人のうちだれが良い隣人だと思いますか』と,相手のユダヤ人に聞きました。そう聞かれたら,どう答えたいと思いますか。祭司ですか,レビ人ですか,サマリア人ですか。—

質問をした男の人は,『良い隣人は,足を止めて,傷ついた人をかいほうした人です』と答えました。それでイエスは,『そのとおりです。行って,あなたも同じようにしなさい』と言いました。—ルカ 10:25-37。

すばらしい話ではありませんか。だれがわたしたちの隣人かということをはっきり教えていま

サマリア人が良い隣人だったのはなぜですか

す。わたしたちの隣人とは，親しい友達だけではありません。自分と同じ皮膚の色をした人たち，自分と同じ言語を話す人たちだけというわけでもありません。イエスは，生まれた国や見た感じや話す言語に関係なく，どんな人にも親切にするよう教えてくださいました。

エホバ神はそのような方です。偏見を持っておられません。イエスはこう述べました。『天におられるあなた方の父は悪い人々の上にも良い人々の上にもご自分の太陽をのぼらせ，良い人々の上にも良くない人々の上にも雨を降らせてくださいます』。ですから，わたしたちは神のように，どんな人にも親切にしなければなりません。—マタイ 5:44-48。

では，けがをした人を見たら，どうしますか。— その人が外国人だったら，自分とちがう皮膚の色の人だったら，どうでしょうか。それでも，その人はあなたの隣人ですから，助けてあげなくてはなりません。自分は小さくて助けられないと思ったら，年上の人に助けを求めてください。そうでなければ，おまわりさんか，学校の先生を呼ぶこともできます。サマリア人のように親切にするとは，そういうことです。

偉大な教え手は，わたしたちが人に親切にすることを願っておられます。人を差別することなく助けるように望んでいます。良い隣人の話をされたのはそのためです。

ここで学んだ，人種や国籍に関係なく人に親切にするという教訓について，次の聖句を読んで考えてください。箴言 19:22。使徒 10:34，35；17:26。

16章

ほんとうに重要なのは何ですか

ある日，一人の男の人がイエスに会いに来ました。その人は，イエスがたいへんかしこいことを知っていました。それでイエスに，『先生，わたしの兄弟に，持ち物のいくらかをわたしに分けるよう命じてください』と言いました。兄弟の持ち物をいくらかもらってもよいはずだと考えていたのです。

もし，あなたがイエスだったら，何と言ったと思いますか。— イエスは，その人に問題があることを知っていました。でも，兄弟の持ち物を必要としていたということが問題だったのではありません。その人の問題は，生活の中でほんとうに重要なのは何かを知らないということでした。

その点について考えてみましょう。わたしたちは何をいちばん重要なこととしなければならないでしょうか。おもしろいおもちゃや新しい服などを持っていることですか。— そうではありません。もっともっと重要なことがあります。イエスがあたえたいと思った教訓はそのことでした。そこで，神を忘れた人の話をされました。聞きたいと思いますか。—

その人は大金持ちでした。つまり非常に富んでいました。土地があり，倉庫もいくつか持っていました。でも，植えた作物がたいへんよくできたため，穀物が倉庫に入り切らなくなりました。それで，どうするのでしょうか。その人は心の中でこう言いました。『倉庫を取りこわして，もっと大きいのを建てよう。そして，わたしの穀物と良い物をぜんぶそれら新しい倉庫にたくわえるのだ』。

それはかしこいことだ，と金持ちは考えま

この人にはどんな問題がありましたか

した。また，多くの物をたくわえようとするのだから，自分はずいぶん利口な人間だと思いました。心の中でこんなことも考えます。『良い物をたくさんたくわえた。これでわたしは，何年も困らないだろう。だから，ゆっくりできるぞ。食べて，飲んで，楽しもう』。しかし，その金持ちの考えには，まちがったところがありました。どこがまちがっていたか，分かりますか。— 自分や自分の楽しみのことしか考えていなかったのです。神を忘れていました。

この金持ちは，いま何を考えていますか

そこで，神は，その金持ちにこう話されました。『おろか者よ，あなたは，今晩死ぬであろう。そうなれば，あなたのたくわえた物は，だれのものになるのか』。金持ちはたくわえた物を死んだあとも使えるでしょうか。— 使えません。だれかほかの人のものになってしまうでしょう。イエスはこう言いました。『自分のために宝をためても，神から見て富んでいない者はこうなるのです』。—ルカ 12:13-21。

その金持ちのようにはなりたくないですね。— その人の人生の主な目的は，物やお金を持つことでした。それはまちがいでした。その人は，もっと欲しいといつも思っていました。でも，『神から見て富んで』はいませんでした。

その金持ちのような人はおおぜいいます。その人たちは，もっと欲しいといつも思っています。しかし，そのために大きな問題が起きることもあります。例えば，あなたはおもちゃを持っていますね。— どんなおもちゃがありますか。言ってみてください。— もし，ボールやお人形など，自分が持っていないおもちゃを友達が持っていたらどうでしょうか。お父さんやお母さんに，買ってほしいとねだるのは正しいことでしょうか。—

おもちゃがとても重要に思えるときもあるでしょう。でも，しばらくすると，おもちゃはどうなりますか。— 古くなりますね。こわれてしまうかもしれません。そうしたら，もういらなくなりますね。ところが，あなたには，そういうおもちゃよりもずっと大切なものがあるのです。何のことか分かりますか。—

それはあなたの命です。 命はとても重要なものです。命がなければ，何もできないからです。でも，その命が

あなたには，おもちゃよりも大切などんなものがありますか

続くかどうかは，神に喜んでいただけることを行なうかどうかで決まりますね。— ですから，神を忘れてしまったあのおろかな金持ちのまねをしないようにしましょう。

その金持ちのようにおろかなことをするのは子どもだけではありません。大人

でも，そのような人はおおぜいいます。中には，もっと欲しいといつも思っている人もいます。その日の食べ物，着る物，住む場所がないわけではないのに，もっと欲しいと思うのです。たくさんの服や，もっと大きな家を欲しがります。そういう物にはお金がかかるので，お金をたくさん手に入れるために一生懸命働きます。そして，お金が多くなればなるほど，もっと欲しいと思うようになります。

大人の中には，お金を手に入れようとしてあまりにもいそがしくなり，家族と一緒に過ごす時間がなくなってしまう人もいます。神のために用いる時間もありません。お金があれば，ずっと生きていることができるのでしょうか。— いいえ，できません。死んでから，そのお金を自分で使えますか。— いいえ，使えません。なぜなら，死んだ人はまったく何もできないからです。—伝道の書 9:5, 10。

それでは，お金があるのはまちがったことでしょうか。— そうではありません。お金があれば，食べ物や着る物を買うことができます。聖書も，お金は身の守りになると述べています。（伝道の書 7:12）しかし，あまりにもお金を大切に思うなら，問題をかかえることになります。自分自身のために宝をたくわえても，神から見て富んでいなかった，あのおろかな金持ちのようになるでしょう。

神から見て富んでいるとは，どういう意味でしょうか。— それは生活の中で神を第一にするという意味です。ある人たちは神を信じると言い，信じるだけでじゅうぶんだと考えます。でも，その人たちはほんとうに神から見て富んでいるでしょうか。— いいえ，富んではいません。神を忘れた金持ちのようです。

イエスは天の父を決して忘れませんでした。たくさんのお金をもうけようとはされませんでした。物やお金をたくさん持っていたわけでもありません。イエスは生活の中でほんとうに重要なことをご存じでした。それは何だか分かりますか。— 神から見て富んでいることです。

どうすれば神から見て富むことができるでしょうか。— 神に喜ばれることを行なうなら，神から見て富むことができます。イエスは，『わたしはつねに，その方の喜ばれることを行ないます』と言いました。（ヨハネ 8:29）わたしたちが神

の望まれることを行なうなら，神はうれしく思われます。では，神に喜んでいただくために，どんなことができますか。— そのとおりです。聖書を読んだり，クリスチャンの集会に行ったり，神に祈ったり，人々が神について学ぶのを手伝ったりできますね。それらは確かに，生活の中でいちばん重要なことです。

イエスが神から見て富んでいたので，エホバはイエスを大切にあつかわれました。永遠の命という報いもイエスにおあたえになりました。イエスに見ならうなら，エホバはわたしたちのことも愛し，大切にあつかってくださいます。ですから，イエスのようになりましょう。そして，神を忘れたあの金持ちのようには決してならないようにしましょう。

物やお金に対して正しい見方をすることについては，次の聖句にも記されています。箴言 *23:4; 28:20*。**テモテ第一** *6:6-10*。**ヘブライ** *13:5*。

この子は，ほんとうに重要などんなことを行なっていますか

17 章

どうすれば幸福になれますか

わたしたちはみな，幸福になりたいと思っていますね。— でも，ほんとうに幸福な人は多くありません。なぜでしょうか。— それは，幸福の秘けつを学んでいないからです。ふつう，物をたくさん手に入れたら幸福になれると考えられています。しかし，物をたくさん手に入れても，いつまでも幸福でいられるわけではありません。

幸福の秘けつとして大切なことがあります。偉大な教え手は，『受けるよりあたえるほうが幸福である』と言いました。（使徒 20:35）さあ，どうすれば幸福になれますか。— そのとおりです。人に何かをあたえたり，人のために何かをしてあげることです。知っていましたか。—

その点についてもう少し考えてみましょう。おくり物をもらう人は幸福ではないとイエスは言いましたか。— そうは言われませんでした。おくり物をもらうのは好きですね。— だれでも好きです。良い物をもらうと，幸せな気持ちになります。

エホバが「幸福な神」なのはなぜですか

クッキーをぜんぶ一人で食べてしまうことよりも，もっと幸福を味わえるのはどうすることですか

しかしイエスは，あたえるほうがずっと幸福であると言いました。では，だれよりも多くのものを人々にあたえたのはだれだと思いますか。— そのとおりです。エホバ神です。

聖書は，神が『すべての人に命と息とすべての物をあたえておられる』と述べています。神は天からの雨や日光もあたえておられます。そのおかげで植物が育ち，人間は食べ物を手に入れることができます。（使徒 14:17; 17:25）聖書がエホバを「幸福な神」と呼んでいるのも不思議ではありません。（テモテ第一 1:11）神が幸福であられる理由はいくつかありますが，その一つは，だれかに何かをあたえるということです。ですから，わたしたちも，何かをあたえるなら幸福を味わえます。

では，人にどんなものをあたえることができるでしょうか。例を挙げてみてください。— おくり物はお金のかかることもあります。お店で売っている物をおくり物にするときは，お金をはらわなければなりません。ですから，そういうおくり物をしたければ，買えるだけのお金をためなければならないでしょう。

しかし，お店で買った物でなければおくり物にできないというわけではありません。例えば，暑い日に飲むコップ一杯の水はほんとうにおいしいものです。ですから，のどのかわいた人におくり物として水を上げれば，あたえることから幸福を味わえます。

いつか，お母さんと一緒にクッキーを焼くことがあるかもしれません。楽しいでしょうね。できたクッキーをぜんぶ一人で食べてしまうこともできますが，それよりももっと幸福を味わえるのは，どうすることだと思いますか。— そのとおりです。少しでも友達にプレゼントすることができます。いつか実際にやってみたいと思いますか。—

ルデアは
パウロとルカに
何と言っていますか

ルデアがパウロとルカに食べ物などを提供して
幸福に感じたのはなぜですか

偉大な教え手も使徒たちも，あたえるなら幸福を味わえることを知っていました。その人たちは他の人に何をあたえたのでしょう。— 世界中でいちばん良いものです。神についての真理を知っていたので，そのような良いたよりをみんなに喜んで伝えました。そのようにしてあたえても，そのためのお金をはらってもらったりはしませんでした。

ある日のこと，使徒パウロとその親友である弟子ルカは，一人の女の人に会いました。その女の人も，あたえることによって幸福を味わいたいと思っていました。出会ったのは，ある川のほとりです。パウロとルカは，そこが祈りの場所だと聞いて出かけて行ったのです。行ってみると，確かに，何人かの女の人が祈りをささげていました。

パウロはその人たちに，エホバ神と神の王国に関する良いたよりを伝え始めました。その一人がルデアという女の人で，よく注意をはらっていました。それからルデアは，良いたよりを聞けてとてもうれしいということを示すため，何かしたいと思いました。そこでパウロとルカに，『もしみなさんが，わたしをエホバに忠実な者と見てくださったのでしたら，わたしの家に入ってとまっていらしてください』と強くすすめ，とにかく自分の家に来てもらうようにしました。—使徒 16:13-15。

ルデアは神のしもべである二人を喜んで自分の家にむかえました。エホバとイエスについて，またどうすれば永遠に生きることができるかについて学ぶのを助けてくれたその人たちを大切にしたかったのです。パウロとルカに食べ物や休む場所を提供できて，ルデアは幸福でした。このようにルデアは，心からあたえたいと思ったので，あたえることによって幸福を味わいました。そのことを忘れてはなりません。おくり物をしなくてはいけないよ，とだれかに言われることがあるかもしれません。でも，心からそうしたいと思っていなければ，あたえても幸福を味わえません。

例えば，自分が食べたいお菓子を持っているとします。もしわたしが，少しほかの子に上げなさいと言ったら，喜んでそうしますか。— では，大好きな友達に会ったとき，お菓子を持っているとしましょう。だれに言われなくてもお菓子をそ

の友達に分けてあげたいと思えたなら，幸福を味わえるのではないでしょうか。—

わたしたちは，だれかをほんとうに好きになって，その人に何でも上げたい，自分の分はなくてもよいと思うようになることがあります。神への愛が深まると，わたしたちは神についてそのように感じるはずです。

この貧しい女の人が，持っているぜんぶのお金をあたえて幸福に感じたのはなぜですか

偉大な教え手は，そのように感じていた一人の貧しい女の人を知っていました。その女の人がエルサレムの神殿にいるのを見たのです。その人は二つの小さな硬貨しか持っていませんでした。それでぜんぶでした。でも，それを二つとも寄付として，つまり神殿のためのおくり物として箱に入れました。だれかから言われてそうしたのではありません。そこにいたほとんどの人は，その女の人のしたことに気づきもしませんでした。女の人は自分がしたいと思ったので，また，エホバをほんとうに愛していたのでそうしたのです。あたえることができて，その人は幸福でした。—ルカ 21:1-4。

あたえる方法はいろいろあります。いくつか思いつきますか。— 心からしたいと思ってあたえるなら，幸福を味わえます。ですから，偉大な教え手は，『いつもあたえなさい』と教えているのです。（ルカ 6:38）そのようにするなら，みんなを幸福にすることができます。そして，だれよりも自分が幸福になります。

次の聖句を読んで，あたえることが幸福をもたらすことについてもう少し調べましょう。マタイ 6:1-4。ルカ 14:12-14。コリント第二 9:7。

18章

忘れずに感謝の言葉を述べますか

きょうも食事をしましたね。— だれが作ってくれましたか。— たぶん，お母さんかだれかでしょう。でも，食事に対してまず神に感謝しなければならないのはなぜですか。— なぜなら，人の食物となるものを育ててくださるのは神だからです。けれども，食事を作る人や出してくれる人にも感謝する必要があります。

親切にしてもらっても，感謝の言葉を述べるのを忘れることがありますね。偉大な教え手が地上におられた時，今はハンセン病と呼ばれる病気にかかっていた人で，感謝の言葉を述べるのを忘れた人たちがいました。

ハンセン病とはどんな病気か知っていますか。— ハンセン病になると，体の肉がくずれてしまうことさえあります。イエスが地上におられた時，ハンセン病の人はみんなからはなれて暮らさなければなりませんでした。また，人がやって来るのを見たら，近寄ってはいけない，と大声でさけばなければなりませんでした。近寄りすぎると同じ病気にかかるかもしれないからです。

イエスはこの病気の人にとても親切でした。ある日のこと，エルサレムに向かっていたイエスは，小さな町を通らなければなりませんでした。その町に近づくと，この病気にかかっていた10人の人がイエスに会いにやって来ました。イエスには，あらゆる種類の病気を治す力が神からあたえられている，と聞いていたからです。

その人たちはイエスに近寄らないで，遠くはなれた所に立っていました。でも，イエスならこの病気を治せると信じていたので，偉大な教え手を見ると，『先生！ イエス！ わたしたちを助けてください』と大声でさけびました。

**ハンセン病にかかっていたこの人たちに
イエスは何と言っているのでしょう**

病気の人のことをかわいそうだと思いますか。— イエスはそう思いました。イエスはこの病気がどれほどつらいものかをご存じでした。それで，その人たちに，「行って，自分を祭司たちに見せなさい」と答えました。—ルカ 17:11-14。

イエスがそう答えたのはなぜでしょうか。エホバがご自分の民に，この病気に関する律法をあたえておられたからです。その律法によると，神の祭司が患者の体を調べることになっていました。祭司は病気がすっかり治ったら，そのことを患者に告げます。治った人は，健康な人と元どおり一緒に生活できました。—レビ記 13:16，17。

でも，その10人の人はまだ病気が治っていませんでした。では，イエスから言われたとおり祭司のところへ行ったでしょうか。— そうです，さっそく出かけて

行きました。イエスが自分たちの病気を取り除いてくれると信じていたにちがいありません。それで，どうなったでしょうか。

祭司のところに行く途中で，病気が治りました。肉が元どおりになり，健康になったのです。イエスの力を信じたかいがありました。その人たちはどんなにうれしかったことでしょう。では，感謝を表わすために，何をする必要があったでしょうか。あなたならどうしたと思いますか。—

病気を治してもらった一人の人は，イエスのところにもどって来て，神をほめたたえ，エホバに栄光を帰するようになりました。それは正しいことでした。その人を治す力は神から出ていたからです。また，その人は，偉大な教え手の足もとにひれふして，感謝しました。イエスにしていただいたことをほんとうにありがたく思ったからです。

では，ほかの9人はどうしたでしょう。イエスはこうたずねました。『病気が治った人は10人いたのではありませんか。では，ほかの9人はどこにいるのですか。神に栄光を帰するためにもどって来たのは，一人だけですか』。

そのとおりでした。10人のうち，神に栄光を帰し，つまり神を賛美し，もどって来てイエスに感

ハンセン病だったこの人は何をすることを忘れませんでしたか

謝したのは,一人だけでした。しかも,その人はよその国の人で,サマリア人でした。ほかの9人は神にもイエスにも感謝しませんでした。—ルカ 17:15-19。

あなたは,この2種類の人のどちらに似ていますか。— そのサマリア人のようになりたいと思いませんか。— では,だれかに何か親切なことをしてもらったなら,忘れずに何をしなければなりませんか。—感謝を表わさなければなりません。感謝の言葉を述べるのを忘れる人がよくいます。でも,感謝の言葉を述べるのは良いことです。そうすれば,エホバ神とみ子イエスが喜んでくださいます。

ハンセン病が治ってイエスのもとへもどって来た人にどのように見ならえますか

考えてみると,いろいろな人からたくさん親切にしてもらっていますね。例えば,そうですね,あなたは病気になったことがありますか。— そのハンセン病の10人と同じほど重い病気をしたことはないとしても,ひどいかぜを引いたり,おなかが痛くなったりしたことはあるでしょう。だれかが,看病してくれましたか。— 薬を飲ませてくれたり,いろいろ面倒を見てくれたでしょう。病気が良くなるよう助けてもらって,うれしいと思いましたか。—

病気を治してもらったサマリアの男の人は,そのことをイエスに感謝しました。それでイエスは幸福を味わいました。では,お父さんやお母さんから何かをしてもらったときに感謝の言葉を述べるなら,お父さんやお母さんは幸福を味わうでしょうか。— もちろん,味わいます。

また,毎日毎日, 毎週毎週,あなたのために何かをしてくださっている人たちがいます。それを仕事にしているのかもしれません。もしかすると,その仕事を

喜んでしておられるということもあるでしょう。それなのに，その人たちに感謝の言葉を述べるのを忘れることがあります。学校の先生は，子どもたちの勉強を助けようと努力しておられるでしょう。それは先生の仕事です。でも，勉強を助けてくださる先生に感謝するなら，先生は喜んでくださいます。

だれかからちょっと親切にしてもらうこともありますね。だれかが荷物を持ってくれることがありますか。食事のとき，だれかが食べ物を取ってくれることがありますか。そうしたちょっとしたことに対しても，感謝の言葉を述べるのは良いことです。

地に住む人々に感謝の言葉を述べるのを忘れなければ，天のお父さんに感謝するのを忘れることはまずないでしょう。それにしても，エホバに感謝できる理由は，なんとたくさんあるのでしょう。エホバはわたしたちに命をあたえ，生活を楽しむために必要な良いものすべてを備えてくださいました。ですから，毎日，神をほめたたえて神に栄光を帰するのは当然のことなのです。

忘れずに感謝の言葉を述べるのが大切なのはなぜですか

感謝することについて述べている次の聖句を読みましょう。詩編 92:1。エフェソス 5:20。コロサイ 3:17。テサロニケ第一 5:18。

19章

けんかをするのは良いことですか

えらそうに，また強そうにしている子がいますか。— そういう子と一緒にいたいと思いますか。それとも，親切でけんかをしない人，つまり平和を望む人と一緒にいたいと思いますか。— 偉大な教え手は，「平和を求める人たちは幸いです。その人たちは『神の子』と呼ばれるからです」と言いました。—マタイ 5:9。

しかし，ほかの人のしたことで腹が立つときもあります。そうですね。— そういうときは，仕返しをしたくなるかもしれません。イエスの弟子たちも，イエスと一緒にエルサレムに向かっていた時に，そのような経験をしました。では，その話をすることにしましょう。

イエスは旅を始めて少ししてから，休む場所を見つけるために何人かの弟子をサマリア人の村へつかわしました。しかし，その村の人々はイエスと弟子たちがとまるのをいやがりました。サマリア人は別の宗教を持っていて，崇拝をしにエルサレム市へ行く人をきらっていたのです。

ヤコブとヨハネはサマリア人にどんな仕返しをしたいと思いましたか

そういうとき，あなただったらどうしたと思いますか。腹を立てたでしょうか。仕返しをしたいと思ったでしょうか。— 弟子のヤコブとヨハネはそう思いました。それでイエスに，『天から下ってかれらをほろぼすようわたしたちが火に命ずることをお望みですか』と言いました。二人がイエスから『かみなりの子ら』と呼ばれたのも不思議ではありません。しかしイエスは，そのようなことをするのは良くないと言いました。—ルカ 9:51-56。マルコ 3:17。

ほかの人からときどき意地悪をされることは，確かにあります。仲間外れにされ，遊んでもらえないこともあるでしょう。「あっちへ行ってよ」と言われることさえあるかもしれません。そのようにされると，いやな気持ちがしますね。その人たちに何か仕返しをしたくなるかもしれません。でも，それは良いことですか。—

聖書を見てみましょう。箴言 24章29節を開いてください。そこにはこう書かれています。『「かれがわたしにした通りに，わたしもかれにしよう。わたしは各々にその行ないにしたがって報いてやろう」と言ってはならない』。

これはどういう意味だと思いますか。— 仕返ししようとしてはいけないということです。だれかに意地悪をされたというだけで，その人に意地悪をするのはまちがっています。では，けんかを仕掛けてくる人がいたらどうでしょうか。いろいろな悪口を言ってあなたをおこらせようとします。あなたをばかにして，こわいんだろう，と言います。いくじなしと言われてしまいました。さあ，どうしたらいいでしょう。けんかをしてしまってもいいですか。—

聖書に何と書いてあるか，もう一度見てみましょう。マタイ 5章39節を開いてください。イエスはこう言っています。「邪悪な者に手向かってはなりません。だれでもあなたの右のほほを平手打ちする者には，他のほほをも向けなさい」。イエスはどういう意味でそう言ったと思いますか。片方のほっぺたをげんこつでなぐられたら，もう一方のほっぺたもなぐってもらう必要があるという意味ですか。—

いいえ，イエスはそういうことを言っていたのでは決してありません。平手打ちは，げんこつでなぐることとはちがいます。むしろ，おしたりついたりすること

に似ています。人はけんかを仕掛けるために平手打ちを使うことがあります。わたしたちをおこらせたくてそうするのです。ですから，もしこちらがおこっておし返したりつき返したりしたら，どうなりますか。— おそらくけんかになってしまうでしょう。

しかしイエスは，弟子たちがけんかをすることを望みませんでした。それで，だれかがわたしたちを平手打ちするとしても，同じようにやり返してはいけないと言われたのです。おこってけんかをするべきではありません。そんなことをすれば，わたしたちもけんかを始めた人と何もちがわないことになります。

もし問題が起きたなら，どうするのがいちばん良いと思いますか。— その場を去るのがいちばんです。相手の人がそのあと何回かおしたりついたりすることはあっても，それできっと問題は収まるでしょう。その場を去っても，弱虫とい

うわけではありません。そのようにするのは,正しいことを守る強い人なのです。

しかし,もしけんかになって,勝ったらどうでしょうか。どんなことになるかもしれませんか。— 負けた人が友達を引き連れてもどって来ることがあります。長い棒かナイフであなたを傷つけることもあるでしょう。イエスがわたしたちにけんかをしてほしくないと思ったのはどうしてか,これで分かりますね。—

けんかをしている人を見たら,どうすればよいのでしょう。どちらか一方の味方をすべきですか。— 聖書には正しい答えが書いてあります。箴言26章17節を開きましょう。そこには,『通りすがりに自分に関係のない言い争いに対して激しくいかる者は,犬の耳をつかむ者のようだ』とあります。

犬の両耳をつかんだら,どうなるでしょうか。犬は痛がって,かみつくでしょうね。犬がにげようとすればするほど,犬の耳をしっかりにぎらなければなりません。そうすると,犬はいよいよ気が立ってきます。手をはなしたら,きっとひどくかみつかれるでしょう。しかし,犬の耳をつかんだまま,ずっと立っていることはできますか。—

そうです。人のけんかに手出しすると,それと同じように面倒なことになります。だれがけんかを仕掛けたのか,なぜけんかになったのか,ということは,わたしたちには分からないでしょう。だれかがひどくなぐられている場合はどうでしょう。その人は,なぐっている人から何かをぬすんだのかもしれません。もしその人を助けるなら,どろぼうを助けることになります。それは良いことではありませんね。

他の人のけんかに手出しすることと,犬の両耳をつかむことは,どこが似ていますか。傷を負うかもしれないので,そういうことをしてはいけません

では，けんかを見たらどうすべきですか。— 学校で見たら，急いで先生に知らせましょう。学校からはなれたところでは，お父さんかお母さん，あるいはおまわりさんを呼びます。けんかを好む人がいるとしても，わたしたちは平和を求めなくてはなりません。

イエスのほんとうの弟子は，けんかをさけるためにできるだけのことをします。そのようにして，自分が，正しいことを守る強い人間であることを示します。聖書には，イエスの弟子は『争う必要はありません。むしろ，すべての人に対しておだやかであることが必要です』と書かれています。—テモテ第二 2：24，25。

けんかをさけるのに役立つ良い助言をさらに調べるため，次の聖句を読みましょう。ローマ 12：17-21。ペテロ第一 3:10，11。

20章

一番になりたいといつも思いますか

いつも一番になりたがる人を知っていますか。— だれかをおしのけて列の先頭に行こうとするような人です。そうする人を見たことがありますか。— 偉大な教え手は，大人でさえ，先頭のいちばん大切な場所に行こうとする様子を見ていました。イエスはそういうことを好みませんでした。どんなことがあったのか調べてみましょう。

聖書によると，イエスは，あるパリサイ人の家の宴会に招かれました。そのパリサイ人は，力のある宗教指導者でした。その家に着いたイエスは，入って来るほかの客たちがいちばん良い席を選ぶ様子を注意して見ておられました。それでイエスは，招かれた人たちに一つの話をしました。どんな話か聞いてみたいと思いますか。—

人々が一番になろうとしているのを見たことがありますか

イエスは,『だれかから結婚式の祝宴に招かれたなら,いちばん良い席つまり最も重要な席を取ってはなりません』と言いました。なぜだと思いますか。— だれか自分よりえらい人が招かれているかもしれないからです,とイエスは説明しました。その場合,この絵から分かるように,祝宴を開いた人が来て,『この人にその席をゆずって,あなたはあちらへ行ってください』と言うでしょう。言われた人はどんな気持ちがするでしょうか。— あまり重要でない席に移るところをほかの客全員に見られるので,はずかしい思いをすることでしょう。

イエスが教えておられたのは,いちばん高い席を望むのは正しくないということです。それで,こう言いました。『結婚式の祝宴に招かれたときには,いちばん低い席に座りなさい。すると,あなたを招いた人が来て,「友よ,もっと高いほうへ進んでください」と言うかもしれません。そうすると,あなたは,もっと良い席に移るので,ほかの客全員の前でほまれを受けることになるのです』。—ルカ 14:1,7-11。

イエスの話の要点が分かりましたか。— それでは一つの例について考えてみましょう。満員のバスに乗るところです。急いで自分の席を取り,お年寄りを立たせたままにするというのは,正しいことでしょうか。— イエスはそれを良いと思われるでしょうか。—

わたしたちが行なうことはイエスにとって重要な意味はない,と言う人がいるかもしれません。あなたもそう思いますか。— イエスはパリサイ人の家で開かれた宴会に出席した時,人々が席を選ぶ様子を注意して見ておられましたね。では,今日わたしたちが行なうことにも,同じように関心をはらってくださるのではないでしょうか。— 今イエスは天におられるので,わたしたちの様子をよく注意して見ることができます。

一番になりたがる人は，問題を引き起こすことがあります。たいてい言い争いになり，ほかの人たちはおこりだします。子どもたちが一緒にバスに乗って出かけると，ときどきそういうことがありますね。バスのドアが開いたとたん，子どもたちは真っ先に乗ろうとします。いちばん良い席，窓際の席に座りたがります。すると，どうなるでしょうか。— そうです。おたがいに，かっとなるでしょうね。

一番になりたいという気持ちは，いろいろな問題を引き起こすことがあります。イエスの使徒たちの間でさえ，それが元で問題が起きました。この本の6章で学んだように，使徒たちは自分たちの中でだれがいちばんえらいかについて言い争いました。その時，イエスはどうしたでしょうか。— そうですね。使徒たちを正しましたね。しかし，使徒たちはあとで，また言い争いました。どうして言い争いになったのか調べてみましょう。

使徒たち，それにほかの何人かが，イエスと一緒にエルサレム市に向けて

イエスは，最も良い，あるいは一番目の席を取る人のことを話し，どんな教訓をあたえていましたか

最後の旅をしています。イエスはその時までにご自分の王国について話していたので，ヤコブとヨハネは自分たちも王になってイエスと一緒に支配しようと考えていました。そのことは，二人の母親サロメにも話してありました。（マタイ27:56。マルコ15:40）そこでエルサレムへ向かうその旅の途中，サロメはイエスに近づき，身をかがめてお願いをします。

イエスが「あなたは何を望むのですか」と聞くと，サロメは，息子たちがイエスの王国でイエスのとなりに，一人は右，一人は左に座れるようにしてほしいと答えます。ヤコブとヨハネが母親を通して何をたのんだのか知ったら，ほかの10人の使徒はどう感じると思いますか。—

そのとおりです。ほかの使徒たちはヤコブとヨハネがしたことに腹を立てました。そこでイエスは使徒たち全員に良い助言をあたえます。イエスによると，

サロメはイエスにどんなお願いをしましたか。その結果，どうなりましたか

国々の支配者は力のあるえらい人になりたいと強く願い，みんなを従わせる高い地位に就きたがります。しかし，ご自分の弟子はそのようであってはならないのです。それどころか，『だれでもあなた方の間で第一でありたいと思う者はあなた方のどれいでなければなりません』とイエスは言われます。この意味を考えてみてください。—マタイ 20:20-28。

どれいは何をするか知っていますか。— ほかの人から仕えてもらうことは考えず，ほかの人に仕えます。第一の席ではなく，最も低い席に着きます。いちばんえらい人としてではなく，いちばん低い者として行動します。イエスの言葉を忘れないでください。イエスは，第一でありたいと思う者はほかの人に対してどれいのように行動しなければならない，と言われたのです。

さて，これはどういう意味だと思いますか。— どれいは，いちばん良い席にだれが座るかということについて主人と言い争うでしょうか。あるいは，だれが最初に食べるかについて，あれこれ言うでしょうか。どう思いますか。— どれいはいつでも自分より主人を先にする，とイエスは説明しました。—ルカ 17:7-10。

では，一番になろうとする代わりに，どうする必要がありますか。— みんなのどれいのようになる必要がありますね。それは，自分よりも人を先にするということです。ほかの人のほうが自分よりえらいと考えるということです。ほかの人を第一にするためにできることが思いうかびますか。— 40ページと41ページにもどって，どのように仕えたら，ほかの人を第一にすることができるかをもう一度見てください。

偉大な教え手が，ほかの人に仕えて，ほかの人を自分よりも先にしたことは覚えているでしょう。偉大な教え手は，使徒たちと過ごした最後の晩に，ひざをついて使徒たちの足を洗うことまでしました。わたしたちもほかの人に仕えて，ほかの人を第一にするなら，偉大な教え手にもその父であるエホバ神にも喜んでいただけるでしょう。

ほかの人を自分よりも先にすることをすすめている聖句をさらにいくつか読みましょう。ルカ 9:48。ローマ 12:3。フィリピ 2:3, 4。

21章

自慢するのは正しいことですか

自慢するとはどういうことでしょうか。分かりますか。— 例を挙げましょう。あまり得意でないことをしようとした経験がありますか。それは，サッカーボールをけることや，なわとびだったかもしれませんね。そのとき，だれかが，「アハハ。君よりぼくのほうがうまくできるよ」と言いましたか。— それが，自慢するということです。

人からそう言われたら，どんな気持ちがしますか。いい気持ちがしますか。— では，あなたが自慢したら，ほかの人はどう感じるでしょうね。—「君より，ぼくのほうが上」と言うのは，親切なことでしょうか。— そう言う人はエホバに好かれるでしょうか。—

偉大な教え手は，自分たちのほうが上だと考える人たちを知っていました。その人たちはほこって自慢し，みんなをばかにしていました。それで，ある日イエスは，自慢するのがどれほどまちがったことかを教えるため，その人たちに一つの話をなさいました。注意して聞いてみましょう。

それはパリサイ人と収税人に関する話です。パリサイ人というのは宗教の教師で，ほかの人たちよりも正しくけがれのない者であるかのようにふるまうことがよくありました。イエスの話に出てくるパリサイ人は，祈りをするため，エルサレムにある神の神殿に上って行きました。

収税人も祈りをするため神殿に上って行きました。収税人はほとんどの人からきらわれていました。みんなをだまそうとしていると思われていたからです。確かに，収税人の多くは，いつでも正直だとは限りませんでした。

パリサイ人は神殿で次のように神に祈りはじめました。『神よ，わたしは，自分がほかの人たちのような罪人でないことを感謝します。わたしは，人をだますこ

とも，ほかの悪いこともしません。そこにいる収税人のような者ではありません。正しい人間です。食物を取らない時が週に2回ありますから，あなたについて考える時間が人よりたくさんあります。また，自分が得る物すべての十分の一を神殿に納めています』。そのパリサイ人は，自分はほかの人より上だとほんとうに思っていたのです。そうではないでしょうか。— だから，そのことを神にも言いました。

しかし，収税人はそうではありませんでした。祈るとき，目を天の方に上げようともしませんでした。頭を垂れたまま，遠くはなれた所に立っていました。収税人は罪を犯したことをとても残念に思い，悲しくて胸を打ちました。自分がどんなに良い人間かというようなことは言おうとせず，『神よ，罪人のわたしに思いやりをお示しください』と祈りました。

二人のうちどちらが神に喜ばれたと思いますか。自分はとても良い人間だと思っていたパリサイ人でしょうか。それとも，罪を犯したことを残念に思っていた収税人でしょうか。—

神に喜ばれたのは収税人です，とイエスは言われました。なぜでしょうか。イエスはこう説明しています。『自分が人より上であるかのように見せたがる者はみな，低くされるからです。しかし，自分を低い者とみなす人は高められます』。—ルカ 18:9-14。

イエスはこの話を通してどんな教訓をあたえていたのでしょうか。— 自分は人より上だと思うのはまちがっている，ということです。自分のほうが上だと思う，と口では言わないかもしれませんが，行

神が収税人のことを喜び，パリサイ人のことを喜ばれなかったのはなぜですか

動では，そう思っていることを示す場合があります。そのように行動したことがありますか。— 使徒ペテロのことを考えてみましょう。

イエスが使徒たちに，わたしがとらえられたら，あなた方はみなわたしからはなれると言った時，ペテロはえらそうに，『**たとえほかのみんながあなたからはなれるとしても，わたしは決してそうはしません**』と言いました。しかし，ペテロはまちがっていました。自信を持ち過ぎていたのです。ペテロはイエスからはなれてしまいました。でも，再びイエスに従うようになりました。そのことについてはこの本の30章で学びます。—マタイ 26：31-33。

現代の例についても考えましょう。学校で，あなたと一人の友達が何かの質問をされたとします。自分はすぐ答えられるのに，友達はそうでないとしたらどうでしょう。もちろん，答えが分かると，いい気分になりますね。でも，すぐ答えられない子を自分と比べるのは親切なことでしょうか。— 自分ができる子であることを示そうとして，友達をできない子に見せようとするのは正しいことですか。—

パリサイ人がしたのはそのようなことです。パリサイ人は，自分は収税人よりも上だと言って自慢しました。しかし偉大な教え手は，そのパリサイ人はまちがっていると言いました。実際，ある人にはほかの人よりもよくできることがあるかもしれません。でも，だからといって，ほかの人より上だということにはなりません。

では，人より多くのことを知っていれば，自慢しても構わないでしょうか。— 考えてみましょう。脳は自分で作ったものですか。— 脳は神がわたしたち一人一人にあたえてくださったものです。それに，わたしたちが知っていることのほとんどは，ほかの人から教えてもらったものです。本で何かを読むことがあります。だれかが何かを話してくれることもあります。自分で問題の答えを見つけたとしましょう。でも，どのようにして見つけたのでしょうか。— そうです。神があたえてくださった脳を使ったのです。

だれかが一生懸命に努力しているとき，その人を元気づける言葉をかけてあげるのは親切なことです。その人のしたことをほめてあげましょう。もっと良

ほかの人よりも多くのことを知っていれば，自分のほうが上だということになりますか

くできるように助けてあげられるかもしれません。自分だったら，そうしてもらいたいと思いますね。—

中には，力の強い人がいます。もし弟や妹より強かったらどうですか。それを自慢できますか。— できません。強くなれるのは食べ物のおかげです。そして，日光や雨など，食べ物となるものが育つのに必要なものはみな，神があたえてくださいました。そうでしたね。— ですから，強くなったなら，神に感謝しなくてはなりません。—使徒 14:16，17。

だれだって，人の自慢話は聞きたいと思いませんね。— イエスの言葉を忘れないようにしましょう。イエスは，「自分にして欲しいと思うとおりに，人にも同じようにしなさい」と言いました。そうするなら，偉大な教え手がなさった話のパリサイ人のように自慢することは，決してないでしょう。—ルカ 6:31。

イエスはある人から，善い人だ，と言われたことがありました。偉大な教え手は，『そうです，わたしは善い人です』と答えたでしょうか。— そうは答えませんでした。それどころか，「ただひとり，神以外には，だれも善い者はいません」と言われました。（マルコ 10:18）

人より強くても，それを自慢するのはなぜまちがったことですか

偉大な教え手は完全だったにもかかわらず，自慢しませんでした。むしろ，お父さんであるエホバだけをほめたたえました。

では，わたしたちはだれかを自慢できますか。— できます。創造者であるエホバ神を自慢できます。美しい夕焼けなど，創造されたすばらしいものを見るときは，だれかに，『エホバというすばらしい神がこれを造ったのです』と教えてあげることができます。エホバが今までに行なわれ，また，これから行なわれる偉大な事柄について，いつでも話せるようにしておきましょう。

自慢すること，つまりほこることについて述べている次の聖句を読み，自慢しないようにするのはどうしてかを学びましょう。箴言 16:5, 18。エレミヤ 9:23, 24。コリント第一 4:7; 13:4。

この男の子は何を自慢しているのでしょう

22章

なぜ,うそをついてはいけないのか

女の子がお母さんに,「はい,学校が終わったらすぐ家に帰ってきます」と言ったとしましょう。でも,その子は学校に残って友達と遊び,あとでお母さんに,「先生から放課後残るように言われたの」と話します。そういうことを言うのは正しいと思いますか。—

あるいは,男の子がお父さんに,「いいえ。家の中でボールをけったりしてません」と言ったとしましょう。でも,ほんとうは,やっていたとしたらどうでしょう。していなかった,と言うのはまちがっていませんか。—

偉大な教え手は,どうするのが正しいかを示し,こう言われました。『ただ,あなた方の“はい”という言葉は,はいを,“いいえ”は,いいえ,を意味するようにしなさい。そのほかのことはみな邪悪な者から出るからです』。(マタイ 5:37) このときイエスは何を言おうとしておられたのでしょうか。— 言ったとおりに行なわなければいけないということです。

ほんとうのことを言うのはとても大切だということを教える話が聖書の中にあります。自分はイエスの弟子だと言っていた二人の人の話です。どんなことがあったのか見てみましょう。

この男の子はどんなまちがったことをしましたか

イエスが死んでから2か月もたたない時のことです。ユダヤ人にとって大切なペンテコステという祭りを行なうために，人々がおおぜい遠い所からエルサレムにやって来ました。使徒ペテロがすばらしい話をし，その中でイエスについて，また神がイエスを死人の中からよみがえらせたことについて語ります。エルサレムに来ていた人の多くは，その時はじめてイエスのことを知りました。その人たちは，もっと知りたいと思います。それで，どうしたでしょうか。

予定より長くエルサレムにとどまることにしました。その結果，しばらくするとある人たちはお金を使いはたしてしまい，食べ物を買うために助けてもらわなければならなくなりました。エルサレムにいた弟子たちは，よそから来ていた人たちを助けたいと思いました。そこで，弟子の多くは持ち物を売り，そのお金をイエスの使徒たちのところへ持ってきます。使徒たちはそのお金を困っている人たちにあたえます。

アナニアはペテロにどんなうそをついていますか

エルサレムのクリスチャン会衆と交わっていたアナニアと妻のサッピラも自分たちの畑を売りました。その畑を売るようにだれかから命令されたわけではありません。自分たちで決めたのです。しかし，畑を売ったのは，イエスの新しい弟子たちを愛していたからではありません。ほんと

うは，実際より良く思われたいのです。それで，ほかの人を助けるために，畑を売ったお金をぜんぶ差し上げます，と言うことにしました。実際には一部だけなのに，ぜんぶ差し上げます，と言うのです。このことをどう思いますか。—

アナニアは使徒たちに会いにいき，お金を差し出します。もちろん神は，アナニアがぜんぶのお金を差し出していないことをご存じです。それで，アナニアが正直に話していないことを使徒ペテロにお示しになります。

それで，ペテロはこう言います。『アナニアよ，サタンの思いどおりになって，このようなことをしたのはなぜですか。畑はあなたのものでした。それを売る必要はありませんでした。そして，畑を売ったのちも，お金をどうするかはあなたが決めてよいことでした。それなのに，一部だけを差し出しておきながら，ぜんぶのお金を差し出しているように見せかけたのはどうしてですか。このようなことをしたあなたは，わたしたちに対してだけでなく，神に対してうそをついているのです』。

この二人がしたことは，それほど重大なことでした。アナニアはうそをついているのです。していると言ってはいますが，実際にはしていません。そのふりをしているだけです。聖書は，それからどんなことが起きたかについて，こう述べています。『ペテロの言葉を聞くと，アナニアはたおれて，死んだ』。なんと，アナニアは神に打たれて死んでしまいます。そしてアナニアの死体は外に運ばれてほうむられます。

うそをついたアナニアは
どうなりましたか

3時間ほどたってから，サッピラが入ってきました。サッピラは夫にどんなことがあったかを知りません。それで，ペテロはサッピラに，『あなたがた二人は，差し出した額のお金で畑を売ったのですか』とたずねます。

サッピラは，『はい。ちょうどその金額で畑を売りました』と答えます。しかし，それはうそです。二人は畑を売ったお金をいくらか自分たちのためにとっておきました。それで，サッピラも神に打たれて死にます。—使徒 5:1-11。

アナニアとサッピラの身に起きたことから，何を学ぶ必要がありますか。— 神はうそをつく人をきらわれる，ということです。神はいつも，わたしたちがほんとうのことを言うように願っておられます。しかし，うそをついてもかまわないと言う人はおおぜいいます。そういう考えは正しいと思いますか。— 世界にはいろいろな病気があり，人は苦しみ，死んでいきますが，そのすべてが一つのうそから始まっているということを知っていましたか。—

悪魔が最初の女エバにうそをついたことを思い出しましょう。悪魔は，エバが神にさからって，食べてはいけないと言われた実を食べたとしても死ぬことはない，と言いました。エバは悪魔の言葉を信じて，その実を食べ，アダムにも食べさせました。それで二人は罪人となり，子どもたちもみな，罪人として生まれることになりました。アダムの子どもたちは罪人だったので，みな苦しい目にあい，死んでいきました。こうした問題はどのようにして始まりましたか。— 一つのうそから始まりました。

イエスはだれが最初にうそをついたと言いましたか。そのうそはどんな結果になりましたか

イエスが，悪魔は『うそつきであり，うその父です』と言ったのももっともなことです。悪魔は最初のうそつきです。うそをつく人は，悪魔が始めたことをしているのです。もしうそをつきたくなったら，ぜひ，そのことを考えてください。—ヨハネ 8:44。

どんな時にうそをつきたくなりますか。— 何かまち

がいをした時ではありませんか。— うっかり何かをこわしてしまうこともあるでしょう。そのことについて聞かれたら，弟か妹がこわした，と言ってよいでしょうか。あるいは，何も知らないふりをしてよいでしょうか。—

宿題をしなくてはいけないのに，やり残してしまった時はどうですか。実際はしていないのに，ぜんぶ終わった，と言うのはよいことですか。— ぜひ，アナニアとサッピラのことを思い出してください。二人はほんとうのことをすっかり話したわけではありません。それで神は，二人を打って死なせることにより，そういう態度がどんなにまちがっているかを示されました。

ですから何をする時でも，うそをつくと，かならず問題は大きくなります。また，ほんとうのことをすっかり話してしまわないのもまちがっています。聖書は，『真実，つまりほんとうのことを語りなさい』と述べています。また，『たがいにいつわりを，つまりうそを語ってはなりません』とも述べています。エホバはいつも真実を語ります。そして，わたしたちも同じようにすることを望んでおられます。—エフェソス 4:25。コロサイ 3:9。

いつも，ほんとうのことを言わなければなりません。そのことは次の聖句からもよく分かります。出エジプト記 20:16。箴言 6:16-19; 12:19; 14:5; 16:6。ヘブライ 4:13。

どのような時，うそをつきたくなることがありますか

23章

人が病気になる理由

あなたは病気の人を知っていますか。— あなたも,病気になることがありますね。かぜを引いたり,おなかが痛くなったりするでしょう。中には,重い病気にかかる人もいます。だれかに助けてもらわないと立ち上がることさえできません。年を取ると,そういうことがよくあります。

だれでも病気になることがあります。人が病気になり,年を取って死ぬのはなぜだと思いますか。— イエスはその理由を教えてくださいました。それは,歩けない男の人がイエスのところに連れて来られた日のことでした。その時のことを話してあげましょう。

イエスは,ガリラヤの海に近い町の,ある家にとまっていました。おおぜいの人がイエスに会おうとしてやって来ました。あまりにもおおぜいだったので,家の中には入りきれません。戸口に近づくのも無理です。それなのに,あとからあとから人がやって来ます。体がまひして歩くことさえできない男の人を,何人かが一緒になって連れて来ました。小さな寝台にのせ,4人がかりで運んで来たのです。

この人たちが,その病人をイエスのもとに連れて来たいと思ったのはなぜでしょうね。— イエスなら助けてくれると信じていたからです。イエスならこの病気を治せると信じていたのです。それにしても,おおぜいの人に囲まれているイエスのところに,どうやって,体のまひした人を運んだのでしょうか。—

この絵を見ると,どのようにしたかが分かります。まず,病人を屋根の上に運びました。屋根は平らでした。それから,屋根に大きな穴を開けました。そして,病人を寝台にのせたまま,その穴から部屋の中につり降ろしました。この人たちはほんとうに強い信仰を持っていたのです。

家の中にいた人たちはみな，それを見てびっくりしました。体のまひした人をのせた寝台が，自分たちのまん中に降りてきたからです。イエスはこの人たちがしたことを見て腹を立てましたか。— そういうことはまったくありませんでした。イエスはその人たちに信仰があるのを見て喜びました。そして，体のまひした人に，「**あなたの罪は許されています**」とおっしゃいました。

ある人たちは，イエスがそういうことを言うのは正しくないと考えました。イエスが罪を許すことのできる方だとは思わなかったのです。そこでイエスは，ほんとうにそうできることを示すため，その男の人に，「起き上がって寝台を取り上げ，自分の家に帰りなさい」と言いました。

イエスがそう言うと，病人は治ってしまいました。体はもうまひしていません。自分で起き上がって歩くこと

イエスは，体のまひした人に何をしなさいと言いましたか

ができました。この奇跡を見た人々はびっくり仰天しました。そんなすばらしいことを見たのは生まれて初めてでした。それで人々は，病気さえ治せる偉大な教え手をあたえてくださったエホバを賛美しました。—マルコ 2:1-12。

この奇跡から どんなことが分かりますか

その奇跡から何が分かりますか。—イエスには罪を許して病人を治す力があるということです。しかし，別のとても大切な点も分かります。**それは，人が病気になるのは罪のためだということです。**

だれでも病気になることがあります。ということは，人間はみな罪人だという意味ですか。— 実はそうなのです。人はみな生まれた時から罪を持っていると聖書は言っています。この，生まれた時から罪を持っているとは，どういう意味か分かりますか。— 生まれつき不完全だということです。まちがったことをしたいと思う人はいないのに，だれでもときどきまちがいをしてしまいますね。では，すべての人が罪を負うようになったのはどうしてでしょう。—

それは，最初の人間アダムが神に従わなかったためです。アダムは神の律法を破って罪を犯しました。そして，わたしたちはみな，アダムから罪を受けつぎました。どのようにして受けついだのでしょう。分かるように説明してみますね。

パン型でパンを焼くときに，お手伝いをしたことがあるかもしれません。型にへこみがあったら，パンはどうなるでしょう。想像できますか。— その型で焼いたパンにはみな同じ印がつきます。同じようにへこみますね。—

アダムはそのパン型，わたしたちは焼けたパンのようです。アダムは神の律法を破った時に不完全になりました。いわばへこみができたのです。悪い印が付きました。では，アダムに子どもができたら，その子どもたちはどのようになりますか。— どの子にも不完全さという同じ印が付きます。

人間がみな罪人になったのはどうしてですか

たいていの子どもは，だれが見ても分かるようなひどく不完全な体で生まれるわけではありません。生まれた時から片方のうでやあしがないという子はまずいません。けれども，人間の不完全さはひどいえいきょうをあたえます。人間はみなそのために病気にかかり，やがて死んでしまうのです。

もちろん，他の人よりも病気にかかりやすい人はいます。なぜでしょうか。人より多くの罪を持って生まれたからでしょうか。— そうではありません。だれもが同じ程度の罪を持って生まれて来ます。人はみな生まれつき不完全です。ですから，だれでもいつかは何かの病気にかかります。神の律法をぜんぶ守ろうと努力し，ほんとうに悪いことは何もしていない人でも病気になります。

では，病気にかかりやすい人がいるのはなぜでしょうか。— いろいろな原因があります。食べ物が不足しているのかもしれません。栄養のあるものを食べていないのかもしれません。ケーキなどあまいものの食べすぎも考えられます。夜おそくまで起きていて，じゅうぶんすいみんを取らないことも原因の一つでしょう。薄着のまま，寒い外に出たのかもしれません。また，体がとても弱くて，健康に注意していても，病気になってしまう人もいます。

人間が病気にならない時代はほんとうに来るでしょうか。罪はほんとうに取り

罪がなくなると，人間はどれほど健康になりますか

除かれるでしょうか。— イエスは，体のまひしたあの男の人に何をしてあげたでしょうか。— その人の罪を許して病気を治してあげましたね。そのようにしてイエスは，正しいことをしようと一生懸命に努力する人すべてのために，ご自分がこれから何を行なうかを示しました。

罪を犯したくないという気持ち，そして，まちがったことに対するにくしみを示すなら，イエスはいやしてくださいます。わたしたちが今持っている不完全さを将来，除き去ってくださいます。イエスは神の王国の王として，そうなさいます。罪は一度にすっかり除き去られるのではありません。除き去られるには，ある程度の期間がかかります。そのようにして，ついに罪がなくなると，人間が病気になることはもう決してありません。わたしたちはみな完全な健康にめぐまれるのです。なんとすばらしい祝福でしょう。

だれもが罪のえいきょうを受けていることについてもっと考えるために，次の聖句を読んでください。ヨブ 14:4。詩編 51:5。ローマ 3:23；5:12；6:23。

24章

決してどろぼうしてはいけません

だれかに何かをぬすまれたことがありますか。— そのとき，どんな気持ちがしましたか。— だれがぬすんだとしても，その人はどろぼうです。どろぼうのことを好きな人はいません。では，どうしてどろぼうする人がいるのでしょう。どろぼうになるよう生まれついているのでしょうか。—

人間が生まれた時から罪を持っているということは，学んだばかりですね。だから，人間はみな不完全です。しかし，どろぼうになるよう生まれついている人は一人もいません。良い家庭で育った人がどろぼうすることもあります。親や兄弟たちはまじめでも，お金が欲しくなったり，いろいろなものを買いたくなったりして，どろぼうすることがあるのです。

最初のどろぼうはだれだと思いますか。— 一緒に考えてみましょう。偉大な教え手は天にいた時，その者を知っていました。そのどろぼうはみ使いでした。でも，神がお造りになったみ使いたちはみな完全だったのに，どうしてそのみ使いはどろぼうになったのでしょうか。— この本の8章で学んだように，自分のものではないものを欲しがったのです。何を欲しがったか覚えていますか。—

神が最初の男女を創造したあと，そのみ使いは二人から崇拝してもらいたいと思うようになりました。二人から崇拝してもらう権利があったわけではありません。二人の崇拝は神にささげられるべきものだったのです。ところが，そのみ使いは二人の崇拝をぬすんでしまいました！ アダムとエバの崇拝を自分のほうに向けさせることにより，どろぼうになってしまいました。そのみ使いは悪魔サタンになりました。

人はどうしてどろぼうするのでしょうか。— **自分のものでないものを欲しがる**

気持ち，つまり欲望があるからです。この気持ちは，とても強くなることがあります。良い人でもその気持ちに負けて，悪いことをしてしまうほどです。ある人たちは，どろぼうを働いても悪かったと思わず，良いことを再び行なうようになるわけでもありません。イエスの使徒の一人がそうでした。ユダ・イスカリオテという名前の人です。

ユダは，ぬすみが悪いことを知っていました。幼い時から神の律法を教えられていたからです。昔，神が天から話すことまでして，『ぬすんではならない』と民にお命じになったことを知っていました。（出エジプト記 20:15）ユダは大人になって偉大な教え手に出会い，その弟子になりました。後には，イエスに選ばれて12使徒の一人にもなりました。

イエスと使徒たちは一緒に旅をし，一緒に食事をしました。みんなのお金はぜんぶ一つの箱に入れてありました。イエスはその箱をユダに預けました。もちろん，箱の中のお金はユダのものではありません。しかしユダは，しばらくして何をしたと思いますか。—

必要もないのに箱からお金を持ち出すようになったのです。人が見ていない時に，ちょくちょくお金を取りました。お金をもっと得る方法はないかといろいろ考えるようにもなりました。いつもお金のことばかり考えるようになりました。偉大な教え手が殺されるほんの数日前，ユダがこのまちがった欲望のためにどんなことをしたか，調べてみましょう。

イエスの友人ラザロの姉妹のマリアは，上等な油を手に取り，イエスの足に注ぎました。ところがユダは不平をもらしました。なぜだと思いますか。— ユダは，その油を売って，得たお金を貧しい人々にあげたほうがよかった，と言いました。でも，ほんとうは，箱の中のお金をふやし，ぬすみたいと思っていたのです。—ヨハネ 12:1-6。

イエスはユダに，マリアはとても親切にしてくれたのだから困らせてはいけな

い，と言いました。ユダはそう言われて，いやな気持ちになりました。そこで，イエスの敵であった祭司長たちのところへ行きました。祭司長たちはイエスをとらえたいと思っていましたが，人目につかない夜にそうしたいと思っていました。

ユダは祭司たちにこう言いました。『もしお金をくれるなら，どうすればイエスがつかまるかを教えましょう。いくらくれますか』。

祭司長たちは，『銀30枚をやろう』と答えました。—マタイ 26:14-16。

ユダはお金をもらいました。お金をもらうというのはちょうど，偉大な教え手を祭司長たちに売るようなものです。そんな悪いことをする人がいるなんて，考えられますか。— でも，人がどろぼうになってお金をぬすむと，そういうことが起こるのです。その人は人々よりも，また神よりもお金を愛しているのです。

あなたはたぶん，『エホバ神以上に何かを愛することは絶対にない』と言うでしょう。そのような気持ちでいるのはりっぱなことです。イエスがユダを使徒に選んだ時，ユダもきっとそういう気持ちだったことでしょう。どろぼうになったほかの人たちも，そうだったかもしれません。何人かの例を取り上げてみましょう。

一人は，偉大な教え手が生まれるずっと前に生きていた神のしもべで，アカンという人です。アカンは美しい衣と金の棒と

ユダがぬすみを働いたのはなぜですか

アカンとダビデは，
どんな悪いことを考えていますか

何枚かの銀を見ました。それらの品はアカンのものではありませんでした。聖書によると，神の民の敵から取った品だったのでエホバのものでした。しかし，アカンはとても欲しくなってぬすみました。—ヨシュア 6:19; 7:11,20-22。

別の例もあります。ずっと昔，エホバはダビデを選んでイスラエルの民を治める王にしました。ある日，ダビデはバテ・シバという美しい女の人をながめはじめました。バテ・シバを見つづけ，一緒に住めるよう家に連れて来ることを考えつづけました。でも，バテ・シバはウリヤの妻でした。ダビデはどうするべきでしたか。—

バテ・シバを自分のものにしようと考えるのをやめるべきでした。しかしダビデはそうしないで，バテ・シバを家に連れて来ました。それから，ウリヤを殺させました。ダビデがそのような悪いことを

アブサロムはどうしてどろぼうだったと言えますか

したのはなぜでしょうか。— ほかの人の妻を自分のものにしたいと思いつづけたからです。—サムエル第二 11:2-27。

ダビデが後悔したので，エホバはダビデの命を取りませんでした。しかし，それからというもの，ダビデはたくさん問題をかかえるようになりました。息子のアブサロムはダビデの王位を欲しがりました。それで，人々がダビデに会いにやって来ると，いつも，その人たちをだいて口づけしました。『アブサロムはイスラエルの人々の心を**ぬすんで**いた』と聖書は述べています。アブサロムは人々を説得し，ダビデの代わりにアブサロムを王にしたいという気持ちにさせました。—サムエル第二 15:1-12。

アカンやダビデやアブサロムのように，何かをとても欲しくなったことがありますか。— それが人のものであるなら，許可を得ないで持っていくのはぬすみです。最初にどろぼうになったサタンが何を望んだか覚えていますか。— 人々が神ではなくて自分を崇拝してくれることを望みました。ですから，サタンは，アダムとエバを従わせた時，ぬすみを働いていたのです。

ある物をだれに使わせるかを決める権利は，その物の持ち主にあります。例えば，よその子の家に行って遊ぶことがありますね。その家の物を自分の家に持って来るのはよいことですか。— その家のお父さんかお母さんから，持って行ってもよいと言われていないなら，持って帰ってはいけません。家の人に断わらずに持って帰ったら，ぬすみになります。

あなたもぬすみをしたくなることがあるかもしれません。なぜでしょうか。— 自分のものでないものが欲しくなるからです。取るところを人は見ていなくても，だれが見ていますか。— エホバ神ですね。また，神はぬすみをにくまれるということも覚えておく必要があります。ですから，神と隣人を愛することは，決してどろぼうしないために役立つのです。

聖書は，ぬすみが悪いということをはっきり述べています。次の聖句を読んでください。マルコ 10:17-19。ローマ 13:9。エフェソス 4:28。

25章

悪いことをする人たちでも変化できますか

もし，みんながいつも良いことをするとしたら，すばらしいと思いませんか。— でも，いつも良いことをするような人は一人もいません。人間はみな，良いことをしたいと思っていても，ときどき悪いことをします。どうしてか分かりますか。— 人間はみな，罪を受けついで生まれてきたからです。しかし，とても悪いことをたくさんする人もいます。だれかをにくんで，わざとけがをさせたりします。そういう人でも変化して，良い人になれると思いますか。—

この絵の中で，上着の番をしている若者を見てください。そこにある上着は，ステファノに石を投げつけている人たちのものです。この若者は，ヘブライ式の名前はサウロ，ローマ式の名前はパウロと言い，偉大な教え手の弟子であるステファノが殺されることを喜んでいます。サウロがそのような悪いことをしているのはなぜなのか調べてみましょう。

サウロは，パリサイ人と呼ばれるユダヤ人の宗教グループの仲間です。パリサイ人は神の言葉 聖書を持っていますが，聖書より，自分たちの宗教指導者の教えのほうに注意をはらっています。サウロが悪いことを行なうようになったのはそのためです。

ステファノがエルサレムでとらえられた時，サウロはその場にいました。ステファノは裁判所に連れて行かれました。裁判官の中にはパリサイ人もいました。ステファノは，いろいろ悪く言われますが，おそれません。勇気を出してすぐに口を開き，裁判官たちに，エホバ神とイエスに関する良い証言を行ないます。

ところが，裁判官たちはその証言が気に入りません。イエスのことはもうよく知っています。つい最近も，イエスを死刑にさせたばかりなのです。しかしその

後，エホバはイエスを天に連れもどされました。それなのに，裁判官たちは態度を変えるどころか，イエスの弟子たちと戦います。

裁判官たちはステファノをつかんで市の外へ連れて行き，なぐりたおして石を投げつけます。この絵にあるように，サウロはすぐそばで，その様子をながめています。ステファノを殺すのは正しいことだと思っているのです。

なぜ，そう思ったのでしょうね。— サウロはその時までずっとパリサイ人として過ごし，パリサイ人の教えは正しいと信じていました。パリサイ人の宗教指導者たちを模範と考えていたので，その人たちに見ならったのです。—使徒 7:54-60。

ステファノが殺されたあと，サウロはどうするでしょうか。— なんと，残っているイエスの弟子たちをも取り除こうとします。弟子たちの家に入って行って，男も女もひきずり出し，ろうやに投げこませます。弟子たちの多くはエルサレムを去らなくてはなりませんが，イエスについて宣べ伝えることはやめません。—使徒 8:1-4。

そのため，サウロはイエスの弟子たちをますますにくむようになります。それ

サウロはなぜ，ステファノを殺すのは正しいと思ったのでしょうか

で大祭司カヤファのところへ行って，ダマスカス市にいるクリスチャンをつかまえる許可をもらいます。つかまえたクリスチャンを囚人としてエルサレムに連れてきて，ばつを受けさせたいと思っています。ところがダマスカスへ行く途中，おどろくべきことが起こります。

天から光がぱっとかがやき，「サウロ，サウロ，なぜあなたはわたしを迫害しているのか」と言う声がします。なんと，イエスが天から話しているのです。光があまりにも明るいので，サウロは目が見えなくなり，一緒にいた人たちにダマスカスへ連れて行ってもらわなければなりません。

それから三日後，イエスは，ダマスカスにいた弟子たちの一人でアナニアという人にまぼろしの中で現われます。イエスはアナニアに，サウロのところへ行って目を見えるようにしてやり，サウロに話しをしなさいと命じました。アナニアが話しをすると，サウロはイエスに関する真理を受け入れます。目も見えるようになります。サウロは生き方をすっかり変え，神の忠実なしもべになりました。—使徒 9:1-22。

サウロがそれまで悪いことをしていたのはなぜか分かりますか。— まちがったことを教えられていたからです。サウロは神に忠実でない人たちに従っていました。神の言葉 聖書よりも人間の考えを大切にする人々のグループにいたのです。でも，ほかのパリサイ人たちが神に逆らい続けているにもかかわらず，サウロが生き方を変えて良いことをするようになったのはなぜでしょうか。— それは，サウロがほんとうは真理をきらっていたのではないからです。ですから，正しいことを教えられると，すぐに実行しました。

それからサウロはどうなったと思いますか。— そうです。使徒パウロ，つまりイエスの使徒として知られるようになりました。パウロと言えば，聖書の中の本をだれよりもたくさん書いた人でしたね。

サウロのように変化できる人はおおぜいいます。しかし，変化するのは易しいことではありません。悪いことをさせようと一生懸命になっている者がいるから

です。それはだれでしょうか。— イエスは，ダマスカスへ行く道でサウロに現われた時，その者についてお話しになりました。天からサウロにこう言ったのです。『わたしはあなたをつかわして，人々の目を開けさせ，かれらをやみから光に，サタンの権威から神に転じさせます』。—使徒 26:17, 18。

みんなに悪いことをさせようとしているのは悪魔サタンなのですね。正しいことをするのは難しいと感じることがありますか。— そういうことはだれにでもあります。サタンが難しくしているのです。しかし，正しいことをするのが必ずしも易しくない別の理由もあります。どんな理由か分かりますか。— 人間は罪を受けついでいるからです。

正しいことをするより，まちがったことをするほうが易しいのは，たいてい，その罪のせいです。では，何をする必要があるでしょうか。— **そうです。正しいことをするよう精いっぱい努力しなければなりません。**そうするなら，わたしたちを愛しておられるイエスはきっと助けてくださるにちがいありません。

イエスは地上にいた時，悪いことをしたのに変化した人々を愛していることを示されました。その人たちにとって変化するのがどれほど難しいことか，イエスはご存じでした。例えば，何人もの男の人と性関係を持っていた女の人たちがいました。もちろん，それは悪

サウロに話しかけているのはだれですか。
その方はサウロをつかわして何を行なわせますか

いことです。聖書はそういう女の人たちを娼婦あるいは売春婦と呼んでいます。

ある時，そのような女の人がイエスのことを聞き，パリサイ人の家にいたイエスのところにやって来ました。その人はイエスの足に油を注ぎました。イエスの足の上にこぼれた自分のなみだをかみの毛でふき取ったりもしました。その女の人が罪を犯してきたことをとても後悔していたので，イエスはその人を許しました。しかし，家の主人のパリサイ人は，許す必要などないと思いました。—ルカ 7:36-50。

イエスは，別の時，パリサイ人たちに何と言ったと思いますか。—『娼婦たちはあなた方より先に神の王国に入りつつあります』と言いました。（マタイ 21:31）

イエスがそう言ったのは，娼婦たちがイエスを信じ，悪い生き方を変えたからです。一方，パリサイ人はイエスの弟子たちに対して悪いことを行ない続けました。

ですから，聖書を読んで自分の行ないが悪いということが分かったなら，進んで変化しなくてはなりません。また，エホバがわたしたちに望んでおられることを知ったなら，それを熱心に行なう必要があります。そうすれば，エホバは喜んでくださり，わたしたちに永遠の命をあたえてくださるでしょう。

悪いことをしないようにするため，次の聖句を一緒に読みましょう。詩編 119:9-11。箴言 3:5-7; 12:15。

悪いことをしてきたこの女の人を
イエスが許したのはなぜですか

26章

良いことをするのが難しいのはなぜですか

サウロが悪いことをしたとき,喜んだのはだれでしたか。— 悪魔サタンでしたね。でも,ユダヤ人の宗教指導者たちも喜びました。その後サウロが偉大な教え手の弟子になり,パウロと呼ばれるようになると,その宗教指導者たちはパウロをにくむようになりました。では,イエスの弟子にとって良いことをするのが難しいのはどうしてか,分かりますか。—

アナニアという大祭司はある時,パウロの顔をなぐるよう人々に命じました。アナニアはパウロをろうやに入れようとさえしました。パウロはイエスの弟子になってから,何度も苦しい目にあっています。例えば,悪い人たちがパウロを打ちたたいたり,大きな石を投げつけて殺そうとしたりしました。—使徒 23:1, 2。コリント第二 11:24, 25。

多くの人は神に喜ばれないことをわたしたちにさせようとすることでしょう。ですから問題となるのは,自分が良いことをどれほど愛しているかということ

パウロは良いことを行なったとき どんな苦しい目にあいましたか

この人たちがイエスを殺そうとしているのはなぜですか

です。あなたは，良いことだったらみんなからにくまれても行なう，と言えるほど良いことを愛していますか。それには勇気が要りますね。—

『良いことをしているのに，どうしてにくまれるのだろう。みんな喜んでくれたっていいのに』と思うかもしれません。ふつうだったら，喜んでくれるでしょう。イエスの場合も，良いことを行なったとき，たいていは人々から好ましく思われました。ある時など，イエスがとまっていた家の戸口のところに，一つの都市の人たちがみんな集まりました。イエスが病人をいやしていたのでやって来たのです。—マルコ 1:33。

しかし，人々がイエスの教える事柄をきらったこともありました。イエスはい

つも正しいことを教えたのにある人たちは，真理を語ったことで，イエスに対するにくしみをはっきり示しました。イエスが育ったナザレという都市で，そのような出来事がありました。ある日のことイエスは会堂，つまり，ユダヤ人が神を崇拝するために集まる場所に入って行きました。

イエスはそこで聖書からりっぱな話をしました。人々は最初，その話が気に入っていました。イエスの口から出るすばらしい言葉にすっかりおどろいてしまいました。話しているのが自分たちの都市で育った青年だとはとても信じられませんでした。

でも，それからイエスは別のことを話しました。ユダヤ人ではない人々に神が特別の好意を示される時について話したのです。イエスがそのことを話すと，会堂にいた人々はおこり出しました。なぜだと思いますか。— 神の特別の好意を受けるのは自分たちだけだと考えていたからです。自分たちは他の人々より優れているとも考えていました。ですから，イエスの話を聞いて，イエスをにくみました。それで，イエスをどうしようとしたでしょうか。—

聖書はこう述べています。『かれらはイエスをつかみ，市の外へせき立て，山のはしに連れて行き，がけから投げ落として殺そうとした。しかし，イエスは去って行った』。—ルカ 4:16-30。

もしあなたがそのような目にあったとしたら，神について話すためにもどって行ったでしょうか。— それは勇気の要ることでしょうね。— でもイエスは，1年ほどしてナザレにもどったのです。聖書には，『イエスは会堂で人々を教えはじめた』と書かれています。神を愛さない人々をおそれて真理を語らなくなる，ということはありませんでした。—マタイ 13:54。

安息日だった別の日のことです。イエスがいた場所に，片方の手の不自由な人がいました。イエスには，その人をいやす力が神からあたえられていました。ところが，そこにいた人々の中に，イエスを困らせようとする男たちがいたのです。偉大な教え手はどうしたでしょうか。— イエスはまず，こう言いました。『も

し自分の持っている羊が安息日に大きな穴に落ちこんだとしたら，あなた方はそれを引き上げますか』。

安息日には仕事を休むことになっていますが，羊のことを思えば安息日でも引き上げるでしょう。そこでイエスは言いました。『人は羊より価値があるのですから，安息日に人を助けるのは，羊を助けるより良いことなのです』。イエスがその人をいやして助けなければならないということは，明らかです。

イエスはその人に，手をのばしなさいと命じます。すると，手はたちまちよくなります。その人はほんとうに喜びました。でも，そこにいたほかの人たちはどうだったでしょうか。喜んだでしょうか。— 喜びませんでした。イエスをますますにくみました。外へ出て行って，イエスを殺そうと計画しました。—マタイ 12:9-14。

今でも同じです。どんなことをする場合でも，すべての人に喜んでもらうことは決してできません。ですから，だれにいちばん喜んでもらいたいかを決めなければなりません。エホバ神とみ子イエス・キリストに喜んでいただきたいなら，このお二人が教えておられることをいつも行なわなければなりません。しかし，そのようにするとだれがわたしたちをにくむでしょうか。良いことをするのをじゃまするのはだれでしょうか。—

悪魔サタンです。ほかにもいるでしょうか。— 悪魔にだまされて，まちがったことを信じている人々もそうです。イエスはそのころの宗教指導者たちに，『あなた方は，あなた方の父，悪魔からの者であって，自分たちの父の欲望をとげようと願っているのです』と言いました。—ヨハネ 8:44。

悪魔に好かれている人はおおぜいいます。イエスはその人たちのことを「世」と呼んでいます。イエスが言っている「世」とはどういうものだと思いますか。—ヨハネ 15章19節を開いて調べてみましょう。そこにはイエスのこのような言葉が出ています。『あなた方が世のものであったなら，世は自らのものを好むことでしょう。ところが，あなた方は世のものではなく，わたしが世から選び出したので，そのために世はあなた方をにくむのです』。

ですから，イエスの弟子をにくむ世は，イエスに従わない人々すべてのことです。世がイエスの弟子をにくむのはなぜでしょうか。— よく考えてみましょう。世の支配者はだれですか。— 聖書には，『全世界は邪悪な者の配下にある』と書かれています。その邪悪な者とは悪魔サタンです。—ヨハネ第一 5:19。

良いことを行なうのがとても難しい理由がこれで分かりましたか。— サタンとサタンの世がじゃまをするのですね。しかし，別の理由もあります。どんな理由を思い出しますか。— この本の23章で，人間はみな罪を受けついでいることを学びましたね。罪と悪魔と悪魔の世がなくなったら，すばらしいと思いませんか。—

聖書は，『世は過ぎ去って行きます』と約束しています。これは，偉大な教え手の弟子でない人たちがみんないなくなるという意味です。その人たちは永遠に生きることを許されません。では，永遠に生きることができるのはだれでしょう。— 聖書の続きには，「神のご意志を行なう者は永久にとどまります」とあります。（ヨハネ第一 2:17）良いことを行なう人々，「神のご意志」を行なう人々だけが神の新しい世で永遠に生きるのです。ですから，たとえ難しくても，良いことを行ないたいですね。—

良いことを行なうのが易しくない理由を示している次の聖句を一緒に読みましょう。マタイ 7:13, 14。ルカ 13:23, 24。使徒 14:21, 22。

この世が過ぎ去るとき，良いことを行なう人々はどうなりますか

27章

あなたの神はだれですか

あなたの神はだれですか，というこの質問は，どうして重要なのでしょうか。— それは，人々が多くの神を崇拝しているからです。（コリント第一 8:5）使徒パウロがエホバから力をあたえられ，一度も歩いたことのない人をいやした時，人々は大声を上げ，「神々が人間のようになってわたしたちのもとに下って来たのだ!」と言いました。人々はパウロと仲間のバルナバを崇拝したいと思い，二人にいつわりの神の名前をつけて，パウロをヘルメス，バルナバをゼウスと呼びました。

しかしパウロとバルナバは，自分たちを崇拝させようとしませんでした。群衆の中に飛び出すと，『こうした無駄な事柄から生ける神に転じてください』と言いました。（使徒 14:8-15）すべての物を創造された「生ける神」とはだれでしょうか。—「全地を治める至高者」であるエホバですね。イエスはエホバを「唯一まことの神」と呼びました。では，崇拝を受けるにふさわしいのはだれだけですか。— エホバだけです。—詩編 83:18。ヨハネ 17:3。啓示 4:11。

人々はたいてい，「唯一まことの神」以外の神々を崇拝しています。木や石や金属で作った物を崇拝することもよくあります。（出エジプト記 32:4-7。レビ記 26:1。イザヤ 44:14-17）人間も，有名になると，神様とかスターとか偶像という意味のアイドルとか呼ばれることがあります。そのような人たちに栄光を帰するのは正しいことでしょうか。—

サウロは使徒パウロになってから，『この事物の体制の神が不信者の思いをくらましている』と書きました。（コリント第二 4:4）この神とはだれのことですか。— そうです，悪魔サタンです。サタンは人々に働きかけて，いろいろな人や物を崇拝させることができました。

パウロとバルナバは自分たちの前で人々が身をかがめるのを許しませんでした。なぜですか

サタンが，イエスに身をかがめさせ，サタンを崇拝させようとした時，イエスは何と言ったでしょうか。—「あなたの神エホバをあなたは崇拝しなければならず，**この方だけに**神聖な奉仕をささげなければならない」と言いました。（マタイ 4:10）イエスはそのように述べて，崇拝はエホバだけにささげられるということを明らかにしました。このことを知っていた若者たちの話を一緒に読みましょう。その若者たちはシャデラク，メシャク，アベデネゴといいます。

このヘブライ人たちは，神の民であるイスラエルの若者でしたが，とりこにされ，バビロンというところに連れて行かれました。バビロンではネブカドネザルという王が巨大な金の像を立てました。ある日ネブカドネザルは，音楽が演奏されたなら，みなその像に身をかがめるように，と命令しました。それから『身をかがめて崇拝しない者はだれでも，火の燃える炉に投げこまれるであろう』とも言いました。あなただったらどうしたでしょうか。—

この人たちが像に身をかがめようと しなかったのはなぜですか

ふだん，シャデラク，メシャク，アベデネゴは，王の命令にはすべて従っていたのですが，その命令には従おうとしませんでした。なぜか分かりますか。— 神の律法が，『あなたはわたし以外のどんなものも神としてはならない。自分自身のために彫刻像を作って，それに身をかがめてはならない』と述べていたからです。（出エジプト記 20:3-5）それで，シャデラク，メシャク，アベデネゴは王の命令ではなくエホバの律法に従いました。

王はたいへんおこって，その若い3人のヘブライ人をただちに自分の前に連れて来させ，こうたずねました。『お前たちがわたしの神々に仕えていないというのはほんとうか。もう一度機会をあたえよう。さあ，音楽が聞こえたら，ひれふして，わたしの作った像を崇拝するのだ。もしそうしないなら，お前たちは火の燃える炉に投げこまれる。いったいどんな神がわたしの手からお前たちを救い出せるというのか』。

さあ，若者たちはどうするでしょうか。あなただったらどうしたでしょうか。— 3人は王にこう答えました。『わたしたちの仕えている神はわたしたちを救い出すことがおできになります。しかしたとえそうなさらないとしても，わたしたちが仕えるのはあなたの神々ではありません。わたしたちはあなたの金の像に身をかがめません』。

王はかんかんにおこって，『炉をいつもより7倍熱くするのだ』と命令しました。

そして強い家来たちに，シャデラク，メシャク，アベデネゴをしばり上げて炉に投げこめ，と命じました。ところが，炉があまりにも熱かったので，王の家来たちはほのおで焼け死んでしまいました。では3人のヘブライ人はどうなったでしょう。

シャデラク，メシャク，アベデネゴは火の中に落ちました。しかし，おどろいたことに立ち上がりました。何も傷を負っていません。もうしばられてもいません。どうしてそのようなことが起こったのでしょうか。— 炉の中を見た王はおそろしくなりました。王が，『我々は3人の男を火の中に投げこんだのではなかったか』と聞くとしもべたちは，「そのとおりです，王よ」と答えます。

すると王は言いました。『見よ，わたしには，4人の者が中を歩き回っているのが見える。しかも，火のために傷を負っている者はだれもいない』。王が見た4番目の者とはだれだったのでしょう。— それはエホバのみ使いでした。そのみ使いが，何も傷を負わないように3人のヘブライ人を守ったのです。

そのことが分かると，王は炉のとびらのところへ行って，『シャデラク，メシャク，アベデネゴ，至高の神のしもべたちよ，出て来て，こちらへ来なさい!』と大声でさけびました。3人が出て来た

エホバはご自分のしもべたちを火の燃える炉からどのように救われましたか

時，だれもやけどをしていないことがみんなに分かりました。火のにおいさえ付いていませんでした。そこで王は言いました。『シャデラク，メシャク，アベデネゴの神がほめたたえられるように。その方はみ使いを送り，ご自分のしもべたちをお救いになった。それは，かれらが自分たちの神のほかはどんな神をも崇拝しようとしなかったためである』。—ダニエル 3章。

昔のこの出来事から教訓を得ることができます。今日でも像，つまり偶像を作って崇拝している人がいます。「アメリカーナ百科事典」（英語）には，国旗は十字架と同じように神聖なものであると書かれています。像は，木や石，金属，布などで作られます。イエスの初期の弟子たちはローマ皇帝を崇拝しようとしませんでした。そのような立場は，忠誠のちかい，つまりまごころをこめて国に仕えるという約束の言葉をくり返し述べたり，国旗に敬礼したりするのをこばむことと似ている，とダニエル・P・マニックスという歴史家は言いました。

今日，人々はどのような偶像に栄光を帰していますか

では，宗教的な像が，布，木，石，金属のどれでできているかによって，神のお考えは変わると思いますか。— エホバのしもべがそうした像の前で崇拝行為をするのは正しいことでしょうか。— シャデラク，メシャク，アベデネゴはそうしませんでした。それでエホバは3人のことを喜ばれました。では，どうすればこの3人に見ならえるでしょうね。—

エホバに仕える人は，ほかのどんな人間や物も崇拝してはなりません。そのことについて次の聖句がどんなことを述べているか，読んで調べてみましょう。ヨシュア 24:14，15，19-22。イザヤ 42:8。ヨハネ第一 5:21。啓示 19:10。

28章

だれに従ったらよいか，どうすれば分かりますか

ときどき，だれに従ったらよいのか分からなくなることがあります。お父さんやお母さんから言われているのとはちがうことを，学校の先生やおまわりさんから言われる場合があるでしょう。そういうときは，だれに従いますか。—

前にこの本の7章で，聖書のエフェソス 6章1-3節を読みましたね。そこには，子どもたちは親に従わなければならないと書かれています。「**主と結ばれた**あなた方の親に従順でありなさい」と聖句は述べています。「**主と結ばれた**」とはどういう意味だと思いますか。— **主と結ばれた**親は，神の律法に従うよう子どもたちを教えます。

しかし，年長の人の中にはエホバを信じない人もいます。そのような人が，学校のテストでカンニングしたって構わないとか，店から物をだまって持って来てもいいなどと言ったら，どうでしょう。それなら，子どももカンニングやぬすみをしてよいということになりますか。—

昔，ネブカドネザルという王は，自分の建てた金の像に身をかがめるよう，すべての人に命令しましたね。でも，シャデラク，メシャク，アベデネゴは身をかがめようとしませんでした。なぜでしたか。— エホバだけを崇拝しなければならない，と聖書に書いてあるからですね。—出エジプト記 20:3。マタイ 4:10。

イエスが死んだ後，使徒たちは，ユダヤ人の主な宗教法廷であるサンヘドリンに連れ出されました。大祭司のカヤファはこう言いました。『イエスの名によってもう教えてはならないときっぱり命じておいたのに，見よ，あなた方はエルサレムをあなた方の教えで満たしてしまった』。使徒たちがサンヘドリンに従わな

かったのはなぜでしょうか。— ペテロは，使徒たち全体を代表して，カヤファにこう答えました。「わたしたちは，自分たちの支配者として人間より神に従わねばなりません」。—使徒 5:27-29。

ペテロはカヤファに何と言っていますか

そのころ，ユダヤ人の宗教指導者たちは大きな力を持っていましたが，ユダヤ人の国そのものはローマの政府に支配されていました。ローマの政府のいちばん上の人はカエサルと呼ばれていました。ユダヤ人はカエサルに支配されたくないと思っていましたが，ローマの政府は人々のためにいろいろと良いことを行ないました。今日の政府も，国民のために良いことを行なっています。その例をいくつか挙げることができますか。—

政府は道路を造ったり，わたしたちを守るおまわりさんや消防士さんたちに給料をはらったりします。子どもたちが学校で学べるようにし，お年寄りが医療を受けられるようにもしています。こうしたことを行なうにはお金がかかります。政府はそのお金をどこから得るのでしょう。— 国民からです。国民が政府にはらうお金を税金と言います。

偉大な教え手が地上で生活していたころ，多くのユダヤ人はローマの政府に税金をはらいたがりませんでした。それで，ある日，祭司たちは人を何人かやとい，イエスを困らせるために，このような質問をさせました。『わたしどもはカ

エサルに税金をはらわなければなりませんか。それとも，はらわなくてもよいでしょうか』。これは，意地悪な質問でした。もしイエスが，『税金をはらわなければなりません』と答えたら，たいていのユダヤ人からきらわれるでしょう。しかしイエスは，『税金をはらう必要はありません』とは言えませんでした。そう答えるのは，まちがいです。

さあ，イエスはどうしたでしょう。『硬貨をわたしに見せなさい』と言いました。人々が硬貨を差し出すと，イエスは，『それにはだれの絵と名前がありますか』と聞きます。人々は，「カエサルのです」と言います。それでイエスは，「では，ぜひとも，カエサルのものはカエサルに，しかし神のものは神に返しなさい」と言いました。—ルカ 20:19-26。

だれもその答えのまちがいを見つけることはできませんでした。カエサルが人々のためになることをするのであれば，そのような良いことのために，カエサルが作ったお金をはらうのはまったく当然です。このようにしてイエスは，わたしたちが受けているもののために政府に税金をはらうのは当然だということを示されました。

イエスは，この人たちの意地悪な質問に，どう答えましたか

さて，あなたはまだ小さいので，税金をはらう必要はないでしょう。しかし，政府に対してしなければならないことがあります。どんなことだと思いますか。— 政府の法律に従うことです。聖書は，『上位の権威に従順でありなさい』と述べています。上位の権威とは，政府の中で力を持っている人たちのことです。それで神は，政府の法律に従わなくてはならないと，言っておられるのです。— ローマ 13:1, 2。

紙くずなどを道に捨ててはいけないという法律があるかもしれません。その法律に従う必要がありますか。— そのとおりです。神はそれに従うことを望んでおられます。おまわりさんにも従わなくてはなりませんか。— 政府は，人々を守るためにおまわりさんに給料をはらっています。おまわりさんに従うことは，政府に従うことと同じです。

では，道をわたろうとしている時，おまわりさんから，「待ちなさい!」と言われたら，どうすべきですか。— ほかの人たちが走ってわたってしまったら，一緒にわたってよいでしょうか。— 待っているのがあなただけだとしても，待つのはよいことです。神は，従いなさいと命じておられます。

また，近所で何かの事件が起こり，おまわりさんから，「通りに出ないでください。外へ出てはいけません」と言われるようなこともあります。でも，さけび声が聞こえたりすると，どうしたのだろうと思うでしょうね。外へ出て様子を見てもよいでしょうか。— それは「上位の権威」に従うことでしょうか。—

政府はあちこちに学校を建て，先生に給料をはらっています。では，神は，あなたが先生に従うことを望んでおられるということになりますか。— 考えてみましょう。政府は，人々を守るためにおまわりさんに給料をはらうのと同じように，人々を教育するために先生に給料をはらっています。ですから，おまわりさんにも先生にも従順であることは，政府に従っていることになるのです。

しかし先生から，何かの像に崇拝行為をしなさいと言われたらどうでしょう。

なぜ，おまわりさんに従わなくてはなりませんか

その時はどうしますか。— 3人のヘブライ人は，ネブカドネザル王に命令されても，像に身をかがめませんでしたね。なぜだったか覚えていますか。— 神に不従順になりたくなかったからです。

歴史の本を書いたウィル・デュラントという人は，初期クリスチャンについて，かれらが『最高度の忠誠［または，忠節］をつくすべきだったのはカエサルに対してではなかった』と述べました。カエサルにではなく，エホバに対してそうするべきだったのです。ですから，生活の中で神を第一にしなくてはならないということを忘れないようにしましょう。

わたしたちが政府に従うのは，神がそう望んでおられるからです。しかし，神が禁じておられることをするよう政府から命令されたときは，何と言わなくてはなりませんか。— 使徒たちが大祭司に言ったように，「わたしたちは，自分たちの支配者として人間より神に従わねばなりません」と言わなくてはなりません。—使徒 5:29。

聖書では法律を尊ぶことが教えられています。次の聖句に何と書いてあるか読んでください。マタイ 5:41。テトス 3:1。ペテロ第一 2:12-14。

29章

どんなパーティーでも神に喜ばれますか

パーティー，つまり，おおぜいが一緒に楽しむ集まりは好きですか。— パーティーはとても楽しいときとなります。偉大な教え手はわたしたちがパーティーに行ってもいいと思うでしょうか。— 実はイエスも，ある人が結婚した時に，いわゆるパーティーに出かけて行きました。弟子たちも幾人か一緒に行きました。エホバは「幸福な神」ですから，わたしたちが良いパーティーで楽しく過ごすことを喜んでくださいます。—テモテ第一 1:11。ヨハネ 2:1-11。

この本の29ページには，エホバが紅海を分けてイスラエル人をわたらせたことが書いてありましたね。覚えていますか。— その後，イスラエル人は歌ったりおどったりしてエホバに感謝を表わしました。それはパーティーのようなものでした。人々はとても幸福でした。神も幸福に感じられたにちがいありません。—出エジプト記 15:1, 20, 21。

それから40年近くたって，イスラエル人は別の大きなパーティーに出かけました。その時イスラエル人を招待したのは，エホバを崇拝してもいない人々でした。実際その人たちは，ほかの神々をひれふして拝み，結婚している相手ではない人と性関係を持つこともよくありました。そのような人たちのパーティーに行っても別に悪くないと思いますか。—

神がこのパーティーを喜ばれたのはなぜですか

エホバは喜ばれませんでした。それで，イスラエル人にばつをあたえました。—民数記 25:1-9。コリント第一 10:8。

聖書には二つの誕生パーティーのことも出ています。その一つは偉大な教え手の誕生パーティーでしたか。— いいえ。二つとも，エホバに仕えなかった人のものです。一つは，イエスがガリラヤ地方に住んでおられた時にそこを支配していたヘロデ・アンテパス王の誕生パーティーでした。

ヘロデ王はたくさん悪いことをしました。自分の兄弟の妻をうばって自分のものにしました。ヘロデアという女の人です。神のしもべであったバプテストのヨハネはヘロデに，そのようにするのはまちがっていると言いました。ヘロデはそれが気に入らず，ヨハネをろうやに閉じこめてしまいました。—ルカ 3:19，20。

ヨハネがろうやに入っている間に，ヘロデの誕生日を祝う時が来ました。ヘロデは盛大なパーティーを開いて，身分の高い人たちをおおぜい招待しました。出席した人たちはみな，食べたり飲んだりして楽しんでいました。その時ヘロデアのむすめが入って来ておどりを見せます。そのおどりがみんなにたいへん喜ばれたので，ヘロデ王はむすめに特別なおくり物をしたいと思いました。それで，

ヘロデの誕生パーティーではどんなことが起きましたか

「お前の求めるものが何であれ，わたしの王国の半分までででも，お前に上げよう」と言います。

むすめは何を求めるでしょうか。お金ですか。きれいな服ですか。自分の宮殿でしょうか。むすめは何と言っていいか分からなかったので，母親のヘロデアのところへ行って，「わたしは何を求めたらいいでしょうか」とたずねました。

ヘロデアはバプテストのヨハネをたいへんにくんでいましたから，ヨハネの首をもらいなさいとむすめに言いました。むすめは王のところへもどって行き，『バプテストのヨハネの首を大皿にのせて今すぐわたしにおあたえくださいますように』と言いました。

ヘロデ王はヨハネが良い人だということを知っていたので，殺したくありませんでした。しかし，もう約束してしまいました。それに，自分が考えを変えたら，パーティーに来ている人たちにどう思われるか心配です。それでヨハネの首を切り落とすため，家来をろうやへつかわしました。間もなく家来が帰ってきて，ヨハネの首を大皿にのせてむすめにわたしました。むすめはそれを母親にわたしました。—マルコ 6:17-29。

聖書に出ているもう一つの誕生パーティーも似たり寄ったりでした。

イエスが12月25日に生まれたはずがないと，どうして言えますか

それはエジプトの王の誕生パーティーでした。その王もパーティーの最中に，ある人の首を切り落とさせました。しかも，後で，その人をつるして，鳥に食べさせました。（創世記 40:19-22）神はその二つのパーティーをよいと認めたと思いますか。— あなただったら，そのようなパーティーに出たいと思ったでしょうか。—

聖書に記されていることには必ず目的がありますね。誕生パーティーのことは聖書に2回しか出ていませんし，どちらの場合も，パーティーの最中に悪いことが行なわれました。では，神は誕生パーティーについて何を教えておられると思いますか。わたしたちが誕生日を祝うのを望んでおられるでしょうか。—

今は，誕生パーティーでだれかの首を切り落とすことはありません。でも，誕生日の祝いを思いついたのは，まことの神を崇拝していない人たちでした。カトリック百科事典は，聖書に出ている誕生日の祝いについて，『自分が生まれ出た日を大いに喜ぶのはただ罪人だけである』と述べています。そのような人になりたいと思いますか。—

偉大な教え手はどうだったでしょうか。ご自分の誕生日を祝ったでしょうか。—祝いませんでした。イエスの誕生パーティーについて聖書は何も述べていません。実際，イエスの初期の弟子たちはイエスの誕生日を祝いませんでした。では，のちになって，人々が12月25日にイエスの誕生日を祝うようになったのはなぜでしょうね。—

ワールドブック百科事典が説明しているように，その日付が選ばれたのは，『ローマの人々がすでにその日をサトゥルヌスの祭りとして守り，太陽の誕生を祝っていた』からでした。イエスの誕生日を祝うために選ばれた日付は，なんと異教徒がすでに祭日にしていた日だったのです。

イエスが12月に生まれたはずはありません。なぜだと思いますか。— 聖書によると，イエスが生まれた時，羊飼いたちは夜になってもまだ野原にいたからです。（ルカ 2:8-12）それに羊飼いたちは，寒くて雨の多い12月には野原に出ていなかったでしょう。

多くの人は，クリスマスがイエスの誕生日でないことを知っています。クリスマスは，神に喜ばれない祝いを異教徒が行なっていた日であることも知っています。それでもとにかく，おおぜいの人たちがクリスマスを祝います。クリスマスに関する神のほんとうのお考えを調べるよりも，パーティーを開くことに関心があるのです。しかし，わたしたちは，エホバに喜んでいただきたいと思いますね。—

ですから，パーティーをするときには必ず，エホバから見て良いパーティーになるようにしたいものです。パーティーは1年のうちいつでも開けます。特別の日を待つ必要はありません。ごちそうを食べ，ゲームをして楽しむこともできます。実際にしてみたいと思いますか。— たぶん，お父さんやお母さんに相談して，助けてもらいながらパーティーを計画できるでしょう。実際にできたら，楽しいでしょうね。— でも，計画を立てる前に，そのパーティーが必ず神からよいと認めていただけるものにしてください。

どんな時でも，神からよいと認めていただけることを行なうことの大切さは，次の聖句にも示されています。箴言 12:2。ヨハネ 8:29。ローマ 12:2。ヨハネ第一 3:22。

30章

おそれに打ち勝つ助け

エホバに仕えるのは簡単なことだと思いますか。— 偉大な教え手は，そのようにはおっしゃいませんでした。殺される前の晩，イエスは使徒たちにこう言いました。『もし世があなた方をにくむなら，あなた方をにくむより前にわたしをにくんだのだ，ということをあなた方は知るのです』。—ヨハネ 15:18。

ペテロは，イエスから決してはなれないと，えらそうに言いましたが，イエスは，その晩ペテロが3度イエスを知らないと言うだろう，とおっしゃいました。そのあとペテロはなんと，その言葉どおりのことをしてしまいます。（マタイ 26:31-35，69-75）どうしてそんなことになったのでしょう。— ペテロがおそれをいだいたからです。ほかの使徒たちもそうでした。

使徒たちがおそれをいだいたのはなぜだと思いますか。とても大切なことを行なっていなかったからです。この点について学ぶことは，たとえ人から何を言われ何をされようとも，エホバに仕えつづけるのに役立ちます。でも，まず，イエスが使徒たちと過ごした最後の晩の出来事をふり返ってみる必要があります。

イエスと使徒たちは最初に過ぎ越しを祝います。過ぎ越しというのは，神の民がエジプトでのどれい状態から救い出されたことを年に1度思い起こすための特別な食事です。次に，イエスは使徒たちと一緒に別の特別な食事を始めます。その食事のことはあとの章で取り上げます。どうしてその食事がイエスを思い起こす助けになるかはそのときに説明しましょう。さて，その食事が終わり，使徒たちにはげましの言葉を述べたあと，イエスは使徒たちを連れてゲッセマネの園へ行きます。そこはよく一緒に行ったお気に入りの場所です。

ゲッセマネの園でイエスはみんなからはなれ，ひとりになります。祈るためで

す。イエスはペテロとヨハネとヤコブにも祈るようにすすめますが，3人はねむりこんでしまいます。イエスは3度，はなれていってひとりで祈り，もどって来ますが，3度ともペテロとほかの二人はねむっています。（マタイ 26：36-47）3人が目ざめていて祈る必要があったのはなぜでしょうね。— そのことについて話しましょう。

過ぎ越しの晩，ユダ・イスカリオテは最初のうち，イエスやほかの使徒たちと一緒にいました。覚えているかもしれませんが，ユダはその時にはもうどろぼうになっていました。ところが今度は裏切り者になります。ユダは，ゲッセマネの園のどこでイエスが使徒たちとよく会っていたかを知っています。それで，イエスをつかまえるために兵士たちをその場所へ案内します。兵士たちがやって来ると，イエスは，『あなた方はだれをさがしているのですか』と聞きます。

兵士たちは「イエスを」と答えます。イエスはおそれずに，「わたしがその者です」とお答えになります。兵士たちはイエスの勇気にたいへんおどろき，後ずさりして地面にたおれます。そのあとイエスは，『あなた方のさがしているのがわたしであれば，使徒たちは去らせなさい』と言います。—ヨハネ 18：1-9。

兵士たちがイエスをとらえてしばり上げると，使徒たちはこわくなってにげてしまいます。しかし，ペテロとヨハネはどんなことになるのか知りたいと思い，はなれてあとに付いて行きます。やがてイエスは大祭司カヤファの家に連れて行かれます。ヨハネが大祭司に知られていたので，戸口番はヨハネとペテロを中庭に入れてくれます。

カヤファの家にはすでに祭司たちが裁判をするために集まっていました。イエスが死刑になることを願っているので，イエスについてうその証言をする人たちを連れて来ます。人々はイエスをこぶしでなぐったり，平手打ちを加えたりします。その間ずっと，ペテロは近くの場所にいます。

ペテロとヨハネを中に入れた戸口番の下女がペテロに気がつき，『あなたも，イエスと一緒にいました!』と言います。しかしペテロは，イエスなんてぜんぜん

ペテロとヤコブとヨハネが目ざめているべきだったのはなぜですか

知らない，と言います。しばらくして，別の下女がペテロに気づき，そばに立っている者たちに，『この人はイエスと一緒にいました』と言います。今度もペテロは，イエスのことを知らないと言います。その後，幾人かの人がペテロを見て，『確かにあなたもかれらの一人だ』と言います。ペテロは，「わたしはその人を知らないのだ!」と言って否定します。これで3度目です。また，自分の言っていることはほんとうだと，ちかうことまでします。すると，イエスはふり向いてペテロをご覧になります。—マタイ 26:57-75。ルカ 22:54-62。ヨハネ 18:15-27。

ペテロはなぜうそをついたのでしょうか。— おそれをいだいたからですね。では，なぜおそれをいだいたのでしょうか。勇気を出すために必要などんなことをおこたっていましたか。さあ，どうでしょう。イエスは勇気を得るために何をしたでしょうか。— 神に祈りました。それで神は勇気をいだけるようイエスを助けました。また，イエスがペテロに，祈りなさい，目を覚まして見張っていなさい，と3度言ったことを思い出してください。しかし，結果はどうでしたか。—

ペテロは3回とも，ねむりこんでしまいました。祈ることも，見張りつづけるこ

ペテロが，おそろしさのあまり，イエスを知らないとうそをついたのはなぜですか

ともしませんでした。それでペテロは，イエスがとらえられた時，不意をつかれました。その後の裁判で，人々がイエスをなぐり，イエスを殺させる計画を立てた時，ペテロはこわくなりました。しかし，ほんの数時間前，イエスは使徒たちに，これからどんなことがあると言われましたか。— 世はイエスをにくんだように，使徒たちのこともにくむとおっしゃいましたね。

ではここで考えてみましょう。わたしたちにもペテロの場合と似たようなことが起こるかもしれません。例えば，教室にいる時に，みんなが，国旗に敬礼しない人やクリスマスを祝わない子の悪口を言い始めたとします。そして，だれかがあなたの方を向いて，

あなたも，ペテロの場合と同じように，どんな状況に置かれることがありますか

「君が国旗に敬礼しないって，ほんとう?」と言ったらどうでしょう。あるいは，みんなから，「君はクリスマスを祝わないんだってね!」と言われたらどうでしょう。こわくてほんとうのことが言えなくなりますか。— ペテロのように，うそをつきたくなるでしょうか。—

ペテロは，イエスを知らないと言ったことをとても後悔しました。自分がしてしまったことに気づいたペテロは，外に出て泣きました。そうです，ペテロは再びイエスに従うようになったのです。（ルカ 22:32）それでは，考えてみましょう。おそろしさのあまり，ペテロのようなことを言わないために，何が助けになると思いますか。— ペテロは祈ることやじっと見張っていることをおこたりましたね。では，偉大な教え手の弟子になるには何を行なう必要があるでしょうか。—

助けを求めてエホバに祈ることはほんとうに必要です。イエスが祈った時，神はイエスのために何をなさったと思いますか。— イエスを強めるためにみ使いをおつかわしになりました。（ルカ 22:43）わたしたちも神のみ使いに助けてもらえるのでしょうか。— 聖書は，『エホバのみ使いは神をおそれる者たちの周囲に陣営を張っており，かれらを助け出す』と述べています。（詩編 34:7）でも，神の助けを得るには，助けを祈り求めるだけではなく，それ以上のことをする必要があります。ほかに何が必要だと思いますか。— イエスは弟子たちに，目ざめていて，ずっと見張っていなさいとおっしゃいました。そのためにはどうすればよいと思いますか。—

クリスチャンの集会で話されることに注意深く耳をかたむけ，聖書を読んでその内容に注意をはらう必要があります。また，エホバに定期的に祈り，エホバに仕える助けを求めることも必要です。そうすれば，おそれに打ち勝つ助けがあたえられます。そして，機会があれば，偉大な教え手とそのお父さんについてみんなに喜んで話すようになるでしょう。

人に対するおそれから，正しいことなのに行なわない，ということが決してないようにするために，次の聖句は役立ちます。箴言 29:25。エレミヤ 26:12-15，20-24。ヨハネ 12:42，43。

31章

なぐさめはどこに見いだせますか

悲しくてひとりぼっちだと思うときがありますか。— 自分はだれにも愛されていないのではないかと思うことがありますか。— そう思う子もいます。しかし神は,「**わたしがあなたを忘れることはない**」と約束しておられます。(イザヤ 49:15) これは考えただけでもすばらしいことではないでしょうか。— そうですね。エホバ神は, ほんとうにわたしたちを深く愛してくださいます。

聖書を書いた人の一人はこう言いました。「わたしの父とわたしの母がわたしを捨て去ったとしても, エホバご自身がわたしを取り上げてくださることでしょう」。(詩編 27:10) そのことを知ると, ほんとうになぐさめられますね。— 実際, エホバは,『おそれてはならない。わたしはあなたと共にいるからである。**わたしはあなたをほんとうに助ける**』と言っておられます。—イザヤ 41:10。

しかしエホバは, サタンがわたしたちにいやがらせをするのをお許しになることがあります。ご自分のしもべたちがサタンから試されることさえお許しになります。悪魔がある時イエスをひどく苦しめたので, イエスはエホバに向かって,「わたしの神, わたしの神, なぜわたしをお見捨てになりましたか」と大声でさけびました。(マタイ 27:46) しかしイエスは,苦しみを味わっていても,エホバから愛されていることを確信していました。(ヨハネ 10:17) それに, 神のしもべたちがサタンから試され, サタンによって苦しめられるのを神が許しておられるということも知っていました。神がそのようなことをお許しになる理由については, 別の章で説明しますね。

小さい子は, こわくてたまらなくなることがあります。例えば, そうですね, 迷子になったことはありますか。— こわくなりましたか。— 子どもには, よくあることです。偉大な教え手はある時, 迷子の話をなさいました。と言っても, 迷子になったのは人間ではなくて, 羊でした。

この迷子の小さな羊はどう感じていると思いますか

いくつかの点で，あなたは羊と似ています。どうしてそう言えるのでしょうか。例えば，羊はそれほど大きくなく，強くもありません。だれかに世話をしてもらったり，守ってもらったりする必要もあります。羊の世話をする人のことを羊飼いと言います。

イエスがなさった迷子の話には，100ぴきの羊を持つ羊飼いが出てきます。そのうちの1ぴきが迷子になってしまいました。おかの向こう側に何があるのか見たかったのかもしれません。しかし，間もなく仲間の羊からはぐれてしまいました。周りを見回して，自分がひとりぼっちになったことを知った時，その羊がどう感じたか想像できますか。—

羊飼いは，羊が1ぴきいないことに気づいた時，どうするでしょうか。とにかく悪いのは羊のほうだから心配などしない，と言うでしょうか。それとも99ひきの羊を安全な場所に残して，迷子になった1ぴきの羊をさがしに行くでしょうか。1ぴきの羊に，そこまでのことをする価値があるでしょうか。— もしあなたが迷子の羊だったら，羊飼いにさがしてもらいたいと思いますか。—

その羊飼いはどの羊もたいへん愛していました。迷子になった羊のこともたいへん愛していました。それで，いなくなった羊をさがしに出かけます。羊飼いがやって来るのを見た時，迷子の羊がどんなにうれしく思ったか想像してみてください。羊飼いも自分の羊を見つ

けてたいへん喜んだ，とイエスは言いました。羊飼いは，迷子にならなかった99ひきの羊以上に，その1ぴきのことをたいへん喜んだのです。さて，イエスの話に出てくる羊飼いに似ているのはだれでしょうか。羊飼いが羊のことを気づかったように，わたしたちのことを深く気づかってくださるのはだれでしょうか。— 天のお父さんです，とイエスはおっしゃいました。イエスのお父さんはエホバでしたね。

エホバ神はご自分の民の偉大な羊飼い，つまり牧者です。エホバは，ご自分に仕える人たちすべてを愛しておられます。あなたのような子どもたちのことも愛しておられます。だれひとり傷ついたりほろんだりしないようにと願っておられます。神がわたしたちをそれほどまでに気づかってくださるというのは，ほんとうにすばらしいことではありませんか。—マタイ 18:12-14。

あなたはほんとうにエホバ神を信じていますか。— 神はあなたにとって，実際に生きている身近な存在ですか。— エホバが人間の目に見えないことは確か

羊を助け出した羊飼いのような方は だれですか

です。神は霊者だからです。神は人間の目に見えない体を持っておられます。しかし，神は実際に生きておられるので，わたしたちを見ることができます。わたしたちがどういうときに助け

を必要とするかをご存じです。また，わたしたちは，ちょうど地上のだれかに話すように，祈りによってエホバにお話しすることができます。エホバはわたしたちがそうすることを望んでおられます。

では，悲しいとかひとりぼっちだと思うときはどうすればよいでしょうか。— エホバにお話ししましょう。エホバに近づくのです。そうすれば，エホバはなぐさめと助けをあたえてくださいます。ひとりぼっちだと感じる時でも，エホバから愛されているということを忘れてはなりません。聖書の詩編 23編を開いてみましょう。1節から読んでいくと，こう書いてあります。『エホバはわたしの牧者。わたしは何にも不足しません。神は草の多い牧場にわたしを横たわらせ，水のじゅうぶんにある休み場にわたしを導いてください』。

エホバはあなたにとって，
お父さんかだれかと同じように，
実際に生きている身近な存在ですか

この詩編を書いた人が，さらに4節で述べていることにも注目してください。『たとえ深いかげの谷を歩もうとも，わたしは何も悪いものをおそれません。あなたがわたしと共にいてくださるからです。あなたのむち棒とつえは，わたしをなぐさめてくれるものなのです』。エホバを神とする人々はそのように感じます。そして，苦しい時でもなぐさめられます。あなたもそのように感じていますか。—

エホバは，愛にあふれた羊飼いが自分の羊の群れを世話するように，ご自分の民をよく世話しておられます。エホバは行くべき正しい道を民にお示しになり，民のほうもエホバに喜んで従います。神の民は身の回りでたいへんなことが起こっても，おそれる必要はありません。羊飼いは，羊に害をおよぼしそうな動物から羊

を守るために，むち棒やつえを使います。聖書には，年若い羊飼いのダビデがライオンとクマから羊を守ったことについて記されています。（サムエル第一 17:34-36）それで神の民は，自分たちもエホバに守っていただけることを知っています。また，神が共にいてくださるので安心できます。

エホバはご自分の羊をほんとうに愛しているので，羊たちを優しく世話してくださいます。聖書はこう述べています。『神は羊飼いのようにご自分の羊を導かれる。両方のうででで小さなものたちを集められる』。—イザヤ 40:11。

エホバがそのような方だということを知ると，うれしくなりませんか。— エホバの羊になりたいと思いますか。— 羊は羊飼いの声に耳をかたむけます。羊飼いのそばをはなれません。あなたはエホバの言葉に耳をかたむけますか。— エホバのそばをはなれませんか。— そうであれば，決しておそれる必要はありません。エホバはあなたと共にいてくださるのです。

エホバはご自分に仕える人々を優しく世話されます。そのことについて述べている聖書の次の部分を一緒に読みましょう。詩編 37:25; 55:22。ルカ 12:29-31。

わたしたちが困っている時，羊を守る羊飼いのように助けてくださるのはだれですか

32章

イエスはどのように保護されたか

エホバは，自分では身を守れない幼い子どもを保護するためにときどきおどろくようなことをなさいます。いなかで散歩に出かけたりすると，エホバがどのようにして保護してくださるかを学べるかもしれません。と言っても，最初はそれと気づかないことでしょう。

1羽の鳥が近くの地面に降りて来ます。けがをしているようです。あなたが近づこうとすると，鳥は片方のつばさを引きずりながらにげます。追いかけると，先へ先へと少しずつにげて行き，そのうちに，ぱっと飛んで行ってしまいます。つばさにけがなどしていませんでした！ 鳥は何をしていたのでしょう。—

鳥が降りてきた場所の近くのしげみには，ひな鳥がかくされていました。母鳥は，あなたがひな鳥を見つけて危害を加えるかもしれないと思い，けがをしたふりをして，はなれた所へあなたをおびき寄せたのです。母鳥がひなを守るように，わたしたちを守ることができるのはだれだと思いますか。— 聖書の中でエホバは，ひなを助けるワシという鳥に例えられています。—申命記 32:11，12。

エホバにとって最も大切な子どもは，心から愛しておられるみ子，イエスです。イエスは天にいた時，お父さんと同じように

この母鳥はひなを どのように守っていますか

力の強い霊者でした。ですから,自分で身を守ることができました。でも,地上で赤ちゃんとして生まれた時には無力で,守ってもらわなければなりませんでした。

イエスが地上で神のご意志を成しとげるには,じゅうぶんに成長した完全な大人になる必要がありました。しかし,サタンはその前にイエスを殺そうとしました。イエスが子どもの時に殺されそうになり,エホバがどのようにしてイエスを保護されたかという話を聞くと,はらはらします。その話を聞きたいと思いますか。—

イエスが生まれると間もなく,サタンは,星のように見えるものを東の空にかがやかせます。星について調べる,占星術者と呼ばれる人たちは,エルサレムまで幾百キロもその星の後をついて行きます。そして,エルサレムに着くと,ユダヤ人の王になる方はどこでお生まれになるのですかと聞きます。そのことについて聖書に書いてあることを知っている人たちは,「ベツレヘムです」と答えます。—マタイ 2:1-6。

神は占星術者たちがイエスを訪問した後,
その人たちにどんな警告をあたえて,
イエスを救われますか

エルサレムにいたヘロデという悪い王は，近くのベツレヘムの町で最近，新しく王になる子どもが生まれたという話を聞くと，占星術者たちに，『その子どもをさがして見つけたら，もどって来てわたしに報告しなさい』と言います。ヘロデがイエスのいる場所を知りたがったのはなぜだと思いますか。— ヘロデはしっと深い人で，イエスを殺したいと思っているのです。

神はみ子をどのように保護されるでしょうか。— 占星術者たちは，イエスを見つけると，おくり物をします。その後，夢の中で神から，ヘロデのもとに帰らないようにと告げられます。それでエルサレムにはもどらずに，別の道を通って家に帰ります。ヘロデは占星術者たちが去ったことを知ると，たいへんおこり，イエスを殺そうとして，ベツレヘムにいる2さい以下の男の子を一人残らず殺させます。ところが，イエスはもうベツレヘムにいなかったのです。

イエスはどのようにしてにげたと思いますか。— 占星術者たちが家へ帰って行った後，エホバはマリアの夫のヨセフに，起きて，遠いエジプトへにげるようにとお命じになります。エジプトなら，イエスが悪いヘロデから危害を加えられることはありません。それから何年かたって，マリアとヨセフがイエスを連れてエジプトから帰った時，神はヨセフに別の命令をおあたえになります。夢の中でヨセフに，ナザレへ行くようにと言われます。そこはイエスにとって安全な場所です。—マタイ 2：7-23。

幼いイエスはまたもや，どのように救われますか

エホバがみ子をどのように保護されたか分かりましたか。— 母鳥がしげみにかくしたひな鳥のような，また小さな子どもだった時のイエスのような人は，だれだと思いますか。あなたがそうではありませんか。— あなたの周りに

も，ひどい目にあわせようとする者たちがいます。だれだか分かりますか。—

聖書はサタンのことを，わたしたちを食べたがる，ほえるライオンのようだと言っています。ライオンがよく小さな動物をねらうのと同じように，サタンと悪霊たちも子どもたちをねらうことがよくあります。（ペテロ第一 5:8）しかし，エホバはサタンよりも強い方です。エホバはご自分の子どもたちを守ることができます。またエホバは，サタンが子どもたちに対してどんな悪いことをしても，そういうことがなかったかのように子どもたちを元気にしてくださいます。

この本の10章で，悪魔と悪霊がわたしたちに何をさせようとするかを学びましたね。覚えていますか。— そうですね。まちがっていると神が言っておられる性関係のようなものを持たせようとします。でも，性関係を持ってよいのはだれだけですか。— そのとおりです。夫婦になっている大人の男の人と女の人だけです。

ところが残念なことに，大人の中には，子どもと性関係を持ちたがる人がいます。そういうことをされた男の子や女の子は，大人のまねをして悪いことを行なうようになるかもしれません。また，生殖器をまちがった仕方で用いるようになります。遠い昔，ソドムという都市で，そのようなことがありました。聖書は，ソドムの人々が「**少年から**年寄りまで」，ロトの家に来ていた男の人たちと性関係を持とうとしたと述べています。—創世記 19:4，5。

ですから，イエスが守ってもらう必要があったのと同じように，あなたも，性関係を持とうとする大人から，ときには子どもからも傷つけられないよう守ってもらう必要があります。そういう人たちはたいてい，友達のふりをします。二人ですることを人に言わないと約束してくれたら，いい物をあげるとさえ言うかもしれません。でも，その人たちはサタンや悪霊と同じように利己的です。自分さえ満足すればよいと思っているのです。そうするために，子どもと性関係を持とうとしているのです。**これはほんとうにまちがったことです！**

そういう人たちは，自分が満足するためにどんなことをすると思いますか。—

だれかがあなたの体に変なさわり方をしようとしたら，何と言い，どうしなければなりませんか

あなたの生殖器をいじろうとすることがあります。自分の生殖器をあなたの生殖器に無理にこすりつけることまでする人もいます。でも，絶対だれにも，あなたの陰茎や外陰にいたずらをさせてはなりません。お兄さんやお姉さん，弟や妹，お父さんやお母さんでも，だめです。**体のその部分は自分だけのものです。**

そういう悪いことをする人から自分の体を守るにはどうすればよいでしょう。— まず，だれにも生殖器にいたずらをさせてはなりません。だれかがそうしようとしたら，「**やめてください！ 言いつけますよ！**」と，大声できっぱりと言いなさい。その人が，ぜんぶお前が悪いんだと言っても，信じてはなりません。それはうそです。相手がどういう人であっても，その人がしたことを知らせてください！ 二人でしたことは内緒だよと言われても，知らせなくてはいけません。その人から，いい物をあげるから，と言われたり，おどされたりしても，とにかくその人からにげて，その人のしたことを知らせなくてはいけません。

びくびくする必要はありませんが，注意深くなければなりません。危険だと思える人や場所のことで，お父さんやお母さんから注意される時は，よく言うことを聞く必要があります。そうすれば，悪い人に出会ってひどいことをされずにすみます。

まちがった性関係を持とうとする人から身を守ることについて，次の聖句を読んで考えてください。創世記 39:7-12。箴言 4:14-16; 14:15, 16。コリント第一 6:18。ペテロ第二 2:14。

33章

イエスはわたしたちを守ることができる

イエスは大きくなって，自分が幼いころどのように保護されたかを知ったとき，エホバに祈って感謝したと思いますか。— またイエスは，マリアとヨセフがエジプトに連れて行ってくれたおかげで自分の命が助かったことを後から知り，二人に何と言ったと思いますか。—

もちろん，イエスはもう赤ちゃんではありません。以前とはちがい，地上に住んでいるのでもありません。それなのに，ある人たちはイエスのことをまだ飼い葉おけの中にいる赤ちゃんとしか思っていないようです。あなたも気づいていましたか。— クリスマスシーズンになると赤ちゃんのイエスの絵をあちこちで見かけるので，そのことがよく分かります。

イエスはもう地上に住んでいません。でもあなたは，イエスは生きておられると信じていますか。— イエスは死人の中からよみがえらされたのでしたね。そして，今は天で力の強い王になっておられます。イエスはご自分に仕える人々を守るためにどんなことを行なえると思いますか。— イエスは地上にいた時，ご自分を愛する人々をどのようにして守れるかを示しました。その例となる，ある日の

あなたはイエスをどのような方だと思っていますか。力の強い王ですか。無力な赤ちゃんですか

出来事を見てみましょう。その日イエスは弟子たちと一緒に舟に乗って出かけました。

午後のおそい時刻になりました。イエスは一日中ずっとガリラヤの海のほとりで教えていました。ガリラヤの海は，長さがおよそ20キロ，はばが12キロの大きな湖です。イエスは弟子たちに，『湖の向こう側にわたりましょう』と言われます。そこで一行は舟に乗って湖をわたりはじめました。イエスはとてもつかれていました。ですから，舟の後ろのほうに行き，まくらをして横になると，すぐにねむりこんでしまいます。

弟子たちは起きていて，舟が針路からはずれないようにしています。しばらくは順調でしたが，やがて強い風がふきはじめました。風はだんだん激しくなり，波はますます大きくなってゆきます。波はしぶきを上げて舟の中に入り，舟の中は水びたしになりはじめます。

弟子たちは，舟がしずむのではないかと心配します。ところが，イエスはそうではありません。舟の後ろのほうで，まだねむっています。弟子たちはとうとうイエスを起こし，『先生，先生，お救いください。このあらしでわたしたちは死んでしま

イエスは風と波に何と言っていますか

いそうです』と言います。それを聞くとイエスは起き上がり，風と波に向かって，「静まれ！ 静かになれ！」と言われます。

すると，たちまち風はやみ，湖はおだやかになります。弟子たちはとてもおどろきました。このようなことは今まで一度も見たことがありません。それでたがいにこう言い始めます。「これはいったいどういう方なのだろう。風や水にさえ命じると，それはこの方に従うのだ」。—ルカ 8:22-25。マルコ 4:35-41。

イエスはどういう方だと思いますか。— そのように大きな力をどこから得ているのでしょうね。— 弟子たちはイエスと一緒にいた時，心配するべきではありませんでした。イエスはふつうの人間では

イエスが奇跡を行なったのはなぜですか

なかったからです。イエスは，ほかのだれにもできないおどろくようなことを行なえました。イエスが別の時にあらしの海でなさったことも話してあげましょう。

しばらくたったある日のことです。夕方になると，イエスは弟子たちに，舟に乗って先に海の向こう岸に行くよう命じます。それからご自分は一人で山の中

に入って行かれます。そこは，お父さんであるエホバ神にイエスが祈ることのできる静かな場所です。

弟子たちは舟に乗ると，海をわたりはじめます。ところが，間もなく風がふきはじめ，しだいに激しくなってゆきます。もう夜になりました。弟子たちは帆を降ろして，こぎはじめます。しかし，強い向かい風がふきつけるので，あまり先へ進めません。舟は高い波に激しくゆさぶられ，水しぶきがどんどん舟の中に入って来ます。弟子たちは何とかして岸にたどり着こうとしますが，できません。

そのころイエスはまだ独りで山の中にいます。もうかなり長い間，そこにおられます。しかしイエスは，弟子たちが高い波にもまれて危険にさらされていることに気づき，山を下りて海の岸に行きます。弟子たちを助けたいと思ったイエスは，なんと，あれた海の上を歩きはじめます。

人が水の上を歩こうとしたら，どうなるでしょうか。— しずんで，おぼれてしまうでしょう。ところがイエスはちがいます。イエスには特別な力があるのです。イエスは長いきょりを歩いて舟に着きます。ですから，水の上を歩いて来るイエスを弟子たちが見たのは，夜明けごろです。しかし，弟子たちは自分たちの見ていることが信じられません。とてもこわがり，おそろしさのあまり大声でさけびます。するとイエスは弟子たちに向かって，『勇気を出しなさい，わたしです。おそれることはありません』と言います。

イエスが舟に乗ったとたん，あらしはやみます。弟子たちは再びおどろき，イエスの前にひれふして，「確かにあなたは神の子です」と言います。—マタイ 14：22-33。ヨハネ 6：16-21。

あなたがそのころに生きていて，そのようなことを行なうイエスを見ることができたとしたら，すばらしいと思いませんか。— イエスがそうした奇跡を行なったのはなぜでしょうね。— 弟子たちを愛し，助けたいと思ったからです。また，自分が偉大な力を持っていることや，その力を将来，神の王国の支配者とし

て用いることを示すためでもありました。

現在でさえイエスは，神の王国について話すのをやめさせようとするサタンから弟子たちを守るために，しばしば自分の力をお用いになります。でもその力を，病気にならないように弟子たちを守ったり，弟子の病気を治したりするために用いることはありません。イエスの使徒たちもやがてはみな死にました。ヨハネの兄弟のヤコブは殺されましたし，ヨハネ自身もろうやに入れられました。—使徒 12：2。啓示 1：9。

今日でも同じことが言えます。人はみな，エホバに仕えていてもいなくても，病気になって死にます。しかし間もなく，イエスが神の政府の王として支配するようになると，事情は変わります。その時にはだれも心配する必要がありません。イエスが，ご自分に従う人々すべてを祝福するために力をお用いになるからです。—イザヤ 9：6，7。

イエスは今日，ご自分の弟子たちをどのように守られますか

神がご自分の王国の支配者とされるイエスの偉大な力については，次のような聖句にも記されています。 *ダニエル 7：13，14。マタイ 28：18。エフェソス 1：20-22。*

34章

人は死ぬとどうなりますか

たぶんあなたも知っていると思いますが，現在，人は年を取って病気になり，死んでいきます。子どもが死ぬことさえあります。死をおそれたり死んだ人をこわがったりする必要があるでしょうか。— 人は死ぬとどうなると思いますか。—

いま生きている人の中で，死んでいたのに生き返り，その経験を話せるという人は一人もいません。しかし，偉大な教え手イエスが地上におられた時には，死んで生き返った人がいました。その人について調べれば，人は死ぬとどうなるかが分かります。その人はイエスの友達で，エルサレムから遠くないベタニヤという小さな町に住んでいました。名前をラザロと言います。ラザロには，マルタとマリアという二人の姉妹がいました。どんなことがあったのか，聖書を読んで調べてみましょう。

ある日，ラザロは重い病気にかかります。イエスはその時，遠くはなれた所にいます。それでマルタとマリアは使いの人を送って，兄弟のラザロが病気だということをイエスに知らせます。イエスなら来て兄弟の病気を治してくださることを知っていたからです。イエスはお医者さんではありませんが，神から力があたえられているので，どんな病気でも治せます。—マタイ 15:30, 31。

しかしイエスが会いに行かないうちに，ラザロは病気がたいへん重くなって死んでしまいます。ところがイエスは弟子たちに，ラザロはねむっているから起こしに行くと言います。弟子たちはその意味が分かりません。それでイエスははっきりと，「ラザロは死んだのです」と言われます。このことから，死について何が分かりますか。— 死とは深いねむりのようなものだということですね。夢を見ることもない，たいへん深いねむりです。

イエスがマルタとマリアを訪ねて行くと，すでにラザロの家族の友人たちがおおぜい来ていました。兄弟を亡くした姉妹たちをなぐさめようとして来たのです。イエスがやって来ることを聞いたマルタは，イエスをむかえに行きます。それから間もなく，マリアもイエスに会いに行きます。マリアはたいそう悲しんで，泣きながらイエスの足もとにひれふします。マリアのあとに付いてきた友人たちも泣いています。

偉大な教え手は，ラザロをどこに置いたのかとたずねます。そこで人々は，ラザロがほうむられたどうくつにイエスを案内します。イエスはみんなが泣いているのを見て，ご自分も泣き始めます。家族のだれかが亡くなるのはとてもつらいということを知っておられるのです。

どうくつの前には石があるので，イエスは，「石を取りのけなさい」と言います。しかし，そんなことをしてもよいのでしょうか。— マルタには，良い方法とは思えません。それで，『主よ，もうくさくなっているにちがいありません。四日になりますから』と言います。

ところがイエスはマルタに言います。「信じるなら神の栄光を見るでしょうと，わたしは言いませんでしたか」。イエスは，マルタがこれから，神にほまれがもたらされるようなことを見る，と言っておられるのです。イエスは何をしようとしているのでしょうか。石が取りのけられると，イエスは声を出してエホバに祈り，それから大きな声で，「ラザロよ，さあ，出て来なさい！」と言います。ラザロは出てくるのでしょうか。そんなことができるのでしょうか。—

ねむっている人は起こせますか。— そうですね。大きな声で呼べば，目を覚ますでしょう。でも，死んでねむっている人は起こせるでしょうか。— 起こせませんね。どんなに大きな声で呼んでも，死んだ人には聞こえません。現在，地上にいるあなたやわたしが，あるいはほかのだれかが，死んだ人を目覚めさせようとしても，それは無理なのです。

しかしイエスはちがいます。イエスには神からあたえられた特別な力があり

ます。ですから，イエスがラザロを呼ぶと，びっくりするようなことが起きます。四日のあいだ死んでいた人がどうくつから出てきたのです！ 生き返りました！ 以前のように呼吸したり，歩いたり，話したりできるのです！ イエスは，ラザロを死人の中からよみがえらせました。—ヨハネ 11:1-44。

では，考えてみましょう。ラザロは死んでどう

イエスはラザロのために何をしましたか

なったのでしょうか。ラザロの一部が，つまり魂とか霊とか呼ばれるものが体をぬけ出し，ほかの場所へ行って生きつづけたのでしょうか。ラザロの魂は天へ行きましたか。四日のあいだ，天で神やみ使いたちと一緒に暮らしていたのでしょうか。—

そうではありません。ラザロはねむっている，とイエスが言われたことを思い出してください。ねむっているとはどんな状態ですか。ぐっすりねむっている時には，周りで何が起きても分かりませんね。— そして，目を覚ました時，時計を見るまではどれほど長くねむったか分かりません。

死んだ人も同じです。死んだ人は何も**知りません**し，**感じません**。また，何も**行**

死んでいた時のラザロはどんな状態でしたか

なえません。死んだラザロもそうでした。死は，何も覚えていない深いねむりのようなものです。聖書は，『死んだ者には何の意識もない』と述べています。—伝道の書 9:5, 10。

次のことも考えてみましょう。もしラザロが四日のあいだ天にいたとしたら，そのことについて何か話したはずではないでしょうか。— それに，もしラザロが天にいたのであれば，イエスはそのすばらしい場所からラザロを地上に連れもどすようなことをなさったでしょうか。— もちろん，そのようなことは考えられません。

しかし，多くの人が，人間は魂を**持っている**と言います。そして，体は死んでも魂は生き続けると言います。その人たちは，ラザロの魂はどこかで生きていたのだと言います。でも，聖書はそう言っていません。聖書によると，神は最初の人間アダムを「生きた魂」としてお造りになりました。アダムが魂**そのもの**でした。聖書はまた，アダムは罪を犯した時に死んだと述べています。アダムは「死んだ魂」になり，元のちりに帰りました。そして聖書は，アダムの子孫はみな罪と死を受けついだと述べています。—創世記 2:7; 3:17-19。民数記 6:6。ローマ 5:12。

ですから，人間が体とは別に魂を**持っている**わけでないことは明らかです。わ

たしたち一人一人が魂**そのもの**なのです。人は最初の人間アダムから罪を受けついでいるので，聖書は，『罪を犯している魂は死ぬ』と述べています。—エゼキエル 18:4。

ある人たちは死んだ人をおそれていて，墓地に近づこうとしません。死んだ人には体からはなれた魂があり，生きている人に害をおよぼすかもしれないと思っているからです。しかし，死んだ人は生きている人に害をおよぼせるのでしょうか。— それはできません。

死んだ人は生きている人を訪ねるために霊者としてもどって来る，と信じている人たちもいます。そう信じていますから，死んだ人に食べ物を供えます。しかし，そのようなことをする人たちは死んだ人について神が言っておられることをほんとうに信じてはいません。神が言っておられることを信じている人は，死んだ人をおそれたりしません。また，命をあたえてくださったことを神に心から感謝している人は，神からよいと認められることを行なって感謝の気持ちを表わします。

でも，『神は死んだ子どもたちを生き返らせるだろうか。そうすることをほんとうに望んでおられるだろうか』と思う人がいるかもしれません。そのことについては次の章で話しましょう。

次の聖句を読み，聖書が死んだ人の状態について，また人間は魂であるという点について述べていることをもっと調べましょう。詩編 115:17; 146:3, 4。エレミヤ 2:34。

死んだ人をこわがる必要がまったくないのはなぜですか

35章

わたしたちは死んでも生き返ります

わたしたちが死んだら，神はわたしたちを復活させたい，つまり生き返らせたいと**お望みになる**でしょうか。— 神がそう望んでおられることを，良い人だったヨブは信じていました。ですから，ヨブは自分が死にそうだと思った時，神に向かって，「あなたは呼んでくださり，私はあなたに答えます」と言いました。ヨブはまた，エホバ神がヨブを復活させることを強く望んでおられるとも述べました。エホバはそのことを**したわれる**のです。—ヨブ 14:14，15。

イエスは，お父さんのエホバ神によく似ています。わたしたちを助けたいと**望んでおられます**。今はハンセン病と呼ばれる病気にかかっていた人がイエスに，「あなたは，ただそう**お望みになる**だけで，私を清くすることがおできになります」と言った時，イエスは，「**わたしはそう望みます**」と答えて，その人の病気を治してあげました。—マルコ 1:40-42。

イエスは，子どもたちを愛することをお父さんから学びました。遠い昔にエホバは2度，ご自分のしもべを用いて子どもを復活させました。例えば，エリヤは，親切にしてくれた女の人の

エホバは子どもたちを愛しておられることをどのように示されましたか

息子を復活させてくださるようエホバに真剣にたのみました。それでエホバはその子を復活させました。エホバはまた，しもべのエリシャを用いて少年を復活させました。—列王第一 17:17-24。列王第二 4:32-37。

エホバがわたしたちをそれほどまでに愛してくださっていることを知ると，うれしくなりませんか。— エホバは，わたしたちが生きている時だけ心に留めてくださるのではありません。たとえ死んでも，覚えていてくださいます。天の父は，死んだ愛する人々を生きているとさえ考えておられる，とイエスは述べました。（ルカ 20:38）聖書は，『死も，生も，今あるものも，来たるべきものも，神の愛からわたしたちを引きはなすことはできない』と述べています。—ローマ 8:38, 39。

イエスは地上にいた時，エホバが小さな子どもたちを気づかっておられることを示しました。イエスが時間をかけて神について子どもたちに話したことは覚えているでしょう。しかし，子どもを死人の中からよみがえらせる力が神からあたえられていたことは知っていましたか。— イエスが，ヤイロという男の人の12さいのむすめを復活させた時の話をしましょう。

ヤイロはガリラヤの海の近くで，妻とたった一人の子どもと一緒に暮らしています。ある日，その女の子が重い病気にかかります。ヤイロは，むすめがもう助からないことを知って，イエスのことを考えはじめます。人々の病気を治せるそのすばらしい人について聞いたことがあるのです。それでヤイロはその人をさがしに出かけ，ガリラヤの海の岸辺で多くの人を教えているイエスを見つけます。

ヤイロは群衆をかきわけて進み出，イエスの足もとにひれふして，こう言います。『わたしの小さなむすめは重い病気にかかっています。どうかむすめを助けに来てください。お願いですから来てください』。イエスはさっそくヤイロと一緒に出かけます。偉大な教え手に会いに来ていた群衆も付いて行きます。ところがしばらく行くと，ヤイロの家から何人かの人が来て，『むすめさんは亡くなられました！ どうして先生をこれ以上わずらわす必要があるのでしょうか』と言います。

その人たちの言っていることがイエスの耳に入ります。ヤイロが独りむすめを

イエスがヤイロのむすめを復活させたことから何を学べますか

亡くしてどんなに悲しんでいるか，イエスは知っています。それでヤイロにこう言います。『おそれてはいけません。ただ神を信じなさい。そうすれば，あなたのむすめさんはだいじょうぶです』。かれらはそのまま進んでヤイロの家まで行きます。そこではヤイロの家族の友人たちが泣いています。小さな友達が死んだので悲しんでいるのです。ところがイエスはその人たちに，『泣かなくてもよい。その子は死んだのではない，ねむっているのです』と言われます。

イエスがそう言うと，人々は笑いはじめます。少女が死んだことを知っているからです。では，少女はねむっているのだとイエスが言われたのはなぜだと思いますか。人々にどんな教訓をあたえたいと思っておられるのでしょう。— 死は深いねむりのようなものだということを知ってほしいと思っておられるのです。イエスにとって死んだ人を神の力によって生き返らせるのは，ねむっている人を起こすのと同じほど簡単だということを教えたいと思っておられます。

イエスは，使徒のペテロとヤコブとヨハネ，それに少女のお父さんとお母さん以外の人たちに家から出てもらい，小さな子どものいる所に入って行くと，その子の手を取って，「少女よ，起きなさい!」と言われます。すると，どうでしょう。少女はすぐに起き上がって歩きはじめました。お父さんとお母さんは喜びで心がいっぱいになります。—マルコ 5:21-24，35-43。ルカ 8:40-42，49-56。

さて，次のことを考えてみてください。イエスはその少女を生き返らせることができたのですから，ほかの人たちにも同じことができるのではないでしょうか。— イエスはほんとうにそうすると思いますか。— そのとおりです。そうなさいます。イエスご自身がこう言っておられます。『記念の墓の中にいる者がみな，わたしの声を聞いて出て来る時が来ようとしています』。—ヨハネ 5:28, 29。

イエスは人々を復活させたいと**望んでいる**と思いますか。— 聖書に出ているもう一つの例は，その質問に答える助けとなります。ナインという都市の近くで生じた，ある日の出来事から，葬式の時に悲しみに暮れている人々のことをイエスがどうお感じになるかが分かります。

ある女の人が息子の葬式の行列に加わり，おおぜいの人と一緒にナインを出発するところです。その女の人は以前に夫を亡くし，今度は**たった一人の**子どもにも死なれてしまいました。どんなにか悲しいことでしょう。死体が都市の外へ運び出される時，ナインの人々がおおぜい付いて行きます。女の人は泣いていますが，人々はなぐさめるために何をすることもできません。

その日，イエスと弟子たちは偶然ナインの都市へ向かっています。都市の門の近くで，女の人の息子をまいそうしに行く群衆に出会います。イエスは泣いている女の人を見て，あわれに思います。その人の大きな悲しみに心を動かされ，助けてあげたいと思います。

それで，イエスは優しく，しかも女の人に言い聞かせるようなしっかりとした口調で，「泣かないでもよい」と言います。その態度と行動には，だれもが関心をそそられ，イエスを見守ります。死体に近づくイエスを見て，だれもが，イエスは何をするつもりなのだろうと思ったにちがいありません。イエスは，「若者よ，あなたに言います，起き上がりなさい!」とお命じになります。少年はすぐに身を起こして，ものを言いはじめます。—ルカ 7:11-17。

女の人がどんな気持ちになったか想像してみてください。死んだ愛する人が生き返って来たら，あなたはどんな気持ちになるでしょうか。— この出来事は，イ

エスが人々をほんとうに愛し，助けたいと**望んでおられる**ことを示しているのではありませんか。— 神の新しい世で生き返る人々をむかえるのはどんなにすばらしいことか，ちょっと考えてみてください。—ペテロ第二 3:13。啓示 21:3，4。

その時に復活する人の中には，わたしたちの知っている人たちもいることでしょう。子どもたちもふくまれていることでしょう。イエスがヤイロのむすめを復活させた時，ヤイロはそれが自分のむすめだと分かりました。それと同じように，復活した人がだれかということは，分かるのです。また，復活する人の中には，何百年も何千年も前に亡くなった人々もいます。遠い昔の人たちだからといって，神がそれらの人をお忘れになることはありません。

エホバ神と，み子イエスが，わたしたちをそれほどまでに愛してくださっているというのは，すばらしいことではないでしょうか。— お二人は，わたしたちがほんの数年ではなく，永遠に生きることを望んでおられるのです。

死んだ人に対する聖書のすばらしい希望については，どうぞ次の聖句を読んでください。イザヤ 25:8。使徒 24:15。コリント第一 15:20-22。

この女の人のたった一人の子どもが復活したということは，何を示していますか

36章

だれが復活しますか どこに住みますか

すぐ前の二つの章から，何人が復活したことが分かりますか。— 5人です。子どもは何人いましたか。— 3人です。そして，次に出てくる4番目の人は若者と呼ばれています。このことから何が分かるでしょうか。—

神は子どもや若者を愛しておられるということです。しかし神は，ほかにもおおぜいの人を復活させます。良いことを行なった人だけを復活させるのでしょうか。— そう思えるかもしれません。でも，多くの人はエホバ神とみ子についての真理を一度も学んだことがありません。そのために，まちがったことを教えられて，悪いことをしてしまいました。エホバはそのような人を復活させると思いますか。—

聖書は，『正しい者と正しくない者との復活があります』と述べています。（使徒24:15）正しく**なかった**人，つまり正しいことを**しなかった**人が復活するのは

正しいことを行なわなかった人でも，神が復活させる場合があるのはなぜですか

なぜでしょうか。— エホバについて，また，エホバは人間が何をするよう望んでおられるかについて学ぶ機会が一度もなかったからです。

人々はいつ復活すると思いますか。— ラザロが死んだ時のことを思い起こしてみましょう。イエスがラザロの姉妹マルタに，「あなたの兄弟はよみがえります」と約束すると，マルタは，『かれが終わりの日の復活のさいによみがえることは知っております』と答えました。（ヨハネ 11:23, 24）マルタはどういう意味で，ラザロは「終わりの日」によみがえると言ったのでしょうか。—

マルタは，『記念の墓の中にいる者がみな出て来ます』というイエスの約束についてすでに聞いていました。（ヨハネ 5:28, 29）ですから，「終わりの日」というのは，神の記憶の中にある人々がみな生き返る時のことなのです。この終わりの日は，24時間の1日ではなく，千年続きます。聖書によると，その日に『神は地の人々を裁きます』。神が裁く人々の中には，復活した人々もふくまれます。—使徒 17:31。ペテロ第二 3:8。

その日がどれほどすばらしい時になるか，考えてみてください。千年続くこの日の間に，死んでいるおおぜいの人々が生き返ります。イエスは，生き返った人々が住む所をパラダイスと呼びました。では，パラダイスつまり楽園はどこにできるのか，どんな所かということを調べましょう。

苦しみの杭の上で亡くなる3時間ほど前に，イエスはとなりの杭にかけられていた人にパラダイスのことを話しました。その人は犯罪をおかしたので処刑されるところでした。しかし，その犯罪者は，イエスを観察したり，イエスについて

話されることを聞いたりしているうちに，イエスを信じるようになります。それで，「あなたがご自分の王国に入られる時には，わたしのことを思い出してください」と言います。するとイエスは，「今日あなたに真実に言いますが，あなたはわたしと共にパラダイスにいるでしょう」と答えます。—ルカ 23：42，43。

パラダイスについて書いてあるところを読む時，どんなことを思いうかべる必要がありますか

イエスはどういう意味で，そう言ったのでしょうか。パラダイス，つまり楽園はどこにあるのでしょうか。—考えてみましょう。初め，楽園はどこにありましたか。— 思い出してみましょう。神は最初の人間アダムとその妻をこの地上に住ませるため，楽園をおあたえになりました。その場所はエデンの園と呼ばれていました。そこには動物がいましたが，だれにも害をおよぼしませんでした。おいしい果物のたくさんなる木が何本も生えており，大きな川が流れていました。そこに住むのはすばらしいことでした。—創世記 2：8-10。

ですから，その犯罪者がパラダイスにいると書いてある部分を読む時には，美しく変えられた地球に住んでいるところを思いうかべる必要があります。イエスは犯罪者だったその人と一緒にこの地上のパラダイスに住むのでしょうか。— そうではありません。なぜ地上にいないのか分かりますか。—

イエスは天にいて，地上のパラダイスを王として支配するからです。ですからイエスは，その人を死人の中からよみがえらせ，その人の世話をするという意味でその人と共にいるのです。それにしても，イエスはなぜ，犯罪者だった人がパ

ラダイスに住むことをお許しになるのでしょうか。— 一緒に考えてみましょう。

その犯罪者はイエスと話しをする前，神の目的について知っていたでしょうか。— 知りませんでした。神についての真理を知らなかったので，悪いことを行ないました。でもパラダイスでは，神の目的を教わります。それから，神のご意志を行なうことによって神をほんとうに愛していることを証明する機会があたえられます。

復活する人々はどこに住みますか。そして，何をしますか

復活する人はみな地上のパラダイスに住むのでしょうか。— みながみな，そうするのではありません。なぜだか分かりますか。— 復活し，イエスと一緒に天に住む人たちもいるからです。その人たちはイエスと一緒に王として地上のパラダイスを治めます。どうしてそう言えるのか調べましょう。

イエスは，亡くなる前の晩，使徒たちにこう言います。『わたしの天の父の家には住むところがたくさんあります。わたしはあなた方のために場所を準備しに行こうとしています』。それからこう約束します。『わたしは再び来て，あなた方をわたしのところにむかえます。わたしのいる所にあなた方もまたいるためです』。—ヨハネ 14:2，3。

イエスは復活してからどこへ行くのでしょうか。— そうですね。天にもどり，お父さんと一緒になります。（ヨハネ 17:4,5）ですから，イエスは使徒たちや他の弟子たちに，天でイエスと一緒になれるよう復活させると約束しておられるのです。その人たちはイエスと一緒に天で何をするのでしょうか。— 聖書によると，「第一の復活」にあずかるイエスの弟子たちは天に住んで，『千年のあいだかれと共に王として』地を支配します。—啓示 5:10; 20:6。テモテ第二 2:12。

「第一の復活」にあずかり，イエスと共に王として支配するのは何人でしょうか。— イエスは弟子たちに，『おそれることはありません，**小さな群れよ**。あなた方の父は，あなた方に王国をあたえることをよいと認められたからです』とおっしゃいました。（ルカ 12:32）復活し，天の王国でイエスと一緒になるこの「小さな群れ」の人数ははっきりしています。聖書は，「十四万四千人」が地から復活することを示しています。—啓示 14:1, 3。

では，地上のパラダイスで生活するのは何人でしょうか。— 聖書は何も述べていません。しかし，神はエデンの園にいたアダムとエバに，子どもをもうけて**地に満ちよ**と言われました。二人がそうしなかったのは確かです。でも神は，良い人々で地を満たすというご自分の目的が必ず果たされるようになさいます。—創世記 1:28。イザヤ 45:18; 55:11。

パラダイスに住むのがどれほどすばらしいことか，ちょっと考えてみてください。地球全体は公園のようになります。鳥や動物がたくさんいて，いろいろな種類の木や草花のある美しい所になるのです。病気のために痛い思いをする人は一人もいませんし，だれも死ぬ必要がありません。みんなが友達になります。いつまでもパラダイスに住みたいと思うなら，その準備をするのは，今です。

次の聖句を読み，地に対する神の目的についてもっと調べてください。箴言 2:21, 22。伝道の書 1:4。イザヤ 2:4; 11:6-9; 35:5, 6; 65:21-24。

37章

エホバとみ子を思い起こす

だれかからすばらしいおくり物をもらったとしましょう。どんな気持ちになるでしょうか。— 感謝の言葉を述べるだけで，その後はおくり主のことをすっかり忘れてしまいますか。それともその方のことや，してくださったことを忘れないようにしますか。—

エホバ神はわたしたちにすばらしいおくり物をくださいました。み子を地上につかわし，み子がわたしたちのために死ぬようにされたのです。イエスがわたしたちのために死ぬ必要があったのはなぜだと思いますか。— それは，ぜひとも理解しなくてはならないとても大切なことです。

23章で学んだように，アダムは神の完全な律法を破って罪を犯しました。それで，わたしたちは，すべての人の父ともいえるアダムから罪を受けつぎました。では，わたしたちには何が必要だと思いますか。— 新しい父のような人が必要です。地上で完全な人間としての生涯を送った父です。そのような父になれるのはだれだと思いますか。— イエスです。

エホバはイエスを地上につかわし，イエスがわたしたちにとってアダムの代わりの父といえる方になれるようにしてくださいました。聖書はこう述べています。『「最初の人アダムは生きた魂になった」。最後のアダムは命をあたえる霊になった』。最初のアダムとはだれのことですか。— 神が地のちりで造った人のことですね。二人目のアダムとはだれでしょうか。— イエスです。聖書の次の言葉を見ると，そのことが分かります。『最初の人［アダム］は地から出てちりで造られており，第二の人［イエス］は**天から出ています**』。—コリント第一 15:45，47。創世記 2:7。

神がイエスの命を天からマリアという女の人の体の中に移されたので，イエ

スはアダムの罪をまったく受けつぎませんでした。ですから，イエスは完全な人間でした。（ルカ 1:30-35）それで，み使いもイエスが生まれた時，羊飼いたちに，『今日，あなた方に救い主が生まれました』と言ったのです。（ルカ 2:11）しかし，赤ちゃんのイエスが救い主になるには，まず，どんなことが必要だったでしょうか。— 成長して，アダムと同じような一人前の大人になることです。そのようにしてイエスは，『第二のアダム』になることができました。

救い主のイエスはわたしたちの「とこしえの父」にもなります。イエスは聖書の中でそう呼ばれています。（イザヤ 9:6，7）**完全な**イエスは，罪を犯して不完全になったアダムの代わりに，わたしたちの父になれるのです。それで，わたしたちは，『第二のアダム』を父として選ぶことができます。もちろん，イエスご自身がエホバの子どもであることに変わりはありません。

イエスについて知るようになれば，イエスを救い主として受け入れることができます。人間は何から救われる必要があるのか覚えていますか。— アダムから受けついだ罪と死からでしたね。イエスがわたしたちのためにぎせいにした，一人前の人間としての完全な命は**贖い**と呼ばれています。エホバが贖いを備えてくださったので，わたしたちは罪を許していただけるようになりました。—マタイ 20:28。ローマ 5:8; 6:23。

神とみ子がわたしたちのためにしてくださったことは忘れたくありませんね。— イエスは，ご自分がなさったことを思い起こさせる助けとして，特別な方法を弟子たちに教えました。そのことについて話しましょう。

アダムとイエスはどのようなところが似ていましたか。そのことがとても重要だったのはなぜですか

イスラエルの人々は子羊の血によって どのように守られましたか

あなたが，エルサレムのある家の2階の部屋にいるところを想像してみてください。夜です。イエスと使徒たちがテーブルに着いています。テーブルの上には，焼いた子羊の肉と，平たいパンと，赤ぶどう酒があります。みんなは特別な食事をしているところです。なぜか分かりますか。—

これは，はるか昔にエホバが行なわれたことを思い起こさせるための食事です。そのころ，エホバの民であるイスラエル人はエジプトでどれいになっていました。エホバはご自分の民に，『家族ごとに1頭の子羊を殺し，その血を家の戸口の柱にぬりなさい』とお命じになりました。それから，『家の中に入って，その子羊の肉を食べなさい』とおっしゃいました。

イエスがぶどう酒に例えたご自身の血は， わたしたちのためにどんな働きをしますか

イスラエル人は言われたとおりにしました。そして，その夜，神のみ使いがエジプトの地を通り過ぎました。み使いは，ほとんどの家で初子を殺しましたが，戸口の柱にぬられた子羊の血を見ると，その家は過ぎ越しました。そういう家の子どもはだれも死にませんでした。エジプトの王ファラオは，エホバのみ使いのしたことを知ってこわくなり，イスラエル人に，『自由に行くがよい。エジプトから出て行け!』と言いました。そこでイスラエル人はラクダやロバに荷物を積んで出て行きました。

エホバは，ご自分の民がどのようにして自由にされたかを忘れないでほしいと思いました。それで，『年に一度，今晩食べたような食事をしなければなりません』とおっしゃいました。イスラエル人はこの特別な食事を過ぎ越しと呼びました。なぜか分かりますか。— その夜，神のみ使いが血で印の付けられた家を『過ぎ越した』からです。—出エジプト記 12:1-13, 24-27, 31。

イエスと使徒たちは，その出来事について考えながら，過ぎ越しの食事をします。食事の後，イエスはたいへん重要なことを行ないます。しかし，その前に，不忠実な使徒のユダを去らせます。それからイエスは残ったパンの一つを取り，パンについての祈りをささげてから，それを割いて弟子たちに回します。「取って，食べなさい」とイエスは言います。それから，『このパンは，わたしがあなた方のために死ぬ時にあたえるわたしの体を表わしています』と使徒たちに告げます。

次にイエスは赤ぶどう酒の入ったさかずきを取り上げます。もう一度感謝の祈りをささげてから，それをみんなに回し，「あなた方はみな，それから飲みなさい」と言います。そして使徒たちにこう告げます。『このぶどう酒はわたしの血を表わしています。間もなくわたしは，あなた方を罪から自由にするために，わたしの血を注ぎ出します。わたしを思い起こすために，このことを行なってゆきなさい』。—マタイ 26:26-28。コリント第一 11:23-26。

イエスを思い起こすために弟子たちはこのことを行なってゆくべきである，と

イエスがおっしゃったことに気がつきましたか。— 弟子たちはもう過ぎ越しの食事をしません。その代わり毎年1回，イエスとイエスの死を思い起こすために，この特別な食事をするのです。この食事は主の晩さんと呼ばれます。現在ではたいてい記念式と呼ばれています。なぜでしょうか。— イエスとイエスのお父さんであるエホバ神がわたしたちのためにしてくださったことを思い出させるものだからです。

記念式でパンを見たら，イエスの体について考えるべきです。イエスはわたしたちが永遠の命を得られるように，ご自分の体を進んでぎせいにしました。では，赤ぶどう酒についてはどうですか。— それを見たら，イエスの血の価値を思い起こすべきです。イエスの血は，エジプトで用いられた過ぎ越しの子羊の血よりずっと貴重なものです。なぜでしょう。— 聖書によると，わたしたちはイエスの血によって罪を許していただけるからです。すべての罪を取り去ってもらうと，もう病気になったり，年を取ったり，死んだりすることはありません。記念式に出席する時には，そのようなことについて考えるべきです。

記念式ではみんながパンを食べ，ぶどう酒を飲むべきでしょうか。— イエスは，パンを食べ，ぶどう酒を飲む人たちに，『あなた方はわたしの王国にあずかり，わたしと共に天で座に着きます』と言われました。（ルカ 22:19, 20, 30）それは，かれらが天に行って，イエスと一緒に王になるという意味です。ですから，パンとぶどう酒にあずかるのは，天でイエスと一緒に支配する希望を持っている人たちだけです。

しかし，パンを食べず，ぶどう酒を飲まない人も記念式に出席するべきです。なぜか分かりますか。— イエスはわたしたちのためにもご自分の命をあたえてくださったからです。わたしたちは記念式に行くことによって，それを忘れていないことを示せます。神のすばらしいおくり物のことを思い起こすのです。

イエスの贖いの大切さを示す聖句には次のようなものもあります。コリント第一 5:7。エフェソス 1:7。テモテ第一 2:5, 6。ペテロ第一 1:18, 19。

38章

イエスを愛するべきなのはなぜですか

自分の乗っている船がしずみかけているところを想像してみてください。だれかに助けてもらいたいと思いますか。— だれかが自分の命を捨ててまでも助けてくれたとしたら，どうでしょうか。— イエス・キリストがしてくださったのはそういうことでした。37章で学んだように，イエスはわたしたちを救うために，ご自分の命を贖いとしておあたえになりました。

もちろん，イエスはわたしたちがおぼれているところを救ってくださるわけではありません。イエスは何から救ってくださるのでしょうか。覚えていますか。— わたしたちみんながアダムから受けついだ罪と死からです。中にはとても悪いことをした人たちもいますが，イエスはその人たちのためにも死んでくださいました。あなただったら，命の危険をおかしても，そういう人たちを助けようとするでしょうか。—

聖書は，『正しい人のために死ぬ者はまずいません。ただし，良い人のためなら，おそれることなく死ぬ人もいるかもしれません』と述べています。ところが，イエスは『不敬虔な者たちのために死んでくださった』と聖書に書いてあります。その中には，神に仕えていない人たちもふくまれているのです。聖書はさらにこう述べています。『わたしたちがまだ罪人であった[悪いことをしていた]間にキリストはわたしたちのために死んでくださった』。—ローマ 5:6-8。

使徒になる前にはとても悪いことをしていた人を思い出せますか。— その使徒はこう書きました。『キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られました。**わたしはその中でもいちばん罪深い者です**』。そう述べた使徒はパウロでした。パウロは，自分は『かつては無分別で，悪のうちを』歩んでいたと述べました。—テモテ第一 1:15。テトス 3:3。

そのような人々のために死ぬよう，み子をつかわした神の愛がどれほど深いかについて考えてみてください。聖書を開き，そのことについて述べているヨハネ 3

章16節を読みましょう。そこにはこう書いてあります。『神は世[つまり,地上に住んでいる人々]を深く愛してご自分の独り子をあたえ,だれでもかれに信仰を働かせる者がほろぼされないで,永遠の命を持てるようにされた』。

イエスは,わたしたちに対して,天の父と同じような愛を持っていることを証明しました。この本の30章には,イエスがとらえられた夜に味わった苦しみについて書いてあったのを覚えているかもしれません。イエスは大祭司カヤファの家に連れて行かれて裁判にかけられました。いつわりの証人たちが連れて来られ,イエスについてうその証言をしました。人々はイエスをこぶしでなぐりました。ペテロがイエスを知らないと言ったのは,その時のことです。わたしたちもその場にいるつもりになって,ほかにどんなことが起きるか見てみましょう。

朝がやって来ます。イエスは一晩中起きていました。ゆうべの裁判は正式な裁判ではなかったので,祭司たちはサンヘドリンつまりユダヤ人の高等法廷のメンバーを急いで集めて,もう一度裁判を行ないます。この裁判でもイエスは,神に対して罪を犯したとうったえられます。

祭司たちは今度はイエスをしばらせて,ピラトというローマ総督のもとに連れて行きます。そしてピラトにこう言います。『イエスは政府に反対しています。この男は殺すべきです』。しかし,ピラトは,祭司たちがうそを言っていることを見ぬき,こう言います。『この男には何一つ悪いところがない。自由にしてやるつもりだ』。ところが祭司やほかの者たちは,『だめだ! 殺せ!』と大声でさけびます。

その後ピラトは,イエスを自由にするつもりでいることを,もう一度話そうとしますが,祭司たちは群衆を動かして,『あの男を釈放するなら,あなたも政府に反対していることになる! あの男を殺せ!』とさけばせ,大騒動になります。ピラトはどうすると思いますか。—

ピラトは負けてしまいます。そして,まずイエスをむちで打たせてから,死刑にするため兵士たちにわたします。兵士たちはいばらのかんむりをイエスの頭にのせ,イエスの前で身をかがめてイエスをからかいます。それから,大きな柱,つまり杭をあたえて運ばせ,市の外の“どくろの場所”と呼ばれる所へ引いて行きます。そこ

で，兵士たちはイエスの両手と両足をくぎで杭に打ち付け，その杭を立てます。こうしてイエスは杭にかけられました。イエスの体からは血が流れ出ています。たいへんひどく痛みます。

イエスは杭にかけられただけなので，すぐに死ぬわけではありません。祭司長たちはイエスをからかいます。通行人たちも，「神の子なら，苦しみの杭から下りて来い！」と言います。しかし，イエスは，自分が何をするために父からつかわされたかを知っています。人間が永遠の命を得る機会を持てるよう，ご自分の完全な命をあたえなければならないということを知っておられるのです。午後3時ごろ，ついにイエスは父に向かって大声でさけび，息を引き取ります。—マタイ 26:36-27:50。マルコ 15:1。ルカ 22:39-23:46。ヨハネ 18:1-19:30。

イエスは，アダムと何とちがっていたのでしょう。アダムは神に対して愛を示すどこ

イエスは，わたしたちのために命をあたえた時，どんな苦しみを味わいましたか

ろか，神に背きました。アダムはわたしたちに対しても愛を示しませんでした。アダムが罪を犯したために，わたしたちはみな，生まれながらに罪を負っています。しかし，イエスは神とわたしたちに対する愛を示しました。いつも神に従いました。そして，アダムがわたしたちにもたらした害を除くことができるように，ご自分の命をあたえてくださいました。

イエスを愛していることを示すために，どんなことができますか

あなたはイエスがなさったすばらしいことに感謝していますか。— 神に祈る時，み子をあたえてくださったことに対して神に感謝していますか。— 使徒パウロは自分のためにキリストがしてくださったことに感謝していました。神のみ子は『**わたしを愛し**，わたしのためにご自身をわたしてくださった』とパウロは書いています。（ガラテア 2:20）イエスはあなたやわたしのためにも死んでくださいました。イエスは，わたしたちが永遠の命を得られるよう，完全な命をあたえてくださったのです。そのことは確かに，わたしたちがイエスを愛する強力な理由となります。

使徒パウロはコリント市のクリスチャンに，「キリストの愛がわたしたちを行動させます」と書き送りました。キリストの愛に動かされると，わたしたちはどんな行動を起こしたいと思うようになるでしょうか。あなたはどう思いますか。— パウロの答えに注目してください。「キリストがすべての人のために死んだのは，**人がキリストのために生きるようになるためです。人は自分を喜ばせるために生きるべきではありません**」。— 斜体は本書。コリント第二 5:14，15，「ニューライフ訳」（英語）。

キリストを喜ばせるために生きていることを，どのように示せるでしょうね。—

その一つは，イエスについて学んだことをほかの人に話すことです。それから，こういう場合を考えてみましょう。自分一人しかいません。ですから，何をしてもお父さんやお母さんには分かりません。ほかの人にも分かりませんね。では，イエスに喜んでもらえないことが分かっているテレビ番組を見ますか。また，もしかすると，インターネットでそういうものを見ますか。— 忘れてはなりません。イエスは今も生きておられ，わたしたちの行ないをぜんぶ見ることができるのです。

イエスを愛する理由はほかにもあります。それは，わたしたちがエホバに見ならいたいと思っているということです。「父はわたしを愛してくださいます」とイエスは言いました。エホバがイエスを愛しておられるのはなぜか，そして，わたしたちも同じようにするべきなのはなぜか分かりますか。— イエスは神のご意志がなされるために，進んで死ぬことまでされたからです。（ヨハネ 10:17）ですから，聖書がわたしたちにすすめていることを行ないましょう。こう書いてあります。『愛される子どもとして，神を見ならう者となりなさい。そして，キリストがあなた方を愛し，ご自身をあなた方のために引きわたされたように，あなた方も愛のうちに歩んでゆきなさい』。—エフェソス 5:1, 2。

イエスと，イエスがわたしたちのためにしてくださったことに対する感謝の気持ちを深めるために，次の聖句を読んでください。ヨハネ 3:35; 15:9, 10。ヨハネ第一 5:11, 12。

39章

神はみ子を覚えておられる

イエスは友人のラザロが死んだ時，なみだを流しました。では，イエスが苦しんで死んだ時，エホバもつらい気持ちになったと思いますか。—聖書によると，神は「痛みを覚え」ることがあります。また，ある出来事が神に『痛みをあたえる』ことさえあります。—詩編 78:40,41。ヨハネ 11:35。

エホバが，愛するみ子の死を見てどんなに心を痛めたか想像できますか。—イエスは，神がイエスをお忘れにならないことを確信していました。ですから，死んでいく時，最後に，『父よ，わたしの[命]をみ手にたくします』と言いました。—ルカ 23:46。

イエスは，自分が「地獄」，つまり墓に置いておかれず，復活することを確信していました。イエスがよみがえった後，使徒ペテロはイエスについて書いてある聖書の言葉を引用し，『その魂は地獄に捨て置かれず，その肉体がくされを見ることもない』と言いました。（使徒 2:31，「ジェームズ王欽定訳」[英語]。詩編 16:10）確かに，イエスの体がくさるまで，つまり，傷んでくさくなるまで墓の中に置かれることは決してありませんでした。

墓が空なのはなぜですか。何が起きたのでしょうか

イエスは，地上にいた時，長い時間死んだままではいないことを弟子たちに告げました。自分は「殺され，三日目によみがえらされる」と弟子たちに説明しました。（ルカ 9：22）ですから，イエスが復活した時，弟子たちはおどろく必要がありませんでした。でも，実際はどうだったでしょうか。— 調べてみましょう。

金曜日の午後3時ごろ，偉大な教え手は苦しみの杭の上で亡くなります。お金持ちのヨセフという人はサンヘドリンの一員でしたが，こっそりイエスを信じるようになっていました。ヨセフはイエスが死んだことを知ると，ローマの総督ピラトのもとに行き，イエスの体をほうむるので杭から下ろしてもよいかとたずねます。そして，イエスの体を墓がある園へ運びます。

イエスの体が墓の中に入れられた後，大きな石が転がされて墓の前に置かれます。墓がふさがれたのです。そして三日目の日曜日になりました。日がのぼる前なので，あたりはまだ真っ暗です。男の人たちが墓の番をしています。祭司長たちが，その人たちをつかわして番をさせているのです。なぜか分かりますか。—

それは，祭司長たちも，イエスが自分は復活すると言ったのを聞いていたからです。それで，番兵に見張りをさせて，イエスの弟子たちが死体をぬすみ，イエスはよみがえらされたと言うことのないようにします。ところが突然，地面がゆれ動き，やみの中で光がぱっとかがやきます。エホバのみ使いです！ 兵士たちはびっくり仰天して，動けなくなります。み使いは墓のところに行き，石を転がして，どけます。なんと，墓は空っぽです！

後から使徒ペテロが述べたとおり，「このイエスを神は復活させた」のです。（使徒 2：32）神は，イエスが地上に来る前に持っていたのと同じような体を持つ者として，イエスを生き返らせました。イエスはみ使いが持っているような霊の体で復活させられました。（ペテロ第一 3：18）ですから，自分を人々に見せる必要があるときには，肉の体を着けなければなりません。イエスはそうなさるでしょうか。— 調べてみましょう。

朝日がのぼってきます。兵士たちはにげてしまいました。マリア・マグダレネな

ど，イエスの弟子になった女の人たちが墓に向かっています。『だれがわたしたちのためにあの重い石を転がし，どけてくれるでしょうか』とたがいに話しています。（マルコ 16：3）ところが墓に着いてみると，石はすでに転がされ，どけてあります。そして，墓は空っぽです！ 死んだイエスの肉の体はありません！ マリア・マグダレネは，イエスの使徒をさがすため，すぐにかけ出して行きます。

ほかの女の人たちは墓のそばにいて，『いったいイエスの体はどこにあるのかしら』と不思議に思っています。すると，突然，まばゆいばかりの衣服を着た二人の人が現われます。み使いたちです！ み使いは女の人たちにこう言います。『あなた方はなぜここでイエスをさがしているのですか。イエスはよみがえらされました。急いで行って，このことを弟子たちに告げなさい』。その女の人たちがどんなに速く走ったか想像できますね。途中で一人の男の人に出会います。だれだと思いますか。—

それは，肉の体を着けたイエスです。イエスも女の人たちに，『行って，わたしの弟子たちに告げなさい』と言います。女の人たちは興奮しています。弟子たちを見つけると，『イエスは生きています！ わたしたちはイエスを見ました!』と告げます。ペテロとヨハネはその時にはもうマリアから，墓が空だということを聞いていました。二人は，このさし絵にあるように，墓に行きます。そして，イエスの体を包んだ亜麻布を見ますが，どう考えたらよいのか分かりません。イエスが生き返ったことを信じたいのですが，あまりにもすばらしくて，ほんとうとは思えないのです。

その同じ日曜日，もっとおそくなってからのことです。エマオという村に向かう道を歩いていた二人の弟子にイエスが現われます。イエスは二人と一緒に歩きながら話しをしますが，二人はその人がイエスであることに気づきません。イエスが以前と同じような肉の体を着けていないからです。イエスがその弟子たちと一緒に食事をした時に，祈りをささげてはじめて，二人はそれがイエスであることに気づきます。弟子たちはすっかり興奮し，何キロもはなれたエルサレムに

急いで帰ります。それから間もなくのことだと思われますが，イエスは生き返ったことを示すためにペテロにも現われます。

さらに時間がたったその日曜日の夜，多くの弟子が一つの部屋に集まっています。戸にはかぎがかかっています。ところが，突然，イエスが弟子たちのいるその部屋の中に現われます！ そこで弟子たちは，偉大な教え手が生き返ったことを知ります。弟子たちはどんなに喜んだことでしょう。—マタイ 28:1-15。ルカ 24:1-49。ヨハネ 19:38-20:21。

イエスは40日の間，さまざまな肉の体を着けて現われ，ご自分が生き返ったことを弟子たちに示します。それから地上を去って，天のお父さんのところにもど

ペテロとヨハネはどんなことを考えているのでしょうか

ります。（使徒 1:9-11）間もなく弟子たちは，神がイエスを死人の中からよみがえらせたことを，みんなに話しはじめます。祭司は弟子たちを打ちたたき，弟子のある者たちを殺させることまでしますが，弟子たちは宣べ伝えるのをやめません。たとえ死んでも，神がみ子を覚えておられたように自分たちのことも覚えていてくださるということを知っているのです。

イエスのそれら初期の弟子たちは，今日の多くの人となんとちがっていたのでしょう！ ある国の人々は，イエスが復活した時期になると，復活祭のうさぎや色を付けた卵のことしか考えません。しかし，聖書は復活祭のうさぎや卵については何も述べていません。聖書が述べているのは，神に仕えることです。

イエスが復活した時期になると，多くの人はどんなことについて考えますか。でも，あなたはどうですか

神はみ子を復活させて，すばらしいことを行なわれました。そのことについて他の人に話すなら，わたしたちはイエスの弟子たちに見ならうことになります。人々から殺すと言われても，決しておそれる必要はありません。たとえ死ぬようなことがあっても，エホバはイエスの時と同じように，わたしたちを覚えていてくださり，復活させてくださいます。

神がご自分に仕える人々を覚えておられ，死人の中から復活させるということを知ると，うれしくなるのではありませんか。— このようなことを知ると，どうすれば神を喜ばせることができるかということも知りたくなるはずです。神を喜ばせることはほんとうにできます。そのことを知っていましたか。— それについては次の章で話しましょう。

イエスの復活を信じるなら，わたしたちの希望は確かなものとなり，信仰も強くなるはずです。次の聖句を読んでください。使徒 2:22-36；4:18-20。コリント第一 15:3-8，20-23。

40章

どうすれば神に喜んでいただけますか

神に喜んでいただくために何ができるでしょうか。何かを差し上げることができるでしょうか。— エホバは,「森林の野生動物はどれもわたしのもの」と言っておられます。また,「銀はわたしのもの,金もわたしのものである」と言っておられます。(詩編 24:1; 50:10。ハガイ 2:8) けれども,神に差し上げるものがないわけではありません。それは何でしょうか。—

エホバは,わたしたちがエホバに仕えるか仕えないかを選べるようにしておられます。ご自分がしてほしいことを無理やり行なわせようとはされません。人間が神に仕えるか仕えないかを選べるように造られているのはなぜでしょう。その理由を考えてみましょう。

ロボットがどんなものかはたぶん知っていますね。ロボットは,作った人の思いどおりに動く機械です。ですから,自分で何かを選ぶことはできません。エホバはわたしたちすべてをロボットのようなものに造ることもできました。ご自分がしてほしいことしか行なえないように人間を造ることもできたのです。でも,神はそうされませんでした。なぜか分かりますか。— おもちゃの中にもロボットのように動くものがあります。ボタンをおすと,作った人の思いどおりに動きます。そういうおもちゃを見たことがありますか。— 決められたこと,つまりプログラムされたことしか行なわないおもちゃは,たいていあきてしまいます。神は,人間が神に仕えるようプログラムされた

神がわたしたちをこのロボットのようなものに造られなかったのはなぜですか

ロボットとして従うことを望んでおられません。エホバは，人々がご自分を**愛し**，ご自分に**従いたい**という理由で仕えることを望んでおられるのです。

天のお父さんは，わたしたちが従いたいと思って従う時，どう感じると思いますか。— あなたの行ないによって，お父さんやお母さんの気持ちはどのようにちがってくるでしょうね。— かしこい子は『父をよろこばせ』，おろかな子は「その母の悲嘆となる」と聖書は述べています。（箴言 10:1）お父さんやお母さんは，たのんだことをあなたがしてくれるとうれしくなります。そのことに気づいていますか。— しかし，あなたが従順でないと，お父さんやお母さんはどんな気持ちになるでしょうか。—

どうすればエホバにも，お父さんやお母さんにも喜んでいただけますか

では，わたしたちの天のお父さんであるエホバについて考えてみましょう。どうすればエホバに喜んでいただけるかということは，エホバが教えてくださっています。聖書を開いて，箴言 27 章11節を見てください。神はそこで，わたしたちにこう話しかけておられます。『我が子よ，かしこくあって，**わたしの心をよろこばせよ**。わたしをちょうろうしている者にわたしが返答するためである』。ちょうろうするとはどういうことか分かりますか。— だれかがあなたをばかにして，お前はこれこれのことができると言ったが，ほんとうはできないのだ，と言うとしたら，その人はあなたをちょうろうしているのです。サタンはエホバをどのようにちょうろうするのでしょうか。— 調べてみましょう。

この本の8章では，サタンがいちばんえらくなりたいと思っていることや，みんなを従わせたいと思っていることを学びましたね。人々がエホバを崇拝するの

は，エホバから永遠の命をもらえるからにすぎない，とサタンは言います。サタンは，アダムとエバをエホバに背かせたあと，こんなことを言って神に戦いをしかけました。『人々は，あなたからもらえるものがあるのであなたに仕えているだけです。わたしに機会をあたえてください。そうすれば，みんなをあなたから引きはなしてみせます』。

この言葉がそのまま聖書の中に出ているわけではありません。しかし，ヨブという人について読んで調べると，サタンがそれに似たような言葉を神に述べたことが分かります。ヨブが神に忠実かどうかということはサタンにとってもエホバにとってもたいへん重要な問題でした。では，どうなったのか，聖書のヨブ 1章と2章を開いて調べてみましょう。

ヨブ 1章の中で，み使いたちがエホバに会いに来た時，サタンも天のその場所にいたことに注目してください。エホバはサタンに，「あなたはどこから来たのか」と聞きます。サタンは，地を見て回っていたと答えます。そこでエホバは，『ヨブに気がついたか。ヨブはわたしに仕え，悪いことを何もしていない』と言われます。—ヨブ 1:6-8。

アダムとエバが罪を犯したあと，サタンはどのようにエホバに戦いをしかけましたか

サタンはすぐさま，それにはわけがあるのだと言います。『ヨブがあなたを崇拝しているのは，ただ，困った問題が何もないからです。あなたがヨブを守らなくなり，祝福もあたえなくなるなら，ヨブはあなたの顔に向かってあなたをのろうでしょう』。そこでエホバは，『よろしい，サタンよ。ヨブに対してしたいことは何でも行なってよい。ただし，ヨブ自身を損なってはならない』とおっしゃいます。—ヨブ 1:9-12。

サタンはどんなことをするでしょうか。— 人々にヨブの牛とロバをぬすませます。また，それらの世話をしていた人たちを殺させます。次に，羊とその世話をしていた人たちがかみなりに打たれて死にます。その後，人々が来て，ラクダをぬすみ，その世話をしていた人たちを殺します。最後に，サタンの起こした暴風でヨブの10人の子どものいた家がたおれ，全員が死にます。ヨブは，こうしたことが次々に起きても，エホバに仕えるのをやめません。—ヨブ 1:13-22。

エホバは，サタンに再び会った時，ヨブがずっと変わらず忠実であることを指摘します。でもサタンは，それにはわけがあるのだと主張します。こう言います。『かれの体を損なうことをお許しくだされば，かれはきっとあなたの顔に向かってあなたをのろうようになります』。それでエホバは，サタンがヨブの体を損なうことを許しますが，ヨブを殺してはならない，と注意をあたえます。

ヨブはどんなことにたえましたか。
神がそのことを喜ばれたのはなぜですか

サタンにおそわれたヨブは，体じゅうにはれ物ができます。そのにおいがあまりにもひどいので，だれもヨブのそばにいたいと思いません。ヨブの妻でさえ，「神をのろって死になさい!」と言うほどです。友達のふりをした人たちがやって来て，こんな苦しみにあうのは悪いことをしたからにちがいないと言って，ヨブをさらにがっかりさせます。しかし，サタンがこうした苦しみや痛みをもたらしても，ヨブはエホバに忠実に仕えつづけます。—ヨブ 2:1-13; 7:5; 19:13-20。

ヨブが忠実だったので，エホバはどんな気持ちになったと思いますか。— エホバは喜ばれました。なぜなら，サタンにこう言うことができたからです。『ヨブを見てごらんなさい。ヨブがわたしに仕えているのは，そうしたいと**願っている**からです』。エホバは，サタンがうそつきであることを証明する例としてヨブを挙げることができるのです。あなたもヨブのようになりますか。— 実際のところ，だれもエホバに仕えないようにすることができるというサタンの主張に対して答えを提出するのは特権です。イエスは確かにそれを特権とみなしました。

偉大な教え手は，悪いことをさせようとするサタンに決して負けませんでした。イエスの模範が天のお父さんをどれほど喜ばせたか考えてみてください! エホバはイエスを指して，サタンにこう返答することができました。『わたしの子を見てごらんなさい。かれはわたしを愛しているので，わたしに対する忠実を完全に保ちました』。イエスがお父さんの心を喜ばせることができてどれほど喜びを感じておられるかも考えてください。イエスは，そのような喜びのゆえに，苦しみの杭の上で死ぬことにもたえられたのです。—ヘブライ 12:2。

あなたも偉大な教え手のようになって，エホバに喜んでいただきたいと思いますか。— では，エホバが行なってほしいと思っておられることについて学びつづけてください。また，それを行なうことによってエホバに喜んでいただくようにしてください。

神に喜んでいただくためにイエスが何をしたか，また，わたしたちも何をする必要があるかということを，次の聖句を読んで学んでください。箴言 23:22-25。ヨハネ 5:30; 6:38; 8:28。ヨハネ第二 4。

41章

神に喜ばれる子どもたち

エホバにいちばん喜ばれた子どもはいったいだれだったと思いますか。— み子イエスでした。天のお父さんに喜ばれるためにイエスが行なったことについて話しましょう。

イエスの家族は，エルサレムまで三日くらいかかる所に住んでいました。エルサレムにはエホバの美しい神殿があり，イエスはその神殿を「自分の父の家」と呼びました。イエスは家族と一緒に過ぎ越しの祭りに出るため，毎年そこに行きました。

ある年のことです。イエスは12さいになっていました。過ぎ越しが終わり，イエスの家族は帰りの旅を始めます。夜が来てとまる時になって，イエスが親戚や友人の中にいないことに気がつきました。それでマリアとヨセフはすぐエルサレムに引き返してイエスをさがしました。イエスはどこにいたと思いますか。—

神殿にいたのです。イエスは教師たちの話すことに耳をかたむけたり質問したりしていました。また，教師の質問には，必ず答えていました。教師たちはイエスがみごとに答えるので感心します。神がみ子のことを喜ばれた理由が分かりますか。—

イエスをやっと見つけて，マリアとヨセフがほっとしたことは言うまでもありません。でも，イエスのほうは心配していませんでした。神殿が良い場所だということを知っていたからです。それで，「私が自分の父の家にいるはずのことをご存じではなかったのですか」と聞きました。イエスは神殿が神の家だということを知っていて，そこにいたいと思ったのです。

それから，マリアとヨセフは12さいのイエスを連れてナザレに帰りました。イエスは両親に対してどのようにふるまったと思いますか。— イエスは『**引き続**

きかれらに服しておられた』と聖書は述べています。それはどういう意味だと思いますか。— 両親に**従順だった**という意味です。イエスは，お父さんやお母さんからたのまれたことは，井戸から水をくんでくるというような仕事であっても行ないました。—ルカ 2:41-52。

次のことを考えてみてください。**イエスは完全だったにもかかわらず，不完全な親に従いました。**そのことは神に喜ばれたでしょうか。— もちろん喜ばれました。なぜなら，神の言葉は子どもたちに，「あなた方の親に従順でありなさい」とすすめているからです。（エフェソス 6:1）あなたも，イエスのようにお父さんやお母さんに従うなら，神に喜んでいただけます。

神に喜んでいただく別の方法は，神について人々に知らせることです。それは若い人のすることではないと言う人がいるかもしれません。しかし，そうする少年たちをだまらせようとした人たちに対して，イエスはこう言いました。『あなた方は，「幼い子どもの口から，神は賛美を引き出される」と聖書に書いてあるのを読んだことがないのですか』。（マタイ 21:16）ですから，エホバのことや，エホバがどんなにすばらしい神であるかについて知らせたい

イエスは子どもの時，どうすることによって神に喜ばれましたか

とほんとうに願っているなら，だれでもそうすることができます。また，そうすれば，神に喜んでいただけます。

わたしたちは，神について何を話したらよいかということを，どこで学んでいるでしょうか。— 家で聖書の勉強をして学んでいます。でも，神の民が集まって勉強する所ではもっと多くのことを学びます。では，どんな人たちが神の民なのか，どうすれば分かるでしょうか。—

次のことを調べてみましょう。その人たちは集会でどんなことをしますか。聖書に書いてあることを実際に教えていますか。聖書を読み，聖書に基づいた話をしていますか。そうするのは，神の言われる事柄に耳をかたむけることでしたね。— クリスチャンの集会では，神の言われることを聞けるはずです。そうでしたね。— でも，ある人たちが，聖書の言葉に従った生活をする必要はないと言うとしたら，どうでしょうか。その人たちは神の民だと言えるでしょうか。—

ほかにも考えなければならないことがあります。聖書には，神の民は「み名のための民」になると書かれています。（使徒 15:14）神の名前はエホバですから，みなさんの神はエホバですか，と聞いてみるとよいでしょう。その人たちが，ちがいますと答えるなら，その人たちは神の民ではないことが分かります。また，神の民であれば，神の王国についてほかの人に話しているはずです。そして，神のおきてを守ることによって神への愛を示しているはずです。—ヨハネ第一 5:3。

このようなことをぜんぶ行なっている人たちを知っていたら，神を崇拝するためにその人たちの集まりに行く必要があります。集会では注意深く耳をかたむけ，質問が出された時には答えましょう。イエスは神の家にいた時，そのようにしました。あなたもそうすれば，イエスと同じように，神に喜んでいただけます。

聖書の中に出てくる，神に喜ばれた子どもがほかにも思いうかびますか。— テモテは際立った例です。テモテのお父さんはエホバを信じていませんでし

テモテはお父さんが信者でなかったのに，どんな願いを持っていましたか

た。でも，お母さんのユニケとおばあさんのロイスはエホバを信じていました。テモテはお母さんとおばあさんの言うことに耳をかたむけ，エホバについて学びました。

テモテが大きくなった時，使徒パウロがテモテの住む町を訪れました。パウロは，テモテがエホバに仕えたいと強く願っていることに気づきました。それで，いっそうじゅうぶん神に仕えるため，一緒に来るようにとテモテにすすめました。二人は行く先々で，神の王国とイエスについて話しました。—使徒 16:1-5。テモテ第二 1:5; 3:14, 15。

ところで，神に喜ばれた例として聖書に出てくるのは男の子だけでしょうか。—決してそのようなことはありません。神に喜ばれたイスラエルの少女について考えてみましょう。その少女は，シリアの国とイスラエルの国が争っていた時代に生きていました。ある日，シリア人がイスラエルと戦って，その少女をほりょにしました。少女は，ナアマンという将軍の家へ送られ，そこでナアマンの妻の召使いになりました。

このイスラエルの少女はどうすることによって神に喜ばれましたか

ナアマンは，今はハンセン病と呼ばれる病気にかかっていました。医者はだれ一人としてナアマンを助けることができません。でも，イスラエルから来たその少女は，神の特別なしもべである預言者だったら，ナアマンを助けられると信じていました。もちろん，ナアマンとその妻はエホバを崇拝していませんでした。少女は自分の知っていることを二人に話したほうがよいでしょうか。あなただったら，どうしたと思いますか。—

少女は言いました。『ナアマン様がイスラエルのエホバの預言者のところへいらっしゃりさえすれば，ナアマン様の病気は治ります』。ナアマンは少女の言葉に耳をかたむけ，エホバの預言者のところに行きました。そして，預言者から命じられたとおりにすると，病気が治りました。それでナアマンは，まことの神の崇拝者になりました。—列王第二 5:1-15。

あなたもその少女のように，ほかの人がエホバについて知り，自分にできることを学べるよう助けたいと思いますか。— 助けてあげられそうな人がいますか。— もちろん，最初はその人たちも自分が助けを必要としているとは思っていないでしょう。でも，エホバが行なっておられる良い事柄について話してみたらどうでしょう。耳をかたむけてくれるかもしれません。そうすれば，神に喜んでいただけるにちがいありません。

次の聖句にも，喜んで神に仕えるよう若者たちにすすめる言葉が記されています。詩編 122:1; 148:12, 13。伝道の書 12:1。テモテ第一 4:12。ヘブライ 10:23-25。

42章

働く必要があるのはなぜですか

何をするのがいちばん好きですか。働くことですか。それとも遊ぶことですか。— 遊ぶのは少しも悪いことではありません。聖書は，エルサレムが「公共広場で遊ぶ男の子や女の子で満ちる」と述べています。—ゼカリヤ 8:5。

偉大な教え手は，遊んでいる子どもたちを見るのが好きでした。でも，地上に来る以前に，『わたしは優れた働き手として神のそばにいて，その前でつねに喜んだ』と言っておられます。イエスが天でエホバと一緒に働いていたことに注目してください。また，天におられた時，『わたしが親愛の情をいだく事柄は人の子らに関してであった』とも述べています。前にも学んだとおり，偉大な教え手はすべての人に深い関心をいだいていました。若い人に対してもそうでした。—箴言 8:30, 31。

偉大な教え手は地上に来る以前，どんなことを楽しく行なっていましたか

イエスは子どものころ，遊んだと思いますか。— たぶん，遊んだでしょうね。でも，天で「優れた働き手」だったということは，地上でも働いたということでしょうか。— イエスは「大工の息子」と呼ばれました。また，「大工」とも呼ばれました。このことから何が分かりますか。— イエスを息子として育てたヨセフがイエスに仕事を教えたにちがいないということです。ですからイエスも大工になりました。—マタイ 13:55。マルコ 6:3。

イエスはどんな大工だったと思いますか。— 天では優れた働き手でしたから，地上でも優れた大工になったと思いませんか。— そのころの大工の仕事がどんなにたいへんだったか，考えてみてください。たぶんイエスも，出かけて行って木を切りたおし，材

イエスは地上におられた時，どんな二つの仕事をしましたか

木にして家に運び，それでテーブルや長いすなどを作る必要があったでしょう。

イエスにとって，その仕事は楽しかったと思いますか。— 立派なテーブルやいすなど，人の役に立つ物を作れたら，うれしくなりませんか。— 聖書は，人が『自分の働きから喜びを得る』のは良いことだ，と言っています。働くことには，遊びからは得られない喜びがあります。—伝道の書 3:22。

実際，仕事は体の健康にも心の健康にも役立ちます。ただ座ってテレビを見たり，テレビゲームをしたりする子はおおぜいいます。そういう子たちは太り過ぎてしまい，体が弱くなります。ですから，ほんとうは幸福ではないのです。ほかの人を幸福にしてもいません。では，幸福になるためには，どんなことをする必要があるでしょうか。—

この本の17章で，人にあたえたり人の助けになることを行なったりすれば幸福になるということを学びましたね。（使徒 20:35）聖書はエホバを「幸福な神」と呼んでいます。（テモテ第一 1:11）そしてイエスは，箴言にもあったとおり，『神の前でつねに喜んで』いました。イエスが幸福だったのはなぜでしょうか。— イエスはその理由の一つを次のように説明しています。「わたしの父はずっと今まで働いてこられました。ですからわたしも働きつづけるのです」。—ヨハネ 5:17。

イエスは地上にいた間ずっと大工の仕事をしていたわけではありません。エホバ神はイエスに地上で特別な仕事をさせようと思っておられました。どんな仕事だったか分かりますか。— イエスはこう言いました。『わたしは神の王国の良いたよりを宣明しなければなりません。わたしはそのためにつかわされたからです』。（ルカ 4:43）イエスが人々に宣べ伝えた結果イエスを信じるようになった人が，イエスの語ったことをほかの人に伝えるということもありました。このさし絵にあるサマリアの女の人もそうしました。—ヨハネ 4:7-15,27-30。

イエスはその仕事をすることについてどう感じていたでしょうか。そうしたいという気持ちがあったと思いますか。— イエスはこう言っています。『わたしの

食物とは，わたしをつかわした方のご意志を行ない，そのみ業をなし終えることです』。（ヨハネ 4:34）気に入った食べ物を食べるのは，どれくらい好きですか。— そう考えると分かりますね。イエスは神からあたえられた仕事がとても好きだったのです。

神は，わたしたちが仕事を覚えることからも幸福を味わえるように造ってくださいました。そして，人間が一生懸命に仕事をして得られる喜びは神からのおくり物です，とおっしゃいました。ですから，若い時に仕事を覚えれば，生きていくことはいっそう楽しくなります。—伝道の書 5:19。

これは，幼い子どもも大人と同じ仕事ができるという意味ではありません。しかし，どんな人でも，何かできる仕事はあるものです。お父さんやお母さんは，家族が食べ物や住む家に困らないよう，お金を得るために来る日も来る日も働きに行きます。それに，家をきちんと清潔にしておくには，たくさん仕事をしなくてはなりません。そのことは，あなたも知っていますね。

家族みんなのためになることで，あなたにもできる仕事がありますか。— 食卓の用意を手伝うことができます。また，皿洗いをしたり，ごみを捨てに行ったり，自分の部屋を掃除したり，おもちゃを片づけたりすることもできます。このうちのどれかはもう，やっていることでしょう。その仕事はほんとうに家族のためになっています。

そのような仕事がどうして家族のためになっているか考えてみましょう。おもちゃで遊んだ後は，必ず片づけます。なぜこれは大切なことだと思いますか。— 家の中をきちんとしておけるからです。また，事故を防ぐこともできます。おもちゃを片づけないと，いつかうでにいっぱい物をかかえたお母さんが入って来て，おもちゃをふんでしまうかもしれません。お母さんはつまずいて，ころび，けがをするかもしれません。病院に行くことになるかもしれません。そうなったらたいへんですね。— ですから，おもちゃで遊んだ後に片づけるのは，みんなのためになるのです。

子どもには，仕事と言えるものがほかにもあります。例えば，学校の勉強です。学校では読むことを学びます。読むのは楽しいと思う子もいれば，難しいと言う子もいます。初めは難しそうでも，よく読めるようになると，楽しくなります。読むことができると，興味深いことをたくさん学べます。神の本である聖書を自分で読むことさえできるようになるのです。ですから，しっかりと学校の勉強をすることはほんとうにためになりますね。—

中には仕事をしたがらない人もいます。あなたもたぶんそういう人を知っているでしょう。でも，神は人間を働くようにお造りになったのですから，わたしたちはどうすれば仕事を楽しく行なえるかを学ぶ必要があります。偉大な教え手は仕事をどれほど楽しんだでしょうか。— 仕事をするのは自分の好きな食べ物を食べるようなものでした。イエスはどんな仕事について語っていたのでしょうか。— エホバ神について，また，どうすれば永遠の命を得られるかについて，人々に話す仕事です。

仕事を楽しむのに役立つことがあります。『この仕事はなぜ行なう必要があるのか』と自問してください。なぜ大切かが分かると，行ないやすくなります。また，大きな仕事も小さな仕事も，きちんと行なうようにしましょう。そうすれば，偉大な教え手と同じように，あなたも，自分が行なった仕事について喜ぶことができます。

聖書は，よく働く人になるのに役立ちます。聖書の次の言葉を読んでください。箴言 10:4; 22:29。伝道の書 3:12, 13。コロサイ 3:23。

おもちゃで遊んだあと，片づけるのはなぜ大切ですか

43章

わたしたちの兄弟姉妹とはだれのことですか

ある時，偉大な教え手は意外なことをおたずねになりました。「わたしの母とはだれですか。またわたしの兄弟たちとはだれのことですか」と聞いたのです。（マタイ 12:48）あなただったら，答えることができたでしょうか。— イエスのお母さんがマリアという名前だったことは知っていると思います。では，イエスの兄弟たちは何という名前だったか分かりますか。— イエスには妹たちもいましたか。—

聖書によると，イエスの兄弟たちは「ヤコブ，ヨセフ，シモン，ユダ」という名前でした。また，妹たちもいました。イエスが伝道していたころ，妹たちがいたことは確かです。イエスは最初に生まれましたから，あとはみなイエスより年下でした。—マタイ 13:55，56。ルカ 1:34，35。

イエスの兄弟たちも弟子だったのでしょうか。— 兄弟たちは最初，『かれに信仰を働かせていなかった』と聖書は述べています。（ヨハネ 7:5）しかし，あとで，ヤコブとユダが弟子になりました。二人は聖書の中の本まで書きました。どの本を書いたか分かりますか。— ヤコブの手紙とユダの手紙です。

イエスの妹たちの名前は聖書に出ていません。でも，少なくとも二人いたことが分かります。しかし，それより多かったかもしれません。妹たちはイエスの弟子になったのでしょうか。— そのことは聖書に書いてないので，分かりません。それにしても，イエスが「わたしの母とはだれですか。またわたしの兄弟たちとはだれのことですか」とたずねたのはなぜでしょうね。— 調べてみましょう。

イエスが弟子たちを教えていた時のことです。ある人が途中で口をはさんで，「あなたのお母さんと兄弟たちが外に立ってあなたに話そうとしています」と言

いました。そこでイエスは大切な教訓をあたえるためにその機会を用い，「わたしの母とはだれですか。またわたしの兄弟たちとはだれのことですか」と意外なことをたずねました。イエスは弟子たちのほうに手を差しのべると大きな声で，「ご覧なさい，わたしの母とわたしの兄弟たちです!」と言いました。これがその答えなのです。

それからイエスは，その答えの意味を説明し，こうおっしゃいます。「だれでも天におられるわたしの父のご意志を行なう人，その人がわたしの兄弟，また姉妹，また母なのです」。（マタイ 12:47-50）このことから，イエスが弟子たちにどれほど親しみを感じていたかが分かります。イエスにとって弟子たちは，実の兄弟や姉妹，お母さんのようだということを教えておられたのです。

そのころ，イエスの実の兄弟であるヤコブとヨセフとシモンとユダは，イエスが神のみ子だということを信じていませんでした。4人は，お母さんがみ使いガブリエルから聞いたことを信じていなかったにちがいありません。（ルカ 1:30-33）ですから，イエス

イエスは，だれが自分の兄弟や姉妹であると説明しましたか

に意地悪をしたかもしれません。そういうことをする人は**ほんとうの**兄弟姉妹ではありません。自分の兄弟か姉妹に意地悪をした人を知っていますか。—

聖書は,エサウとヤコブについて述べています。その記録によると,エサウはとても腹を立て,「わたしは兄弟ヤコブを殺してやる」と言いました。お母さんのリベカはたいへん心配して,エサウに殺されないようヤコブを遠くへ送り出しました。(創世記 27:41-46) しかし,長い年月ののちにエサウは変化し,ヤコブをだきしめて口づけしました。—創世記 33:4。

やがてヤコブは12人の息子を持つようになります。ヤコブの息子たちは弟のヨセフを愛していませんでした。ヨセフがお父さんにいちばんかわいがられていたので,ねたんでいたのです。それで,エジプトへ行く途中のどれい商人にヨセフを売り飛ばし,お父さんには,ヨセフは野獣に殺されたと言いました。(創世記 37:23-36) ひどい話ですね。—

のちになってヨセフの兄たちは,悪いことをしたと思うようになりました。それでヨセフはお兄さんたちを許してあげました。ヨセフがどんな点でイエスと似ているか分かりますか。— イエスが苦しい目にあっていた時,使徒たちはにげてしまい,ペテロなどは

カインがアベルに行なったことから,どんな教訓を学ぶべきですか

イエスを知らないとまで言いました。それでもイエスはヨセフのように，使徒たちみんなを許してあげました。

聖書にはカインとアベルという二人の兄弟のことも出ています。この二人からも教訓が学べます。神はカインが心では弟をほんとうに愛してはいないことをご存じでした。それで，カインに態度を改めるようにとおっしゃいました。カインがほんとうに神を愛していたら，その言葉に注意をはらったことでしょう。しかし，カインは神を愛していませんでした。ある日カインは，「さあ野に行こう」とアベルに言いました。アベルはカインについて行きました。野原で二人だけになると，カインは弟をひどくなぐって殺してしまいました。—創世記 4:2-8。

聖書は，そのことから特別な教訓を学ぶ必要がある，と述べています。どんな教訓だと思いますか。— こう書いてあります。『たがいに愛し合うこと，これが，あなた方が初めから聞いている音信です。カインのようであってはなりません。かれは邪悪な者から出ました』。ですから，兄弟や姉妹はたがいに愛し合うべきです。カインのようであってはなりません。—ヨハネ第一 3:11，12。

なぜカインのようであってはいけないのでしょう。— カインは『邪悪な者から出ている』，つまり悪魔サタンから出ていると聖書に書いてあるからです。カインは悪魔のようにふるまいましたから，悪魔はカインの父親のようなものでした。

自分の兄弟や姉妹を愛することがなぜ大切なのか，分かりましたか。— 兄弟や姉妹を愛さないなら，だれの子どもたちのまねをしていることになるでしょうか。— 悪魔の子どもたちです。そうなりたくはありませんね。— では，神の子どもになりたいと思っていることは，どうすれば証明できるでしょうか。— 自分の兄弟や姉妹をほんとうに愛することによってです。

でも，愛とは何ですか。— 愛とは，ほかの人のために良いことをしてあげたいという願いを生み出す，心のおく深くにある気持ちです。ほかの人を愛していると，その人に対して温かな気持ちをいだいたり，その人のために良いことをしてあげたりするようになります。わたしたちが愛さなくてはならない兄弟や姉妹と

はだれでしょうか。— 大きなクリスチャン家族を作り上げている人たちです，とイエスは教えてくださいましたね。

それらクリスチャンの兄弟姉妹たちを愛することはどれほど大切でしょうか。— 聖書は，「自分がすでに見ている兄弟[あるいは姉妹]を愛さない者は，見たことのない神を愛することはできない」と述べています。（ヨハネ第一 4:20）ですから，クリスチャン家族の中の数人だけを愛していればよいというわけではありません。兄弟姉妹たちすべてを愛さなければならないのです。イエスは，「あなた方の間に愛があれば，それによってすべての人は，あなた方がわたしの弟子であることを知るのです」と言いました。（ヨハネ 13:35）あなたは兄弟姉妹たちすべてを愛していますか。— もしそうでなければ，神をほんとうに愛することはできないということを忘れないでください。

兄弟や姉妹をほんとうに愛していることは，どのように示せるでしょうか。— 兄弟や姉妹を愛していれば，その人と話したくないので近づかない，ということはありません。どの兄弟や姉妹にも親しみを示し，いつも親切にし，喜んでいろいろなものを分け合います。また，困っている兄弟や姉妹がいたら，わたしたちはほんとうに一つの大きな家族なのですから，助けに行きます。

兄弟を愛していることを どのように示せますか

すべての兄弟や姉妹をほんとうに愛するなら，何を証明できますか。— わたしたちが偉大な教え手イエスの弟子であるということです。わたしたちはそのような弟子でいたいと思うのではないでしょうか。—

兄弟や姉妹たちに対する愛を示すことは次の聖句でも取り上げられています。自分の聖書を開いて読んでみてください。ガラテア 6:10。ヨハネ第一 4:8, 21。

44章

神を愛する人を友達にしてください

友達とは，この人と話がしたい，この人と一緒に時間を過ごしたいと思える人のことです。しかし，その人が良い友達であるのは重要なことです。では，わたしたちにとって最も良い友達はだれだと思いますか。— エホバ神ですね。

わたしたちはほんとうに神の友になれるのでしょうか。— 聖書によると，遠い昔に住んでいたアブラハムという人は「エホバの友」でした。（ヤコブ 2:23）どうしてだと思いますか。— 聖書は，アブラハムが神に**従った**からだと述べています。アブラハムは，難しいことを行なうように求められた時でも従いました。ですから，エホバの友になるには，アブラハムが行なったように，また偉大な教え手がいつも行なってこられたように，エホバに喜ばれることを行なわなければなりません。—創世記 22:1-14。ヨハネ 8:28，29。ヘブライ 11:8，17-19。

アブラハムが「エホバの友」だったのはなぜですか

イエスがエルサレムに行った時，よくこの家族の家にとまったのはなぜですか。この人たちの名前を知っていますか

イエスは使徒たちに，「**わたしが命令していることを行なうなら，**あなた方はわたしの友です」とおっしゃいました。（ヨハネ 15:14）イエスが人々に語ったことはみなエホバから来ていました。ですから，そこでイエスが言っていたのは，神から命じられたことを行なう人はイエスの友であるということです。実際，イエスの友人はみな神を愛していました。

偉大な教え手がとくに親しくしていた友人の中に，使徒たちがいます。使徒たちの絵は，この本の75ページにのっています。使徒たちはイエスと一緒に旅をし，イエスの伝道を助けました。イエスは使徒たちと多くの時間を過ごしました。一緒に食事をし，神について語り合いました。ほかにも，いろいろなことを一緒にしました。でもイエスには，使徒たち以外の友人もたくさんいました。その人たちの家によくとまっては，一緒に楽しく過ごしました。

イエスは，ある家族の家にとまるのが好きでした。その家族は，大きな都市エルサレムを少し出た所にあるベタニヤという小さな町に住んでいました。その家族のことを覚えていますか。— マリアとマルタ，それにこの人たちの兄弟で

あるラザロでしたね。イエスはラザロを友と呼びました。（ヨハネ 11:1, 5, 11）イエスがその家族を愛し，一緒にいることを楽しまれたのは，その人たちがエホバを愛してエホバに仕えていたからです。

だからと言って，イエスは神に仕えていない人たちに不親切だったわけではありません。イエスはそのような人たちにも親切でした。その人たちの家に行って一緒に食事をすることさえありました。それで，イエスのことを「収税人や罪人たちの友」と言う人もいました。（マタイ 11:19）でも実際のところ，イエスは，そうした人たちの生き方が好きなので行ったのではありません。エホバについて話してあげられるので，訪問したのです。イエスは，その人たちが悪い生き方を改めて，神に仕えるのを助けようとしました。

ある日，そのようなことがエリコ市で起きました。イエスはエルサレムに向かう途中，そこを通りかかりました。群がる人たちの中にザアカイという男の人がいました。ザアカイはイエスを一目見たかったのですが，背が低かったため，群衆にじゃまされてイエスが見えません。そこで道の先のほうへ走って行き，通り過ぎるイエスがよく見えるようにと，一本の木に登りました。

イエスはその木に近づくと，木を見上げて言いました。『急いで下りて来なさい。わたしは今日，あ

ザアカイはなぜこの木に登ったのですか

イエスがザアカイを訪問しているのはなぜですか。ザアカイはどんなことを約束していますか

なたの家に行くからです』。しかし，ザアカイは金持ちで，悪いことをしていました。なぜイエスはそのような人の家に行きたいと思われたのでしょうか。—

ザアカイの生き方が良いと思ったからではありません。ザアカイに神のことを話すために行ったのです。イエスは，ザアカイが一生懸命にイエスを見ようとしたのをご覧になり，この人はおそらく耳をかたむけるだろうと思われたのです。それは，神が命じておられる生き方についてザアカイに話す良い機会でした。

さて，そのあとはどうなりましたか。— ザアカイはイエスの教えを好むようになります。それで，人々をだましてきたことをたいへん申し訳なく思い，取ってはならなかったのに取ってしまったお金は必ず返す，と約束します。それから，イエスの弟子になります。そこではじめてイエスとザアカイは友達になりました。—ルカ 19:1-10。

わたしたちも偉大な教え手から学んだなら，自分の友達ではない人々を訪問することになるのでしょうか。— そうです。しかし，その人たちの家に行くのは，その生き方が良いと思うからではありません。また，その人たちと一緒になって悪いことをするつもりもありません。神について話すことができるように訪問するのです。

しかし，親しい友達とは一緒に時間を過ごしたいと強く願うものです。そういう友達でも，神に好まれるような人でなければ，良い友達とは言えません。中には，エホバがだれかということさえ知らない人もいますが，その人がエホバについて学びたいと思っているなら，助けてあげられます。そして，その人がわたしたちと同じくエホバを愛するようになったら，親しい友達になることができます。

ある人が良い友達になるかどうかを確かめる方法がもう一つあります。その人がしていることをよく見てください。他の人に意地悪なことをして，面白がっていますか。それは正しいことではありませんね。— その人はいつも問題を起こしていますか。そのような人と一緒になって問題を起こしたくはありませんね。— その人は，わざと悪いことをして，見つからなかったから自分は利口だ，と考えるような人ですか。たとえ見つからなくても，神はその人のしたことを見ておられますね。— そのようなことをする人は良い友達になると思いますか。—

聖書を開いてください。仲間がわたしたちの生活にどんなえいきょうをあたえるかについて，何と書いてあるか調べてみましょう。コリント第一15章33節です。開けましたか。— そこにはこう書いてあります。『まどわされてはなりません。悪い交わりは有益な習慣を損なうのです』。これは，もし悪い人たちと付き合うなら，わたしたちも悪くなるという意味です。一方，良い仲間は良い習慣を身につけるのを助けてくれるというのもほんとうです。

わたしたちの生活の中でいちばん重要な方はエホバであることを決して忘れないようにしましょう。エホバとの友情は台なしにしたくありませんね。— ですから，神を愛する人たちだけを友達にするよう，気をつけなければなりません。

次の聖句は良い友達の大切さを示しています。詩編 119:115。箴言 13:20。テモテ第二 2:22。ヨハネ第一 2:15。

45章

神の王国とは何ですか その支配を望んでいることを どのように示しますか

イエスが弟子たちに教えた祈りを知っていますか。— もし知らなければ，聖書を開いて一緒に読んでみましょう。マタイ6章9-13節です。この祈りはふつう，主の祈りと呼ばれています。その中に「あなたの王国が来ますように」という言葉があります。神の王国とはどんなものだと思いますか。—

王とは，国の支配者のことです。王が治める政府は王国と呼ばれます。政府のいちばん上にいる人を大統領と呼ぶ国もあります。神の政府の支配者は何と呼ばれますか。— 王です。ですから，神の政府は王国と呼ばれるのです。

エホバ神はご自分の政府の王としてだれを選んだと思いますか。— み子，イエス・キリストです。イエスはなぜ，人間が選ぶどんな支配者よりも優れているのでしょうか。— お父さんであるエホバをほんとうに愛しているからです。それでイエスはいつも正しいことを行ないます。

イエスが地上に来たのは，どんな仕事をするためですか

イエスがベツレヘムで生まれるずっと前に，聖書はイエスが生まれることや，支配者として神に選ばれることを述べていました。その点について，イザヤ9章6，7節を読んで調べてみましょう。そこにはこう書いてあります。『わたしたちのためにひとりの子どもが生まれ，わたしたちにひとりの男の子があたえられた。君としての**支配**がその肩に置かれる。そしてかれの名は***“平和の君”***と呼ばれるであろう。君としてのその豊かな**支配**と平和に終わりはない』。— 斜体は本書。

ここでイエスは，神の王国の支配者として，「君」と呼ばれています。イエスはまた，偉大な王エホバの息子です。しかしエホバはイエスをご自分の政府の王にもされました。その政府は千年にわたって地を支配します。（啓示 20:6）イエスはバプテスマを受けたのち，『伝道を開始して，「あなた方はくい改めなさい。天の王国は近づいたからです」と言い始めました』。—マタイ 4:17。

王国は近づいた，とイエスが言ったのはなぜだと思いますか。— 天で支配することになる王が，人々と一緒にこの地上におられたからです。イエスが人々に，「神の王国はあなた方のただ中にあるのです」と言ったのもそのためです。（ルカ 17:21）エホバによって王とされた方がすぐ近くにいて，さわれるほどだったらいいと思いませんか。—

ところで，イエスが地上に来たのはどんな重要な仕事を行なうためでしたか。— イエスはその質問にこう答えています。『わたしはほかの都市にも**神の王国の良いたよりを宣明しなければなりません**。わたしはそのためにつかわされたからです』。（ルカ 4:43）でもイエスは，伝道の仕事をぜんぶ自分一人で行なうことはできないのを知っていました。それで，どうしたと思いますか。—

イエスは人々を一緒に連れて行って，伝道の仕方を教えました。イエスが最初に訓練したのは，使徒として選んだ12人でした。（マタイ 10:5，7）しかし，この仕事をするようイエスが訓練したのは使徒たちだけだったでしょうか。そうではありません。聖書によると，ほかにもおおぜいの人を訓練しました。間もなくイエスは自分より先に，ほかの弟子たち70

人を二人ずつ組みにして送り出しました。その人たちはどんなことを教えたのでしょうか。— イエスはこうおっしゃいました。「『神の王国はあなた方の近くに来ました』と告げて行きなさい」。（ルカ 10:9）こうして神の政府のことが，人々の間で知られるようになりました。

ずっと昔，イスラエルでは，新しい王がロバの子に乗って都に入り，人々の前に姿を現わす習慣がありました。イエスはエルサレムを訪問して，ちょうどそのことを行なっているのです。イエスがエルサレムを訪問するのはこれが最後です。イエスは神の王国の支配者になります。でも人々は，イエスが王であってほしいと思うでしょうか。—

イエスがロバの子に乗ってやって来ると，群衆のほとんどは，道を進むイエスの前に自分たちの上着をしきます。木の枝を切って道にしく人々もいます。そのようにして，イエスが王であってほしいという気持ちを表わしているのです。また，大声で，「エホバのみ名によって王として来るのは祝福された者!」とさけびます。しかし，すべての人が喜んでいるわけではありません。実際，宗教指導者たちの中には，イエスに向かって，『あなたの弟子たちに静かにするよう命じてください』などと言う人もいます。—ルカ 19:28-40。

それから五日後，イエスはとらえられて，総督ポンテオ・ピラトの官邸に連れて行かれ，総督の前に引き出されます。イエスの敵たちが，イエスは自分のことを王だと言い張っているとか，イエスはローマ政府に反対しているとか言うので，ピラトはイエスに質問します。イエスは，ローマ政府を乗っ取ろうとしているのではないことを示し，ピラトに，「わたしの王国はこの世のものではありません」と言います。—ヨハネ 18:36。

そこでピラトは外へ出て行き，イエスには何も悪いところが見つからないと人々に告げます。しかし人々はもう，イエスが自分たちの王であってほしいとは思っていません。イエスが自由にされることは願っていません。（ヨハネ 18:37-40）ピラトはイエスと再び話しをしてから，イエスは何も悪いことをしていないと確信しました。それで結局，イエスを最後に外へ連れ出し，「見なさい。あなた

方の王だ!」と言います。しかし,人々は,「取り除け! 取り除け! 杭につけろ!」とさけびます。

イエスが王になることを望んでいた人々の気が変わったのはなぜですか

ピラトは,「わたしがあなた方の王を杭につけるのか」と聞きます。祭司長たちは,「わたしたちにはカエサルのほかに王はいません」と答えます。とても考えられないことです! その邪悪な祭司たちは人々をイエスの敵にならせることができました。—ヨハネ 19:1-16。

今の状況はその時とたいへんよく似ています。ほんとうはイエスが王になることを望まない人たちがほとんどです。神を信じると口では言うかもしれませんが,神やキリストから命令されることを望みません。この地上の自分たちの政府が支配することを望んでいるのです。

わたしたちはどうでしょうか。神の王国と，その王国が行なういろいろなすばらしいことについて学ぶと，神のことをどう思うようになるでしょうか。— 神を愛するようになりますね。— では，神をほんとうに愛していることと，神の王国の支配を望んでいるということを，どのように神に示せるでしょうか。—

それは，イエスの模範にならうことによって示せます。では，イエスはエホバを愛していることをどのように示したでしょうか。—『わたしはつねに，その方の喜ばれることを行ないます』とイエスはおっしゃいました。（ヨハネ 8:29）イエスが地上に来たのは『神のご意志を行ない，その仕事をなし終える』ためでしたね。（ヘブライ 10:7。ヨハネ 4:34）ではイエスが伝道の仕事を始める前に何をしたか考えてみましょう。

イエスはヨルダン川にいるバプテストのヨハネのところに行きました。二人は川の中に入って行きます。そこでヨハネが，イエスを水の中にすっかりしずめ，それから引き上げます。ヨハネがイエスにバプテスマをほどこしたのはなぜだと思いますか。—

イエスがヨハネにそうするようたのんだからです。しかし，神がイエスのバプテスマを望んでおられたことは，どうして分かるのでしょうか。— それは，イエスが水から上がった時，天から神の声がして，『あなたはわたしの子，わたしの愛する者である。

イエスがバプテスマを受けたのはなぜですか。神はそれをよいと認めたことを，どのように示されましたか

わたしはあなたをよいと認めた』と言うのが聞こえたからです。神は聖霊がはとの形を取ってイエスの上に下るようにもされました。このようにしてイエスは，バプテスマを受けることにより，生きる限り，つまり永遠にエホバに仕えたいと思っていることを示しました。—マルコ 1:9-11。

あなたはまだ子どもですが，将来は何をしたいと思っていますか。— イエスにならってバプテスマを受けますか。— イエスに見ならうのは大切なことです。聖書の中に，イエスは「あなた方がその歩みにしっかり付いて来るよう手本を残された」と書いてあるからです。（ペテロ第一 2:21）バプテスマを受けるなら，あなたは，自分が神の王国の支配をほんとうに望んでいることを示すことになります。でも，バプテスマを受けるだけではじゅうぶんではありません。

イエスの教えたことすべてを守る必要があります。イエスはわたしたちに，『世のものであってはならない』とおっしゃいました。この世の物事にかかわるとしたら，イエスに従っていることになるでしょうか。イエスや使徒たちはこの世の物事からはなれていました。（ヨハネ 17:14）では，どんなことをしたのでしょうか。— イエスも使徒たちも神の王国についてみんなに話しました。そのことは生活の中の重要な仕事でした。わたしたちも同じようにできますか。— できます。また，神の王国が来ることを心から真剣に祈り求めるなら，そのようにするはずです。

ほかにも次のような聖句を見ると，神の王国が来てほしいと思っていることを示すためにどんなことを行なったらよいかが分かります。マタイ 6:24-33; 24:14。ヨハネ第一 2:15-17; 5:3。

46章

世界が水によってほろびる ―再び起きますか

だれかが世の終わりについて話すのを聞いたことがありますか。―今は実際に多くの人がそういうことを話します。中には，人間が戦争で核兵器を使い，それで世界が終わってしまうと考える人たちもいます。でも，美しい地球を人間がほろぼしてしまうことを，神はお許しになるでしょうか。―

これまでに学んだとおり，聖書は世の終わりについて述べています。『世は過ぎ去りつつある』と聖書に書いてあります。（ヨハネ第一 2:17）世の終わりは地球の終わりのことだと思いますか。― そうではありません。聖書によると，神が地球を造られたのは，「**人が住むため**」，つまり

ノアの時代にほろぼされた世とは何でしたか

人々が地球に住んで楽しむためでした。（イザヤ 45:18）また，詩編 37編29節には，「義なる者たちは地を所有し，そこに永久に住むであろう」と書いてあります。ですから聖書には，地球は永遠に存在する，という言葉もあります。—詩編 104:5。伝道の書 1:4。

世の終わりが地球の終わりのことではないとすると，何のことなのでしょうか。— ノアの時代の出来事を注意深く調べると，答えが分かります。聖書には，『**その時の世は**，大洪水におおわれた時に**ほろびました**』と書いてあります。—ペテロ第二 3:6。

ノアの日，その大洪水があった時に，世の終わりを生き残った人がいたでしょうか。— 聖書によると，神は『不敬虔な人々の世に大洪水をもたらした時に義の伝道者ノアをほかの七人と共に安全に守られました』。—ペテロ第二 2:5。

そうすると，その時に終わった世とは何でしたか。地球でしたか。それとも悪い人々でしたか。—「**不敬虔な人々の世**」だったと聖書は述べていますね。さらに，ノアが「伝道者」と呼ばれていることにも注目してください。ノアはどんなことを伝道していたと思いますか。— ノアは「**その時の世**」が終わることについて人々に警告していました。

イエスは大洪水について述べた時，終わりが来るすぐ前に人々が何をしていたかを弟子たちに話しました。こうおっしゃいました。『洪水前のそれらの日，ノアが箱船に入る日まで，人々は食べたり飲んだり，結婚したりしていました。そして，**洪水が来てかれらすべてを流し去るまで注意しませんでした**』。それからイエスは，現在の世が終わる前にも人々は同じようなことをしているでしょう，とおっしゃいました。—マタイ 24:37-39。

イエスの言葉からすると，大洪水前に人々が行なっていたことを通して教訓を学べることが分かります。この本の10章には，そのころの人たちの行なったことが書いてありました。何を行なったか覚えていますか。— 弱い者いじめを

したり暴力をふるったりする人たちがいましたね。一方，イエスが語ったとおり，ノアが神からつかわされて伝道した時に耳をかたむけなかった人も，おおぜいいました。

それで，とうとうエホバは，悪い人々を洪水でほろぼす，とノアにお告げになりました。水が全地をおおい，山々さえかくれてしまうのです。エホバはノアに大きな箱船を造るようお命じになりました。それは，238ページのさし絵を見ると分かるように，大きくて長い箱のような船です。

神がノアに造るようお命じになった箱船は，ノアとその家族，そして動物の多くが，中で安全に過ごせるほど大きなものでした。ノアとその家族は一生懸命に働きました。大きな木を切りたおし，材木を使って箱船を造りはじめました。箱船はとても大きかったので，その仕事は何年も何年もかかりました。

箱船を造っていた何年もの間，ノアはさらにどんなことを行なったと思いますか。— 伝道して，大洪水が来ることを前もって人々に知らせました。耳をかたむける人がいたでしょうか。ノアの家族以外は，ひとりもいませんでした。人々は，することがほかにあっていそがしかったのです。イエスの言葉を覚えていますか。人々はどんなことをしていたとイエスは言われましたか。— 食べたり飲んだり結婚したりすることでいそがしくしていました。自分たちはそれほど悪いとは思わなかったので，ノアの言うことに耳をかたむける時間を取りませんでした。それでどうなったか，調べてみましょう。

ノアとその家族が箱船に入ったのち，エホバは箱船の戸を閉めました。それでも，箱船の外にいた人々は，大洪水が来ることを信じませんでした。しかし，突然，空から水が落ちてきました。ふつうの雨ではありません。ひどい大雨です。やがて，水は大きな川のようになって，ごうごうと流れ，大木をおしたおし，大きな石をまるで小石のようにころがしてゆきました。箱船の外にいた人々はどうなりましたか。— イエスは，『洪水が来て，かれらすべてを流し去った』とおっ

しゃいました。箱船の外にいた人はみな死にました。なぜでしょうか。— イエスが言われたとおり,『注意しなかった』からです。人々は耳をかたむけなかったのです。—マタイ 24: 39。創世記 6:5-7。

では,もう一度考えてみてください。イエスは,その人たちに生じたことから,今のわたしたちに役立つ教訓が得られる,と言われましたね。どんな教訓が得られるのでしょうか。— その人たちがほろぼされたのは,単に悪い人だったからというだけではありません。多くの人はいそがしすぎて,神や神が行なおうとしていることについて学ぶ時間を取らなかったのです。その人たちのようにならないために,よく注意をはらう必要がありますね。—

神は世界を洪水によって再びほろぼすと思いますか。— そのようなことはありません。神はそうしないと約束しておられます。エホバは,『わたしのにじを,わたしは雲の中に確かにあたえる。それはしるしとなる』と言われました。エホバの言葉によれば,にじは,『もはや水が大洪水となってすべての肉なるものをほろぼすことはない』ということのしるしとなります。—創世記 9:11-17。

ですから,神が洪水によって世界をほろぼすことは二度とありません。そう確信することができます。しかし,これまで調べてきて分かったように,聖書は確かに世の終わりについて述べています。この世をほろぼす時,神はどのような人たちの命を守られるのでしょうか。— ほかのことに関心を持ちすぎて,神についてまったく学ぼうとしなかった人たちでしょうか。

楽しむことだけを考えているのは,なぜよくありませんか

いつもいそがしくて聖書の勉強をするひまのなかった人でしょうか。どう思いますか。—

わたしたちは，神に命を守っていただける人になりたいですね。— わたしたちの家族もノアの家族のようにして，全員が神に救っていただけたら，すばらしいと思いませんか。— 世の終わりを生き残るには，神がどのように世をほろぼし，義の宿る新しい世をもたらすかということを理解する必要があります。神がどのようになさるのか，調べてみましょう。

聖書のダニエル 2章44節にその答えがあります。その聖句は今の時代についてこう述べています。『それらの王たちの日に，天の神は決してほろびることのないひとつの王国[つまり，政府]を立てられます。そして，その王国はほかのどんな民にもわたされることはありません。それはこれらのすべての王国を打ちくだいて終わらせ，それ自体は定めのない時に至るまで続きます』。

どういうことか分かりますか。— 聖書は，神の政府が地上の政府をぜんぶほろぼすと言っているのです。なぜですか。— 地上の政府は神が王に任命した方に従わないからです。その王とはだれのことでしたか。— そのとおりです。イエス・キリストでしたね。

エホバ神はどんな政府が支配すべきかを決める権利を持っておられ，み子イエスを王に選ばれました。まもなく，神によって選ばれた支配者イエス・キリストは先頭に立って，この世の政府をぜんぶほろぼします。聖書の啓示 19章11–16節には，それを行なっているイエスの様子がえがかれています。それがこの絵です。聖書の中で，この世の政府ぜんぶをほろぼす神の戦争はハルマゲドンと呼ばれています。

神はご自分の王国が人間の政府をほろぼすと言っておられます。でも，わたしたちにそうするよう命じておられるのでしょうか。— そうではありません。聖

書の中で，ハルマゲドンは「全能者なる神の大いなる日の戦争」と呼ばれています。（啓示 16:14，16）ハルマゲドンは神の戦争なのです。そして神は，戦いで天の軍勢の指揮をするようイエス・キリストをお用いになります。ハルマゲドンの戦いは近いのでしょうか。どうすればそれが分かるか調べてみましょう。

神が邪悪な人々をすべて取り除き，ご自分に仕える人々をお救いになる時のことを述べている，次の聖句を一緒に読みましょう。箴言 2:21，22。イザヤ 26:20，21。エレミヤ 25:31-33。マタイ 24:21，22。

神から選ばれた王，イエス・キリストはハルマゲドンでこの世をほろぼします

47章

ハルマゲドンが近いと，どうして言えますか

しるしとはどんなものか知っていますね。— 神がおあたえになったしるしについて，46章で学びました。それは，洪水で世界をほろぼすことは二度とない，ということを示すしるしでした。また，使徒たちも，イエスがもどって来た時と，世の終わり，つまり事物の体制の終わりが近づいた時を知るためにしるしを求めました。—マタイ 24:3。

イエスが支配し始めたことを知るには，目に見えるしるしが必要でした。イエスは天に行き，人間の目には見えなくなるからです。そこでイエスは，弟子たちがこの地上で見張っている必要のあるいくつかの事柄について話します。そのようなことが生じたなら，イエスがもどって来て，天で王として支配し始めたことが分かります。

イエスは，ずっと見張っていることの大切さを弟子たちに教えるため，こう言いました。『いちじくの木やほかのす

イエスは，いちじくの木について話すことによって，どんな教訓をあたえようとしていましたか

べての木をよく見なさい。それらがすでに芽を出し始めたなら，あなた方は**それを観察して**，もう夏の近いことを自分で知ります』。夏が近づいたと言えるのはどうしてか，分かりますね。イエスの言ったことが起きるのを見たなら，ハルマゲドンは近いと言えるのです。—ルカ 21:29，30。

このページと次のページにあるいくつかの絵を見てみましょう。それは，神の王国が近いことのしるしとしてイエスが語った事柄をえがいたものです。これらのことがぜんぶ起き

5
6
4

ると，46章で学んだように，キリストを支配者とする神の王国は，ほかの政府をすべて打ちくだきます。

ですから，前のページとその前のページにある絵を注意深く見てください。ここにあるいろいろな絵について考えましょう。えがかれているのは，マタイ24章6-14節とルカ21章9-11節に書いてある事柄です。それぞれの絵についている小さな数字を見てください。絵の数字と同じ数字で始まる段落に，その絵の説明があります。ではこれから，イエスがおあたえになったしるしの多くの部分がいま成就しているかどうか，調べてみましょう。

（1）イエスはこう言いました。**『あなた方は戦争のこと，また戦争の知らせを聞きます。国民は国民に，王国は王国に敵対して立ち上がります』**。戦争の知らせを聞いたことがありますか。— 1914年から1918年まで第一次世界大戦が行なわれ，その後1939年から1945年にかけて第二次世界大戦がありました。それまでに世界戦争は一度もありませんでした。今は世界のあちこちで戦争が行なわれています。戦争のニュースは，テレビやラジオや新聞を通して毎日のように見聞きします。

（2）イエスはまた，**『そこからここへと食糧不足があります』**と言いました。知っているかもしれませんが，どんな人にも食物がじゅうぶんあるというわけではありません。じゅうぶんな食物がないために，毎日とてもおおぜいの人が死んでいます。

（3）イエスはさらに，**『そこからここへと疫病があります』**と言いました。疫病とはどういうものか知っていますか。— 多くの人の命をうばう病気のことです。スペインかぜと呼ばれたひどい疫病だけで，わずか1年ほどの間におよそ2,000万人が死にました。現代では，それより多くの人がエイズで死ぬことになるでしょう。また，毎年がんや心臓病などの病気が，幾百万人もの命をうばっています。

（4）イエスはしるしのもう一つの面について述べ，**『そこからここへと地震があります』**と言いました。地震とはどんなものか知っていますか。— 地震が起こると，足もとの地面がゆれます。家がたおれ，しばしば人が死にます。1914年以来，毎年多くの地震が起きています。地震について聞いたことがありますか。—

（5）イエスによると，**『悪い行ないがますます多くなる』**のもしるしの一部です。ですから今は，ぬすみや暴力事件がとても多いのです。あちらでもこちらでも人々は，だれかが家におし入ってくるのではないかと心配しています。世界のいたる所でこれほど多くの犯罪や暴力事件が起きたことは，これまでにありませんでした。

（6）イエスは，しるしのとても重要な面について，次のように説明しました。「**王国のこの良いたよりは，あらゆる国民に対する証しのために，人の住む全地で宣べ伝えられるでしょう。それから終わりが来るのです**」。（マタイ 24：14）「この良いたより」を信じているなら，それについてみんなに話す必要があります。そうすれば，あなたも，しるしのこの面を成就する活動に参加することができます。

イエスが予告した事柄はいつの時代にもあったと言う人がいるかもしれません。しかし，そうしたことが**ぜんぶ**，世界のあちこちで同じ時に起きたことは一度もありません。では，そのしるしの意味を理解できましたか。— これらのことがぜんぶ起きるのを見たなら，この邪悪な世に代わって間もなく神の新しい世が来るという意味です。

イエスはこのしるしをあたえた時，一つの季節の名前も挙げました。『あなた方のにげるのが冬の時期にならないように祈っていなさい』と言われたのです。（マタイ 24：20）どういう意味でそう言われたと思いますか。—

冬の時期に避難しなければならないとしましょう。冬は天候が悪くて旅行す

るのはとてもたいへんです。危険な場合さえあります。さあ，どんなことになるでしょうか。— たとえ避難できたとしても，たいへん苦労することでしょう。いそがしすぎて出発がおくれてしまい，冬のあらしで死ぬ人がいたとしたら，残念だと思いませんか。—

にげるのを冬の時期まで延ばしてはならないというイエスの言葉の意味が分かりましたか。— わたしたちはハルマゲドンが近いことを知っているのですから，神に仕えて神への愛を証明するという行動をおくらせてはならない，ということです。おくらせると，間に合わなくなるかもしれません。そうすると，大洪水の時にノアの警告を聞いても箱船に入らなかった人々のようになってしまうでしょう。

では次に，ハルマゲドンという大いなる戦争が終わったらどうなるかについて話しましょう。神は，今ご自分を愛し，ご自分に仕える人々すべてのためにどのようなことを用意しておられるのでしょうか。その点についてこれから学びましょう。

ハルマゲドンが近いことは，次の聖句からも分かります。テモテ第二 3:1-5。ペテロ第二 3:3，4。

イエスは，冬の時期に避難しようとすることについて述べたとき，どんな教訓をあたえようとしていましたか

48章

神の平和な新しい世
― あなたもそこに住むことができます

神はアダムとエバをエデンの園に置きました。二人は不従順になって死にましたが，神はアダムとエバの子孫が楽園で永遠に生きられるようにしてくださいました。今日のわたしたちもその中にふくまれています。聖書はこう約束しています。『正しい者たちは地を所有し，そこに永久に住むであろう』。―詩編 37:29。

聖書は「新しい天」と「新しい地」について述べています。（イザヤ 65:17。ペテロ第二 3:13）現在の「天」は今日の人間のさまざまな政府で構成されていますが，「新しい天」はイエス・キリスト，および天でイエス・キリストと一緒に支配する人々で構成されます。この新しい天，つまり平和をもたらす，神の義の政府が全地を支配するというのは，何とすばらしいことでしょう。

では，「新しい地」とは何でしょうか。― 新しい地になるのは，エホバを愛する良い人々です。実は，聖書の中ではときどき，地球そのものではなく，地球上に住む人々が「地」と呼ばれています。（創世記 11:1。詩編 66:4; 96:1）ですから，新しい地を構成する人々はこの地球上に住むのです。

その時，現在の邪悪な人々の世は無くなっています。思い出してください。ノアの時代の大洪水で，人間の邪悪な世がほろぼされましたね。そして，すでに学んだように，現在の邪悪な世はハルマゲドンでほろぼされます。ではこれから，ハルマゲドン後の神の新しい世での生活がどのようなものかを調べてみましょう。

あなたは，神の平和な新しい世の楽園で永遠に生きたいと思いますか。―人間を永遠に生き続けさせることができる医師は一人もいません。いつまでも

イザヤ 11章6-9節とイザヤ 65章25節を読むと，動物たちが仲良く暮らすようになることが分かります。この絵を見てください。子羊，子ヤギ，ヒョウ，子牛，大きなライオンがいますね。子どもたちがそのような動物たちと一緒にいます。この絵の中には，聖書に出てくる動物がほかにもいます。何という動物か分かりますか。—

コブラと遊んでいる男の子を見てください。新しい世に住む人は何もおそれる必要がありません。（ホセア 2:18）そのことをどう思いますか。—

それから，あらゆる人種の人々が平和に過ごしていることに注目してください。みんなが愛し合っています。イエスはご自分の弟子たちはみな愛し合うと述べましたね。（ヨハネ 13:34，35）武器は地を耕す道具に作り変えられていますね。聖書は，人々が神の新しい世で経験するすばらしい平和と安全について述べています。それについては，次のような聖句を読んで確かめることができます。詩編 72:7。イザヤ 2:4；32:16-18。エゼキエル 34:25。

このページの人々を見てください。地球を手入れの行き届いた美しい所にしています。人々が建てているりっぱな家や，いろいろなおいしい果物や野菜も見てください。地球はエデンの園のような楽園になっています。こうしたすばらしいことについては，次の聖句を読んで確かめることができます。詩編 67:6; 72:16。イザヤ 25:6; 65:21-24。エゼキエル 36:35。

この絵にあるように，人々はみな健康で幸福です。だれもが，シカのようにとびはねることができます。足の不自由な人や目の見えない人，病気の人は一人もいません。そして，向こうに見えるのは，なんと死人の中からよみがえった人々です。こうしたことは聖書の中の次の部分に記されています。イザヤ 25:8; 33:24; 35:5, 6。使徒 24:15。啓示 21:3, 4。

死なないようにする薬もありません。永遠に生き続けるための唯一の方法は，神に近づくことです。偉大な教え手は，そのためにはどうすればよいかを教えておられます。

聖書のヨハネ17章3節を開きましょう。そこには偉大な教え手の次のような言葉が記されています。『かれらが，唯一まことの神であるあなたと，あなたがおつかわしになったイエス・キリストについての知識を取り入れること，これが永遠の命を意味しています』。

さあ，永遠に生きるためには何をする必要があるとイエスはおっしゃいましたか。― まず，天のお父さんであるエホバと，わたしたちのために命をあたえてくださったみ子についての知識を取り入れなければなりません。それは，聖書を研究する必要があるということです。「偉大な教え手から学ぶ」というこの本はそうするのに役立ちます。

しかし，エホバについて学ぶことがどうして，永遠に生きる助けになるのでしょうか。― わたしたちには，毎日食べ物が必要なように，毎日エホバについて学ぶことが必要なのです。「人は，パンだけによらず，エホバの口から出るすべてのことばによって生きなければならない」と聖書は述べています。―マタイ4:4。

イエス・キリストについての知識を取り入れる必要もあります。神は人間の罪を取り除くためにみ子をつかわしてくださったからです。聖書は，「ほかのだれにも救いはありません」と述べています。さらに，「み子に信仰を働かせる者は永遠の命を持っている」とも述べています。（使徒4:12。ヨハネ3:36）では，「信仰を働かせる」とはどういう意味でしょうか。― イエスを心から信じ，イエスがいなければ永遠に生きられないことを知っているという意味です。わたしたちはそう信じているでしょうか。― 信じているなら，これからも毎日，偉大な教え手から学び，偉大な教え手の言われることを行なってゆくでしょう。

偉大な教え手から学ぶ

偉大な教え手から学ぶ一つのよい方法は，この本を何度もくり返して読み，ぜんぶのさし絵をよく見て考えることです。さし絵に付いている質問に答えられるかどうか，試してみてください。また，この本をお母さんかお父さんと一緒に読んでください。それができない場合は，ほかの大人の人かお友達と一緒に読んでください。神の新しい世で永遠に生きるために必要な事柄を偉大な教え手から学ぶよう，ほかの人を助けることができたら，ほんとうにすばらしいと思いませんか。—

聖書は，『世は過ぎ去りつつある』と述べています。でも，その次に，神の新しい世で永遠に生きるためにはどうすればよいかということも述べています。「神のご意志を行なう者は永久にとどま(る)」と書いてあるのです。（ヨハネ第一2:17）では，どうすれば神の新しい世で永遠に生きられますか。— エホバとその愛するみ子イエスについての知識を取り入れることが必要でしたね。しかし，学んだことを行なう，つまり実行する必要もあります。この本の勉強が，そうしたことに役立つよう心から願っています。

詳しい情報を得たい方は www.jw.org をご覧になるか，
エホバの証人(Jehovah's Witnesses)にご連絡ください。